



利府町男女共同参画社会に関する アンケート調査結果報告



令和4年3月

利府町町民生活部生活環境課

目 次

1 調査の概要	1
2 男女共同参画社会に関する住民意識調査結果(個人)	2
(1)属性等	2
(2)「第3次利府町男女共同参画基計画」.....	6
(3)男女平等の意識	6
(4)結婚観、家庭生活	10
(5)教育.....	18
(6)職業.....	19
(7)人権.....	27
(8)地域活動.....	31
(9)男女共同参画社会を実現するために必要な取り組み.....	32
3 男女共同参画社会に関する事業所アンケート調査結果(法人)	34
(1)属性等	34
(2)「第3次利府町男女共同参画基本計画」.....	38
(3)募集・採用.....	39
(4)配置・昇進	41
(5)セクシュアル・ハラスメント.....	43
(6)育児・介護等.....	44
(7)パートタイム等	49
(8)女性の積極的活用	50
(9)男女共同参画社会の実現するための取り組み.....	51
4 男女共同参画社会についての意見、要望	52

1. 調査の概要

① 調査の目的

町民の家庭、職場などの日常生活の様々な場面における行動実態や男女平等の意識を把握・分析し、第3次利府町男女共同参画基本計画の推進状況を確認し、今後の事業の参考とする。

② 調査の対象及び抽出方法

個人:18歳以上80歳未満の町民1,000名(無作為抽出)

法人:町内の従業員5名以上の商工業者、農協、企業など200社(無作為抽出)

③ 調査の実施時期

令和3年10月29日から11月30日まで

④ 調査方法

配布:郵送

回収:郵送及びWeb

⑤ 回収・集計状況

	配布数	回収数	回収率 (回収数/配布数)
個人	1,000 通	460 通 内、郵送 328 通 Web 132 通	46.0%
法人	200 通	67 通 内、郵送 60 通 Web 7 通	33.5%
計	1,200 通	527 通	43.9%

⑥ 調査報告書の見方

・図表における数値の表記は、小数点以下第2位で四捨五入しているため、各回答の合計が100%にならない場合がある。

・複数回答の設問では、回答者数に対する比率を示している。

・男女別に集計している図表については、性別無記名の回答があるため、回答数と一致しない場合がある。

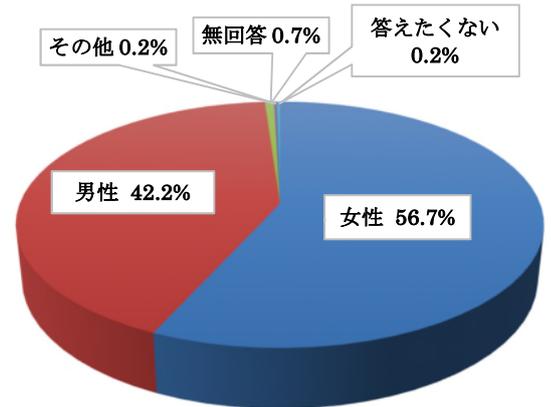
2. 男女共同参画社会に関する住民意識調査結果（個人）

（1）属性等

問1 【性別】

回答者の性別は、女性 56.7%、男性 42.2%となっており、前回調査と同様、男性の関心が低く、女性の関心が高い傾向である。

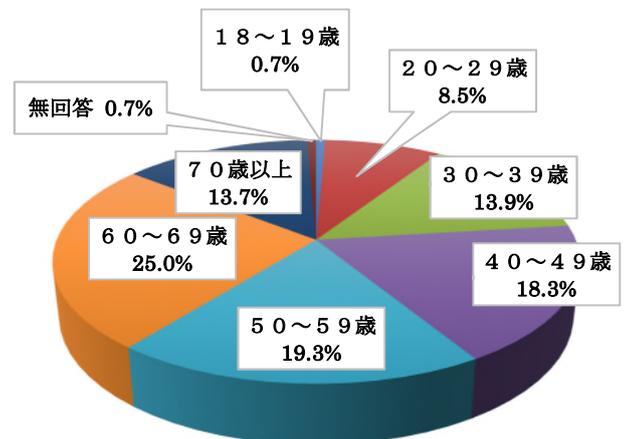
選択項目	今回		前回	
	回答数	構成比	回答数	構成比
女性	261	56.7%	219	56.4%
男性	194	42.2%	155	39.9%
無回答	3	0.7%	14	3.6%
その他	1	0.2%	-	-
答えたくない	1	0.2%	-	-
計	460	100%	388	100.0%



問2 【年齢】

回答者の年齢は、「60～69歳」「50～59歳」「40～49歳」で割合が高くなっている。

選択項目	今回		前回	
	回答数	構成比	回答数	構成比
18～19歳	3	0.7%	4	1.0%
20～29歳	39	8.5%	33	8.5%
30～39歳	64	13.9%	66	17.0%
40～49歳	84	18.3%	61	15.7%
50～59歳	89	19.3%	70	18.0%
60～69歳	115	25.0%	95	24.5%
70歳以上	63	13.7%	48	12.4%
無回答	3	0.7%	11	2.8%
計	460	100.0%	388	100.0%

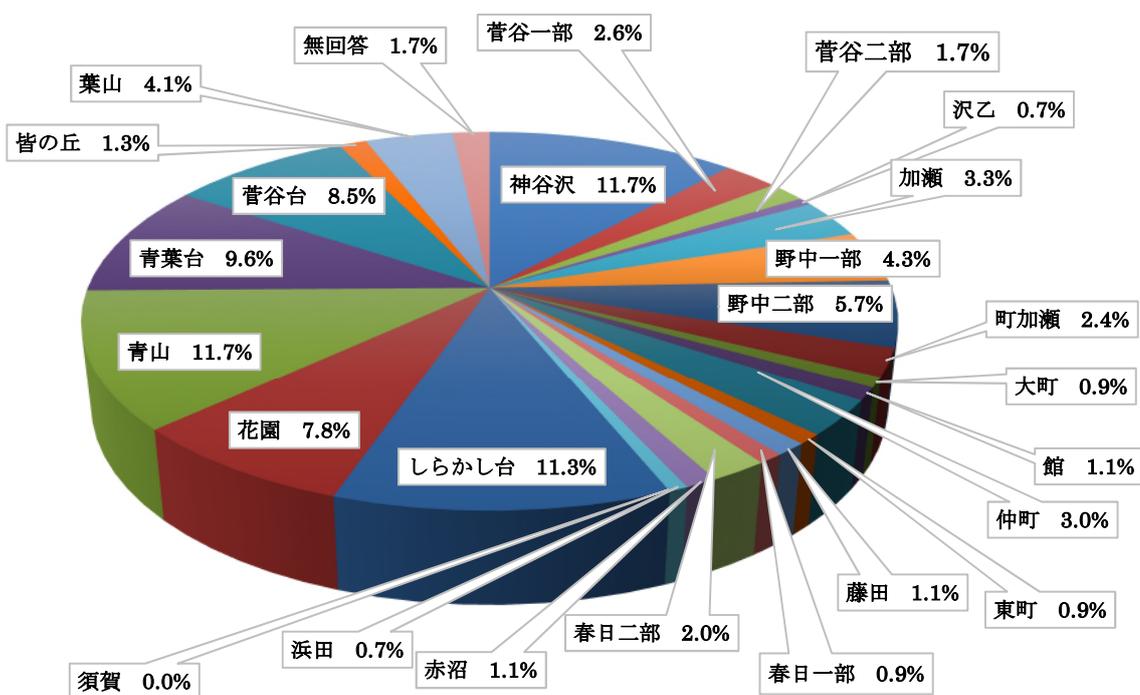


問3 【居住地区】

新興住宅地以外にお住まいの方は全体の44.1%、新興住宅地は54.3%となっており、前回調査同様、新興住宅地の割合が多くなっている。

※振興住宅地…しらかし台、花園、青山、青葉台、菅谷台、皆の丘、葉山

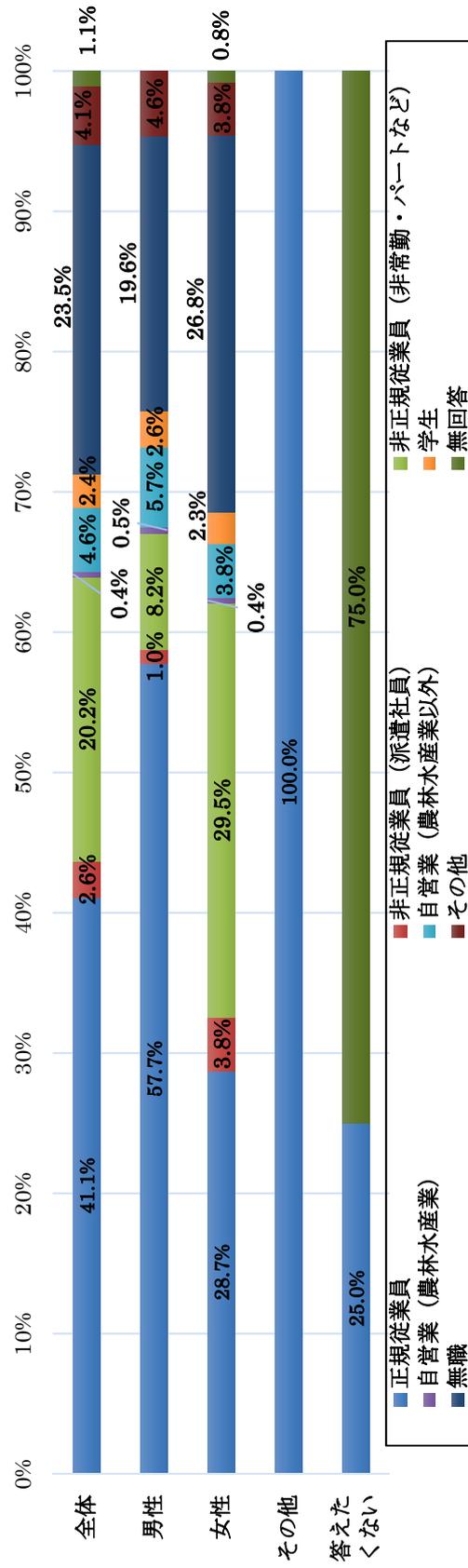
選択項目	今回		前回		行政区	今回		前回	
	回答数	構成比	回答数	構成比		回答数	構成比	回答数	構成比
神谷沢	54	11.7%	47	12.1%	春日一部	4	0.9%	2	0.5%
菅谷一部	12	2.6%	8	2.1%	春日二部	9	2.0%	5	1.3%
菅谷二部	8	1.7%	6	1.5%	赤沼	5	1.1%	1	0.3%
沢乙	3	0.7%	7	1.8%	浜田	3	0.7%	2	0.5%
加瀬	15	3.3%	7	1.8%	須賀	0	0.0%	3	0.8%
野中一部	20	4.3%	19	4.9%	しらかし台	52	11.3%	36	9.3%
野中二部	26	5.7%	18	4.6%	花園	36	7.8%	28	7.2%
町加瀬	11	2.4%	13	3.4%	青山	54	11.7%	48	12.4%
大町	4	0.9%	5	1.3%	青葉台	44	9.6%	30	7.7%
館	5	1.1%	5	1.3%	菅谷台	39	8.5%	41	10.6%
仲町	14	3.0%	15	3.9%	皆の丘	6	1.3%	3	0.8%
東町	4	0.9%	5	1.3%	葉山	19	4.1%	20	5.2%
藤田	5	1.1%	3	0.8%	無回答	8	1.7%	11	2.8%
					計	460	100.0%	388	100.0%



問4 【職業】

全体では、職業を持っている方は68.9%、職業を持っていない方は30.0%となっている。男女別では、「男性」で職業を持っている方は、男性全体の73.1%で、「正規従業員」が57.7%と高い割合となっている。一方「女性」で職業を持っている方は、女性全体の66.2%で、「非正規従業員」が29.5%と最も多く、次いで「無職」が26.8%となっている。

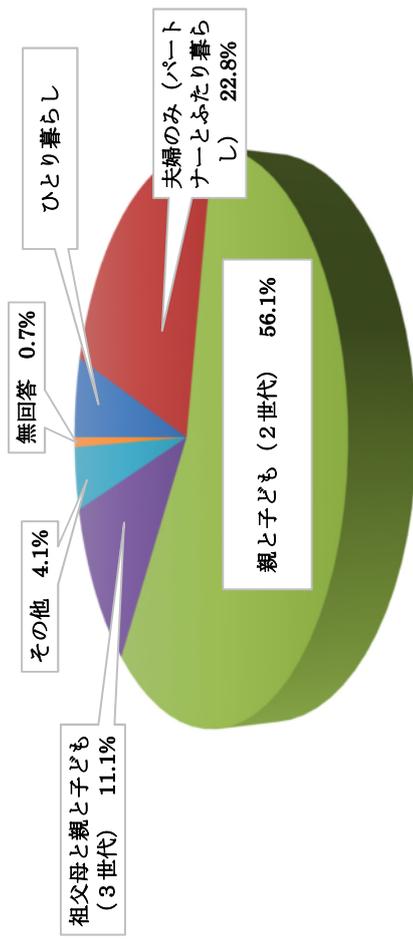
選択項目	全体		男性		女性		その他	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
正規従業員	189	41.1%	112	57.7%	75	28.7%	1	25.0%
非正規従業員（派遣社員）	12	2.6%	2	1.0%	10	3.8%	0	0.0%
非正規従業員（非常勤・パートなど）	93	20.2%	16	8.2%	77	29.5%	0	0.0%
自営業（農林水産業）	2	0.4%	1	0.5%	1	0.4%	0	0.0%
自営業（農林水産業以外）	21	4.6%	11	5.7%	10	3.8%	0	0.0%
学生	11	2.4%	5	2.6%	6	2.3%	0	0.0%
無職	108	23.5%	38	19.6%	70	26.8%	0	0.0%
その他	19	4.1%	9	4.6%	10	3.8%	0	0.0%
無回答	5	1.1%	0	0.0%	2	0.8%	3	75.0%
計	460	100.0%	194	100.0%	261	100.0%	4	100.0%



問5 【家族構成】あなたの世帯構成は、次のうちどれですか。

「2世代世帯」の割合が56.1%と最も高く、次いで「夫婦のみ（パートナーとふたり暮らし）」の割合が22.8%と高く、前回調査とほぼ同様の結果となっている。

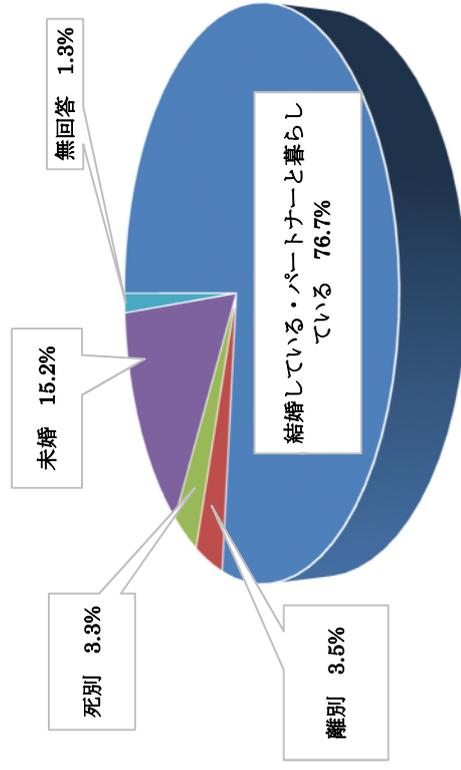
選択項目	今回		前回	
	回答数	構成比	回答数	構成比
ひとり暮らし	24	5.2%	13	3.4%
夫婦のみ（パートナーとふたり暮らし）	105	22.8%	97	25.0%
親と子ども（2世代）	258	56.1%	175	45.1%
祖父母と親と子ども（3世代）	51	11.1%	45	11.6%
その他	19	4.1%	49	12.6%
無回答	3	0.7%	9	2.3%
計	460	100.0%	388	100.0%



問6 【結婚】あなたは結婚（婚姻届を出していない場合も含む）していますか。

「結婚している・パートナーと暮らしている」の割合が76.7%と大半を占め、前回調査とほぼ同様の結果となっている。

選択項目	今回		前回	
	回答数	構成比	回答数	構成比
結婚している・パートナーと暮らしている	353	76.7%	298	76.8%
離別	16	3.5%	11	2.8%
死別	15	3.3%	13	3.4%
未婚	70	15.2%	48	12.4%
無回答	6	1.3%	18	4.6%
計	460	100.0%	388	100.0%

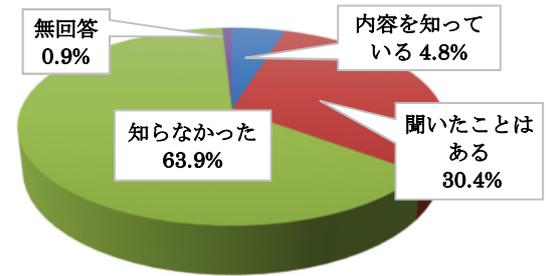


(2) 第3次利府町男女共同参画基本計画

問7 第3次利府町男女共同参画基本計画を知っていますか

計画について、「内容を知っている」が4.8%、「聞いたことはある」と合わせると35.2%であった。

選択項目	今回		前回	
	回答数	構成比	回答数	構成比
内容を知っている	22	4.8%	51	13.1%
聞いたことはある	140	30.4%	120	30.9%
知らなかった	294	63.9%	200	51.5%
無回答	4	0.9%	17	4.4%
計	460	100.0%	388	100.0%



(3) 男女平等の意識

問8 あなたは、男女平等についてどのように思いますか。

「男性の方が非常に優遇されている」では、「(エ) 政治の場」で割合が34.8%と最も高い。「どちらかといえば男性が優遇されている」では、「(イ) 職場」「(エ) 政治の場」「(オ) 法律や制度上」

「(カ) 社会通念・習慣・しきたり」「(キ) 社会全体」で割合が最も高くなっており、前回の調査とほぼ同様の結果となっている。これに対し、「平等」では、「(ア) 家庭生活」「(ウ) 学校教育の場」で割合が高く、こちらも前回調査とほぼ同様の調査結果となっている。

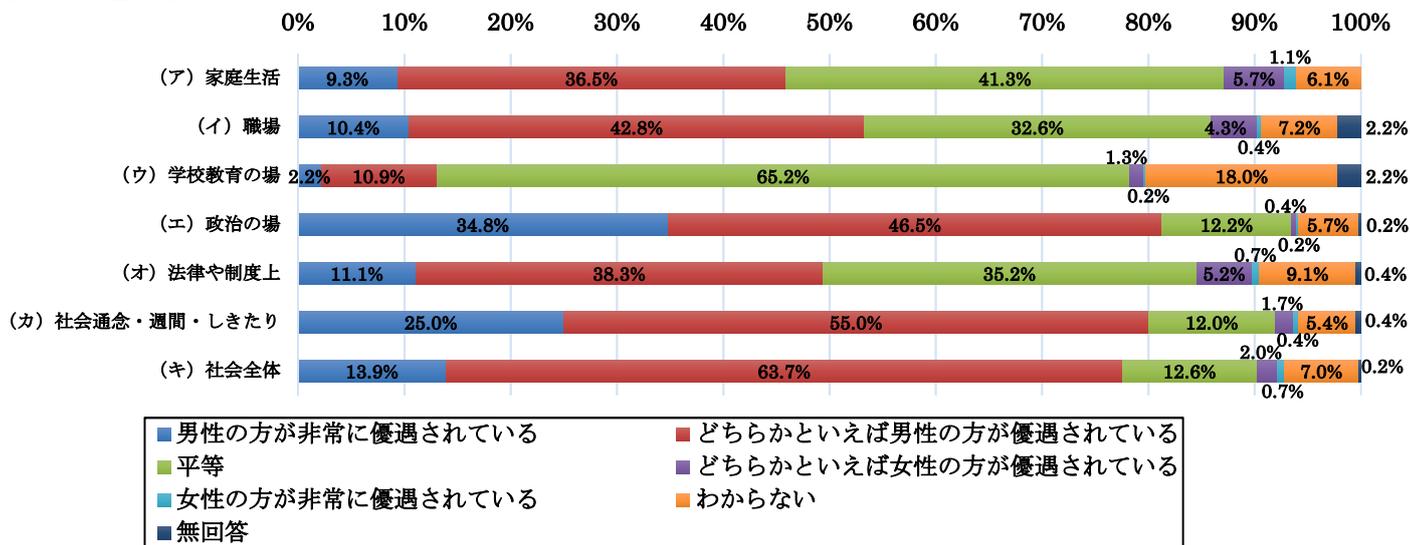
【今回 全体】

選択項目	(ア) 家庭生活		(イ) 職場		(ウ) 学校教育の場		(エ) 政治の場		(オ) 法律や制度上		(カ) 社会通念・習慣・しきたり		(キ) 社会全体	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
男性の方が非常に優遇されている	43	9.3%	48	10.4%	10	2.2%	160	34.8%	51	11.1%	51	11.1%	64	13.9%
どちらかといえば男性の方が優遇されている	168	36.5%	197	42.8%	50	10.9%	214	46.5%	176	38.3%	176	38.3%	293	63.7%
平等	190	41.3%	150	32.6%	300	65.2%	56	12.2%	162	35.2%	162	35.2%	58	12.6%
どちらかといえば女性の方が優遇されている	26	5.7%	20	4.3%	6	1.3%	2	0.4%	24	5.2%	24	5.2%	9	2.0%
女性の方が非常に優遇されている	5	1.1%	2	0.4%	1	0.2%	1	0.2%	3	0.7%	3	0.7%	3	0.7%
わからない	28	6.1%	33	7.2%	83	18.0%	26	5.7%	42	9.1%	42	9.1%	32	7.0%
無回答	0	0.0%	10	2.2%	10	2.2%	1	0.2%	2	0.4%	2	0.4%	1	0.2%
計	460	100.0%	460	100.0%	460	100.0%	460	100.0%	460	100.0%	460	100.0%	460	100.0%

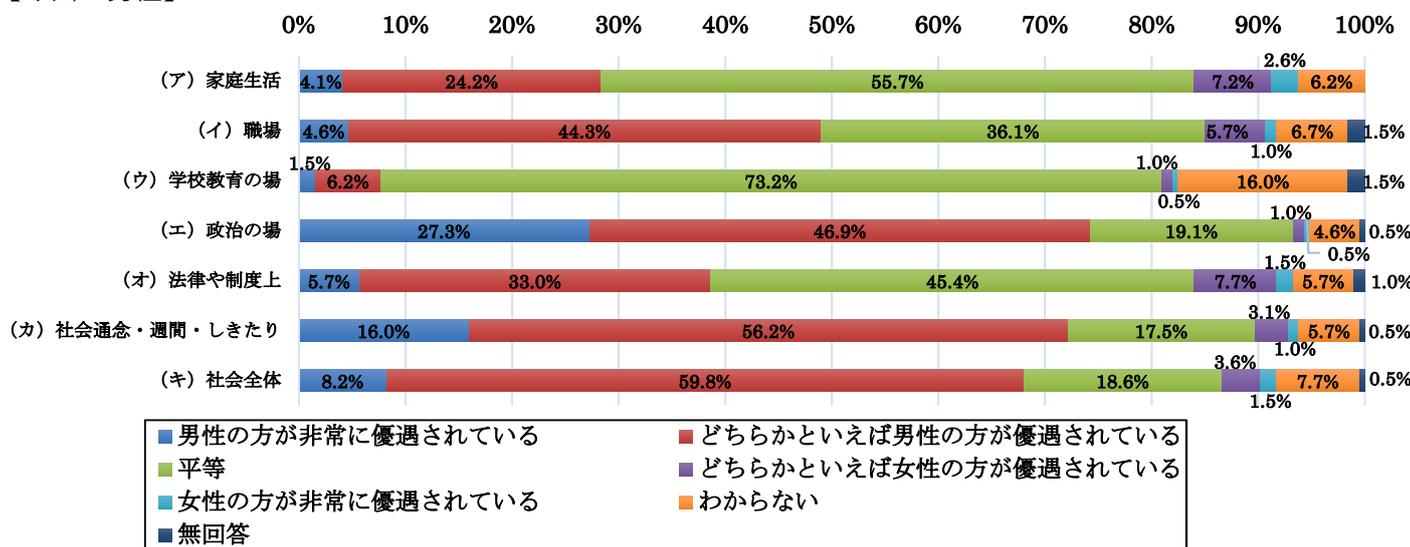
【前回 全体】

選択項目	(ア) 家庭生活		(イ) 職場		(ウ) 学校教育の場		(エ) 政治の場		(オ) 法律や制度上		(カ) 社会通念・習慣・しきたり		(キ) 社会全体	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
男性の方が非常に優遇されている	20	5.2%	44	11.5%	4	1.0%	83	21.6%	24	6.3%	65	16.9%	38	9.9%
どちらかといえば男性の方が優遇されている	130	33.9%	184	47.9%	50	13.0%	190	49.5%	129	33.6%	219	57.0%	229	59.6%
平等	179	46.6%	103	26.8%	246	64.1%	64	16.7%	144	37.5%	44	11.5%	56	14.6%
どちらかといえば女性の方が優遇されている	22	5.7%	15	3.9%	10	2.6%	2	0.5%	22	5.7%	12	3.1%	14	3.6%
女性の方が非常に優遇されている	5	1.3%	4	1.0%	2	0.5%	1	0.3%	4	1.0%	1	0.3%	0	0.0%
わからない	18	4.7%	21	5.5%	52	13.5%	32	8.3%	49	12.8%	31	8.1%	33	8.6%
無回答	10	2.6%	13	3.4%	20	5.2%	12	3.1%	12	3.1%	12	3.1%	14	3.6%
計	384	100.0%	384	100.0%	384	100.0%	384	100.0%	384	100.0%	384	100.0%	384	100.0%

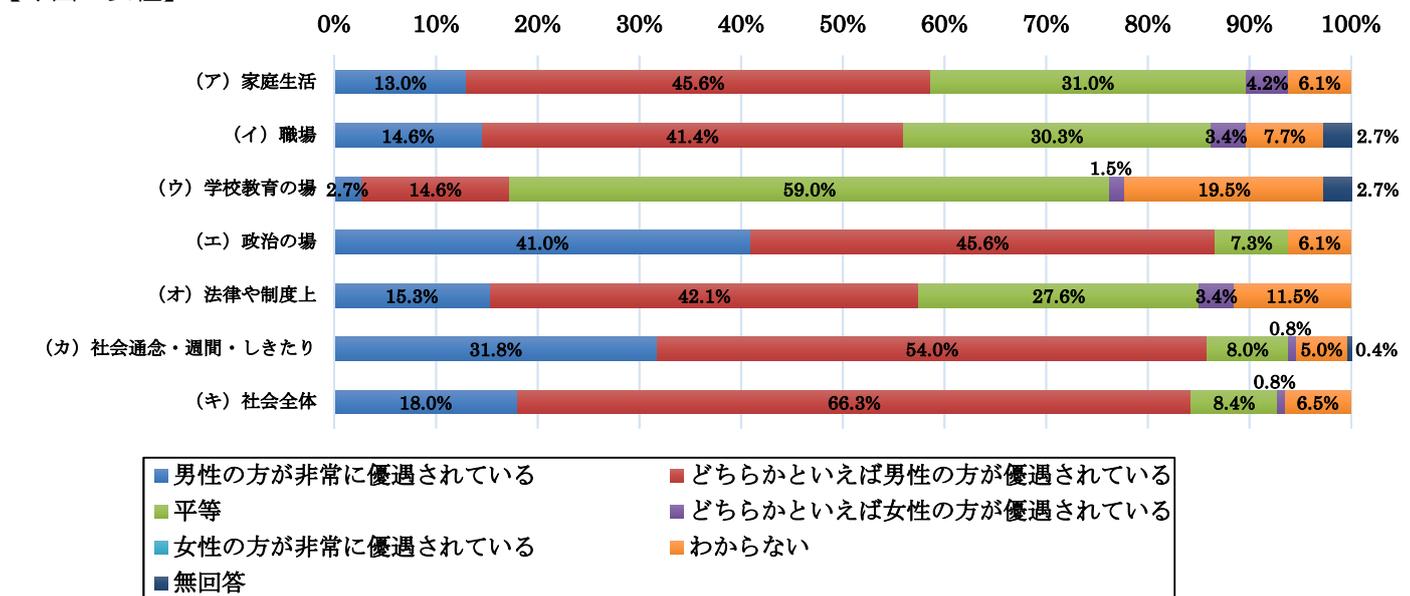
【今回 全体】



【今回 男性】



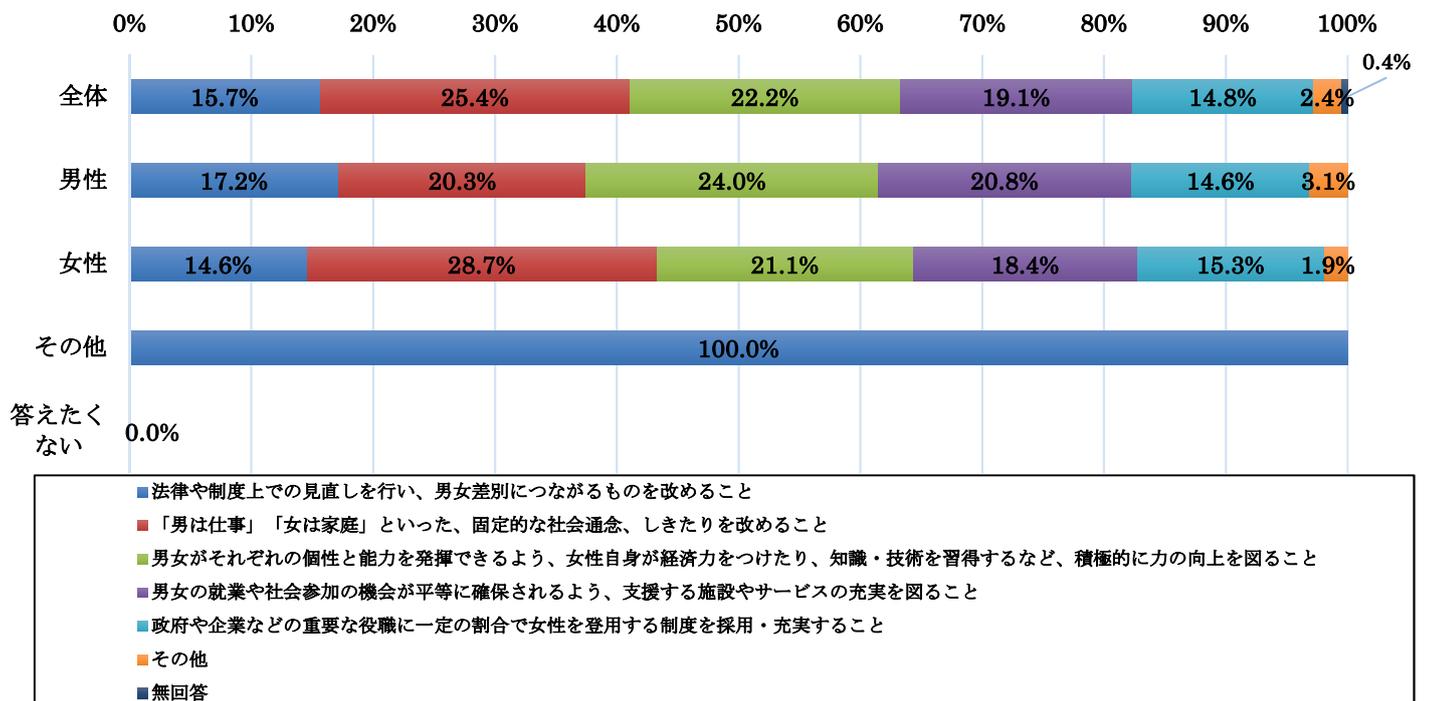
【今回 女性】



問9 あなたは、社会全体で男女が一層平等になるために、最も必要だと思うことは何ですか。

男性は、「男女がそれぞれの個性と能力を發揮できるよう、女性自身が経済力をつけたり、知識・技術を習得するなど、積極的に力の向上を図ること」の割合が最も高くなっている。また、女性は「男は仕事」「女は家庭」といった、固定的な社会通念、しきたりを改めること」が最も高くなっている。

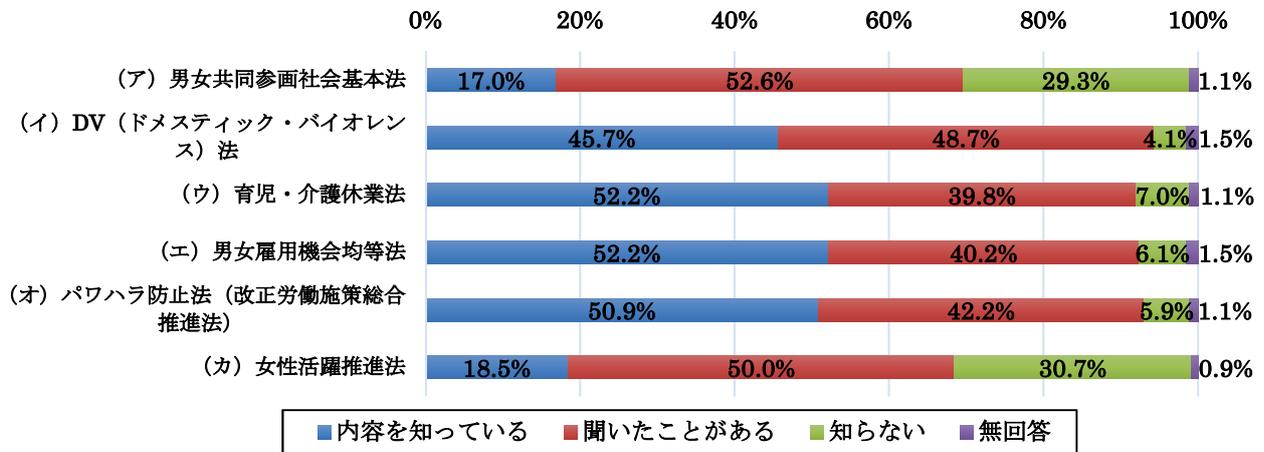
選択項目	全体			男性			女性			その他			答えたくない		
	今回		前回	今回		前回	今回		前回	今回		前回	今回		前回
	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比
法律や制度上での見直しを行い、男女差別につながるものを改めること	72	15.7%	11.5%	33	17.2%	12.3%	38	14.6%	11.0%	1	100.0%	-	0	0.0%	-
「男は仕事」「女は家庭」といった、固定的な社会通念、しきたりを改めること	117	25.4%	19.3%	39	20.3%	21.3%	75	28.7%	17.8%	0	0.0%	-	0	0.0%	-
男女がそれぞれの個性と能力を發揮できるよう、女性自身が経済力をつけたり、知識・技術を習得するなど、積極的に力の向上を図ること	102	22.2%	28.3%	46	24.0%	25.8%	55	21.1%	30.1%	0	0.0%	-	0	0.0%	-
男女の就業や社会参加の機会が平等に確保されるよう、支援する施設やサービスの充実を図ること	88	19.1%	20.6%	40	20.8%	17.4%	48	18.4%	22.8%	0	0.0%	-	0	0.0%	-
政府や企業などの重要な役職に一定の割合で女性を登用する制度を採用・充実すること	68	14.8%	6.7%	28	14.6%	6.5%	40	15.3%	6.8%	0	0.0%	-	0	0.0%	-
その他	11	2.4%	4.5%	6	3.1%	7.1%	5	1.9%	2.7%	0	0.0%	-	0	0.0%	-
無回答	2	0.4%	9.1%	0	0.0%	9.7%	0	0.0%	8.7%	0	0.0%	-	0	0.0%	-
計	460	100.0%	100.0%	192	100.0%	100.0%	261	100.0%	100.0%	1	100.0%	-	0	0.0%	-



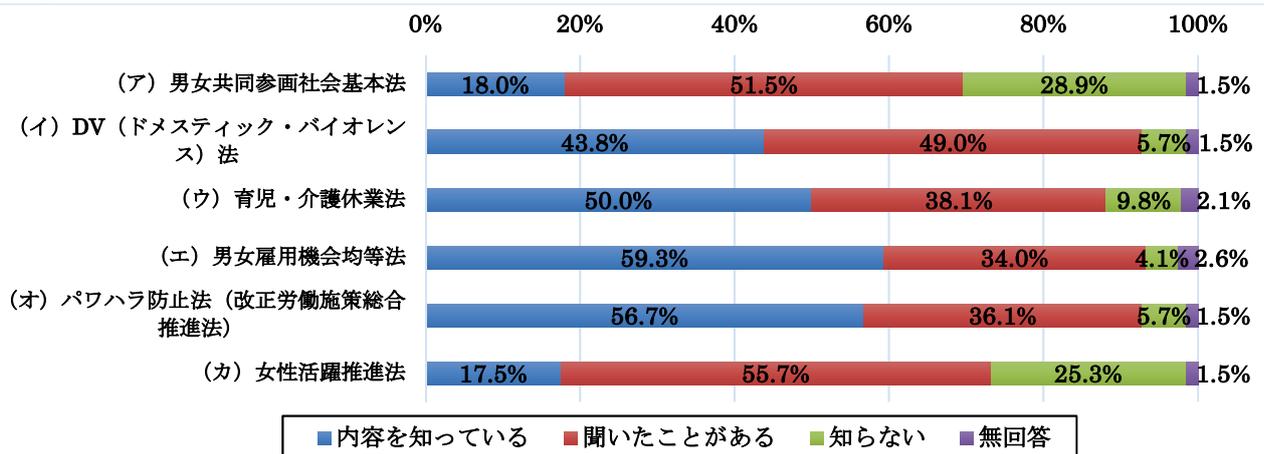
問10 男女が個性と能力を十分に発揮することを目的に、これまで様々な法整備がなされてきましたが、次の法律等についてご存知ですか。

「(ウ) 育児・介護休業法」、「(エ) 男女雇用機会均等法」、「(オ) パワハラ防止法」では、「知っている」が、約5割以上と多く、「(ア) 男女共同参画社会基本法」は、「知っている」が他の法律に比べ30%以上少なく、前回調査と同様の結果であった。

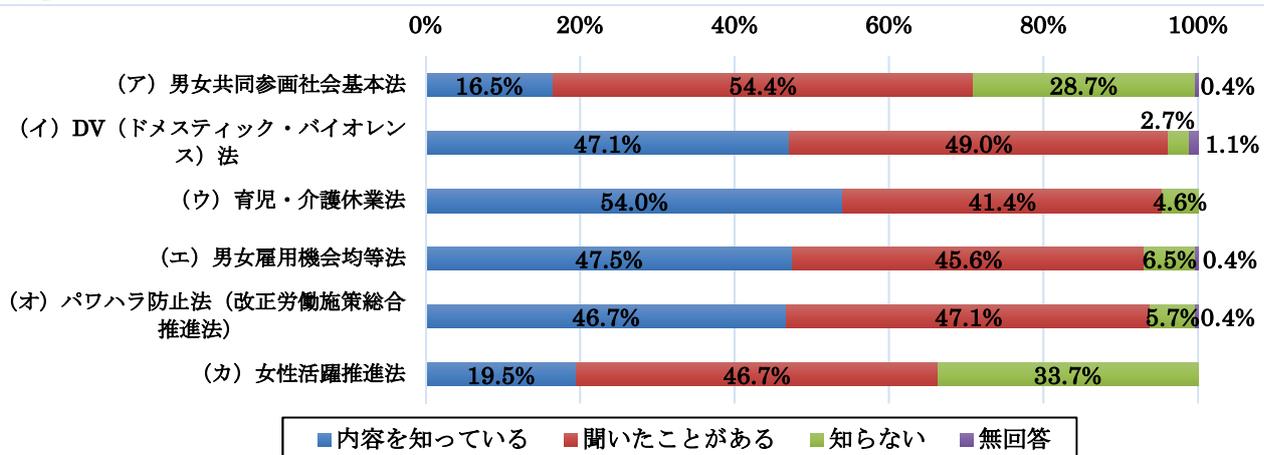
【全体】



【男性】



【女性】

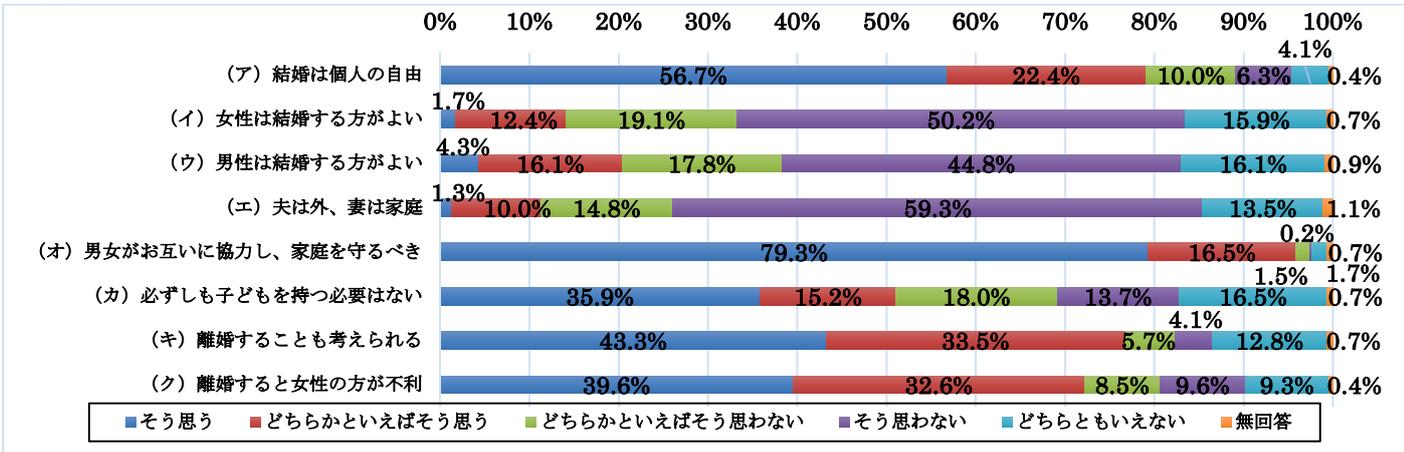


(4) 結婚観、家庭生活

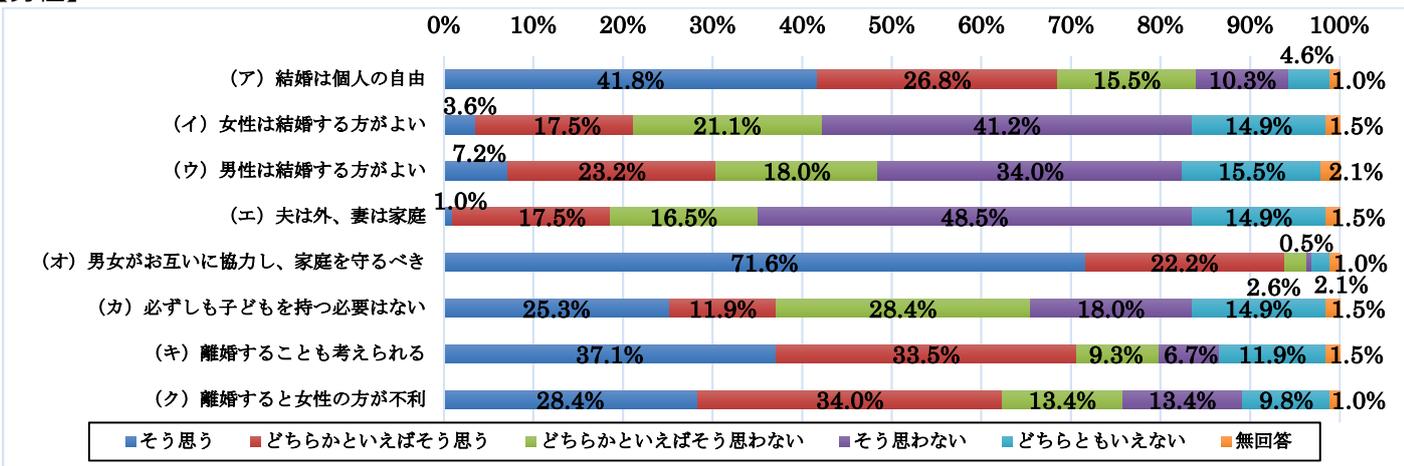
問11 あなたは、結婚、家庭、離婚について、どのようにお考えですか。

結婚については「(ア) 個人の自由だから、結婚しなくてもどちらでもよい」、「どちらかといえばそう思う」が合わせて約8割である。家庭については、「男女がお互いに協力し合い、家庭を守るべきである」「どちらかといえばそう思う」が9割を超えている。また、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」では、女性が男性に比べ「そう思わない」、「どちらかといえばそう思わない」が多く、合わせると70.8%となっている。

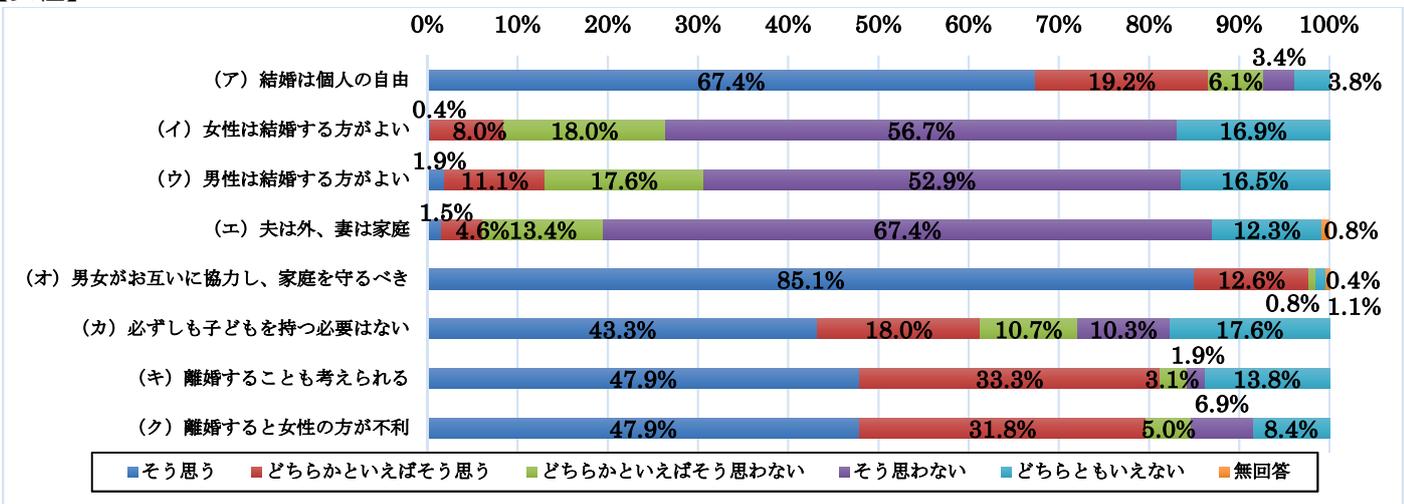
【全体】



【男性】



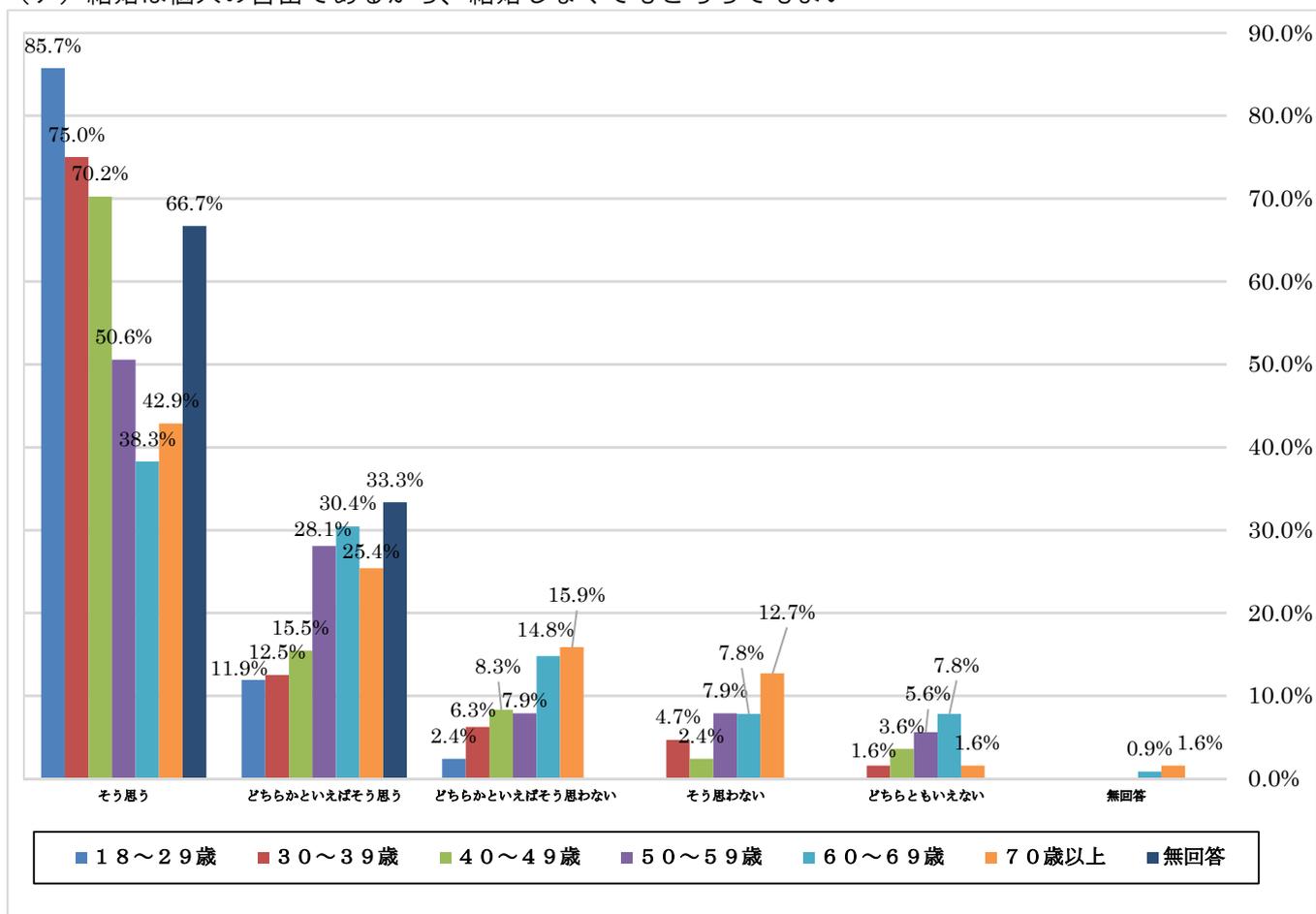
【女性】



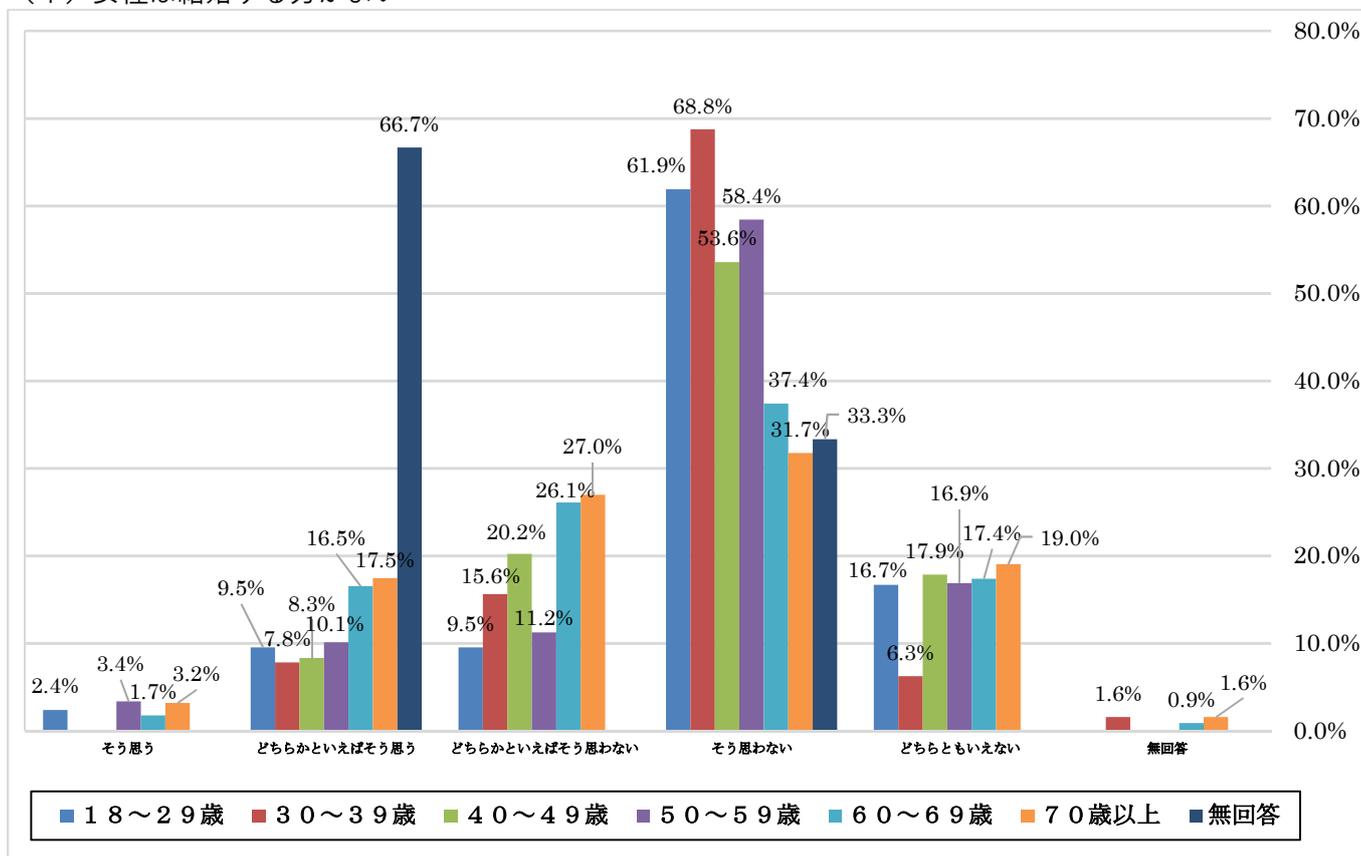
問11参考 全体年代別

【結婚について】

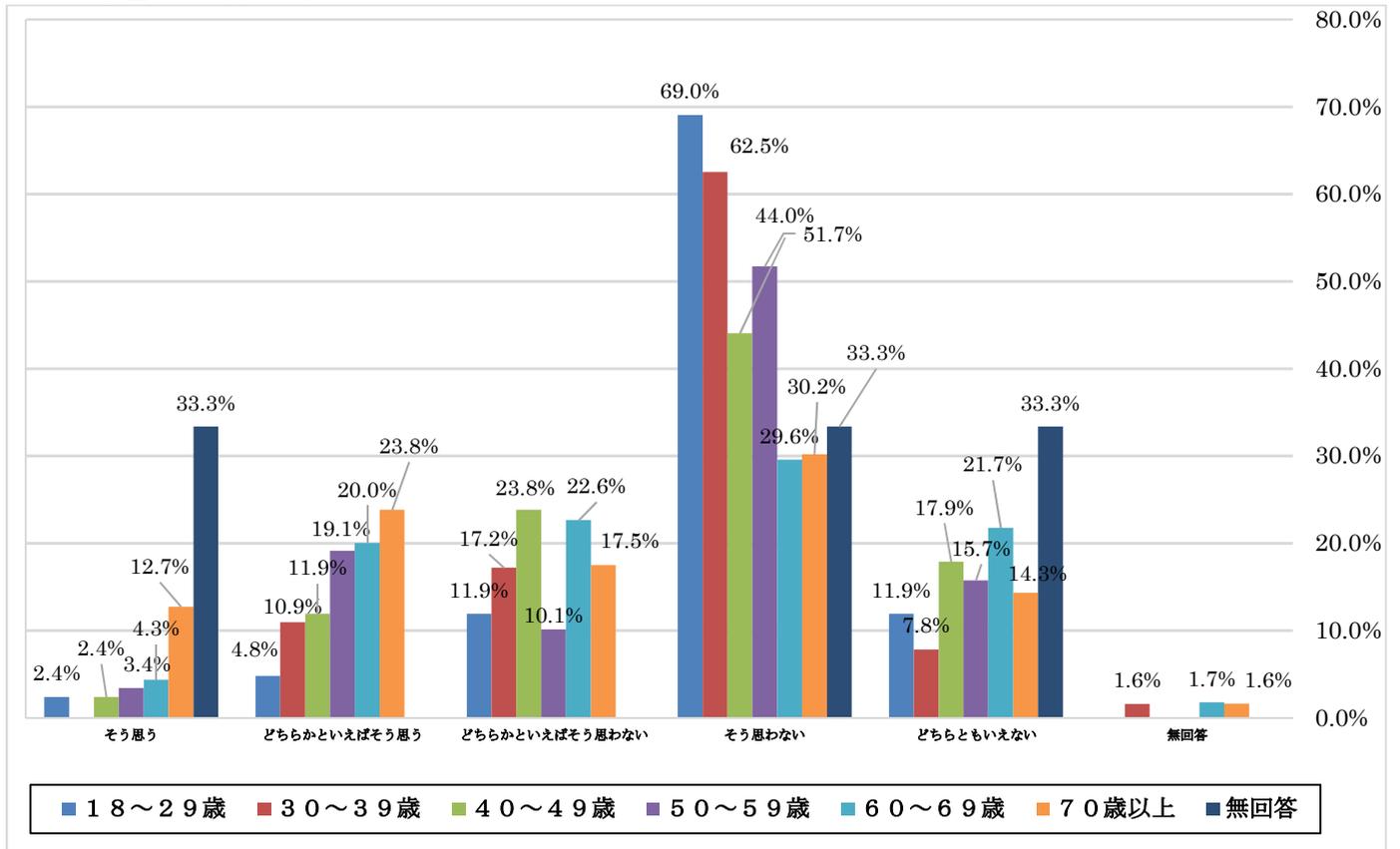
(ア) 結婚は個人の自由であるから、結婚しなくてもどちらでもよい



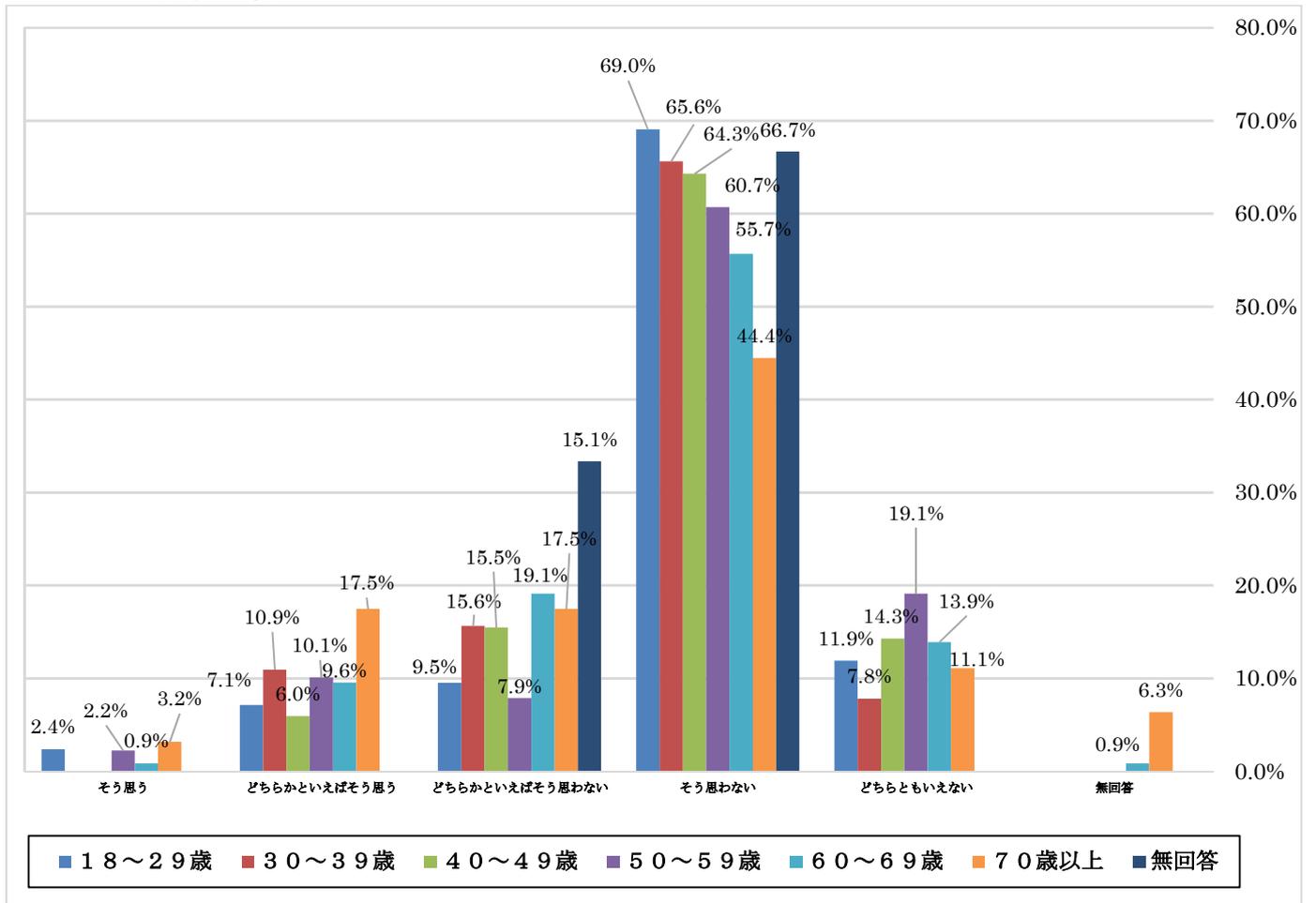
(イ) 女性は結婚する方がよい



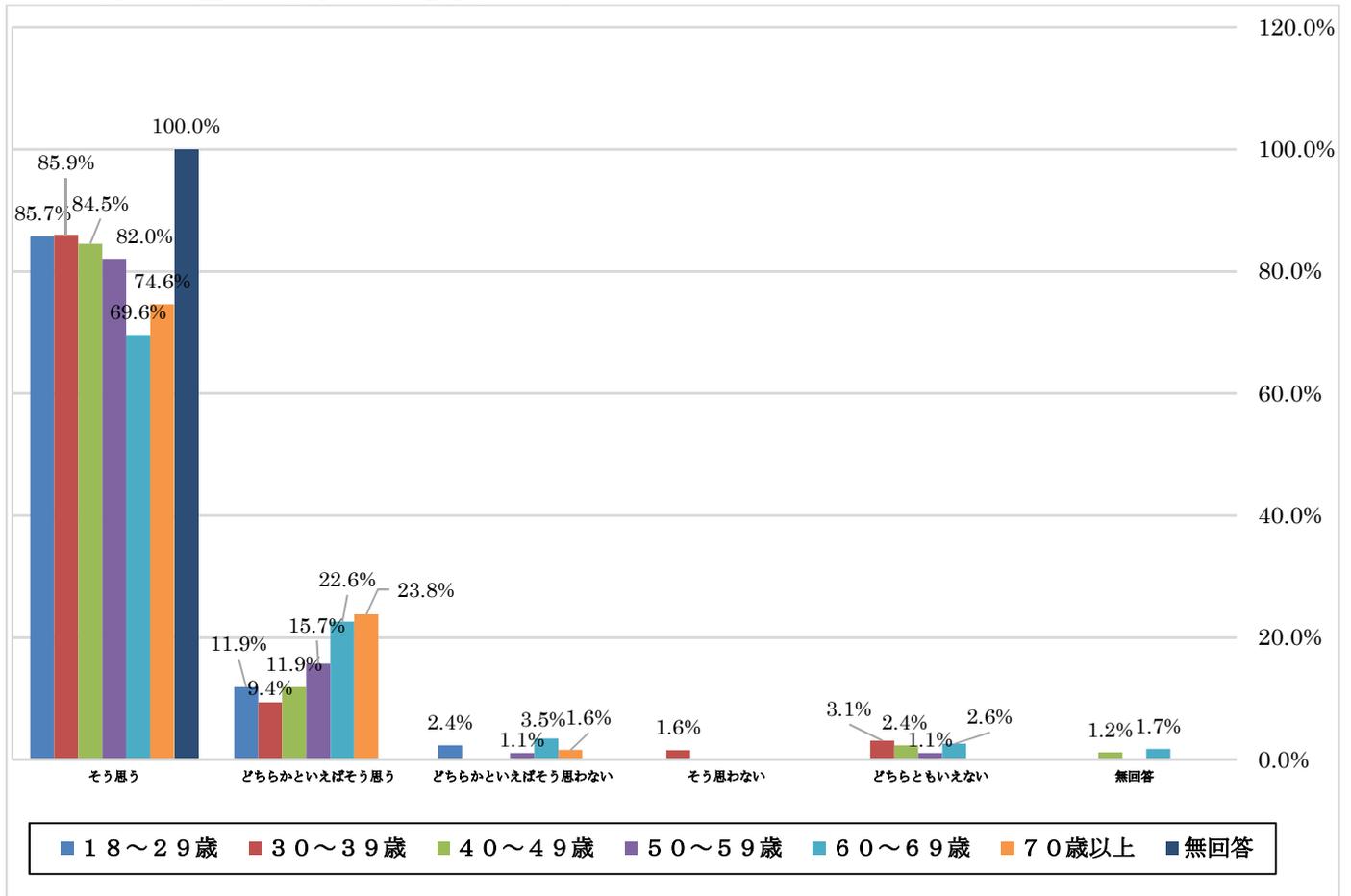
(ウ) 男性は結婚する方がよい



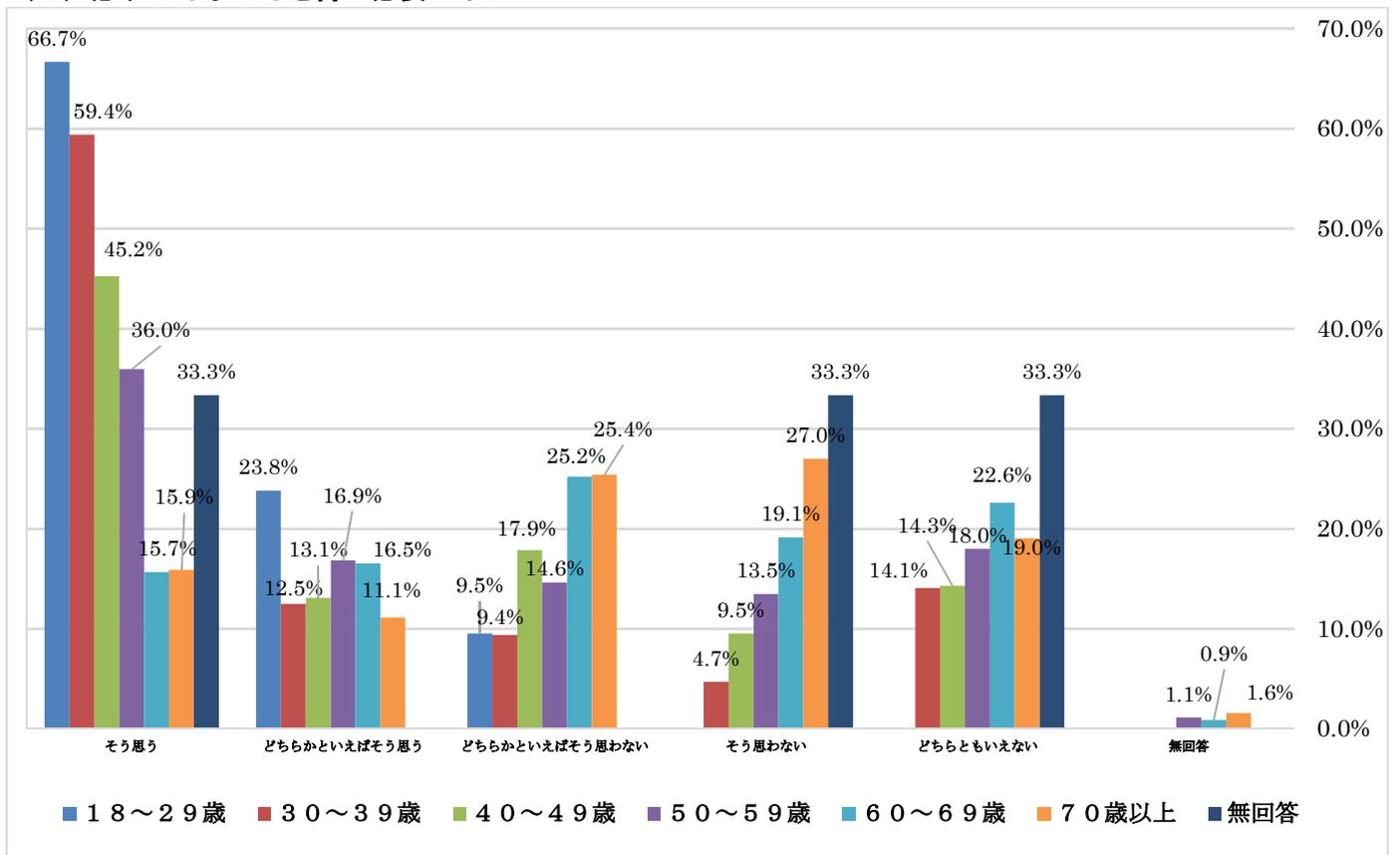
(エ) 夫は外、妻は家庭



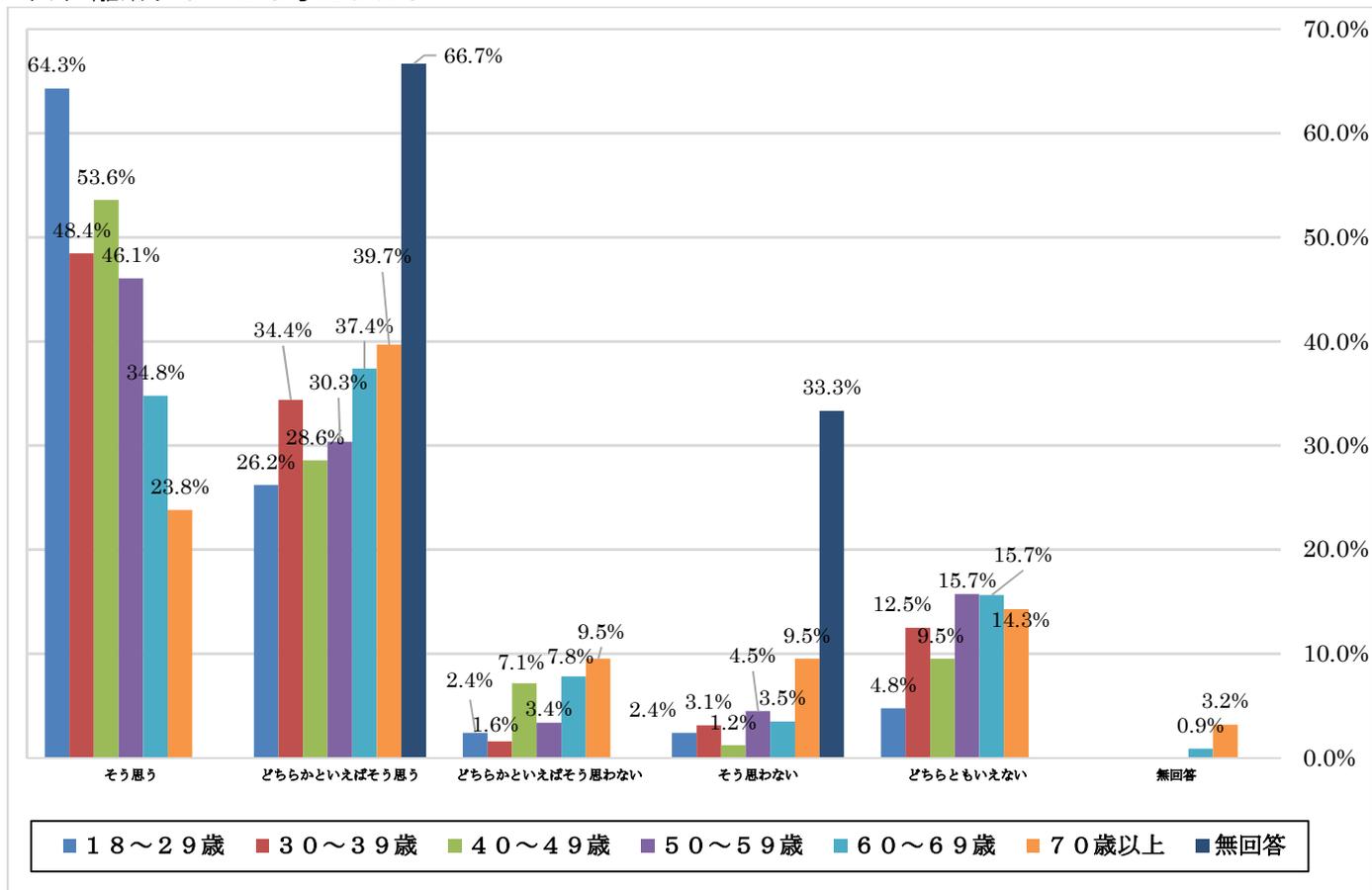
(オ) 男女がお互いに協力し、家庭を守るべき



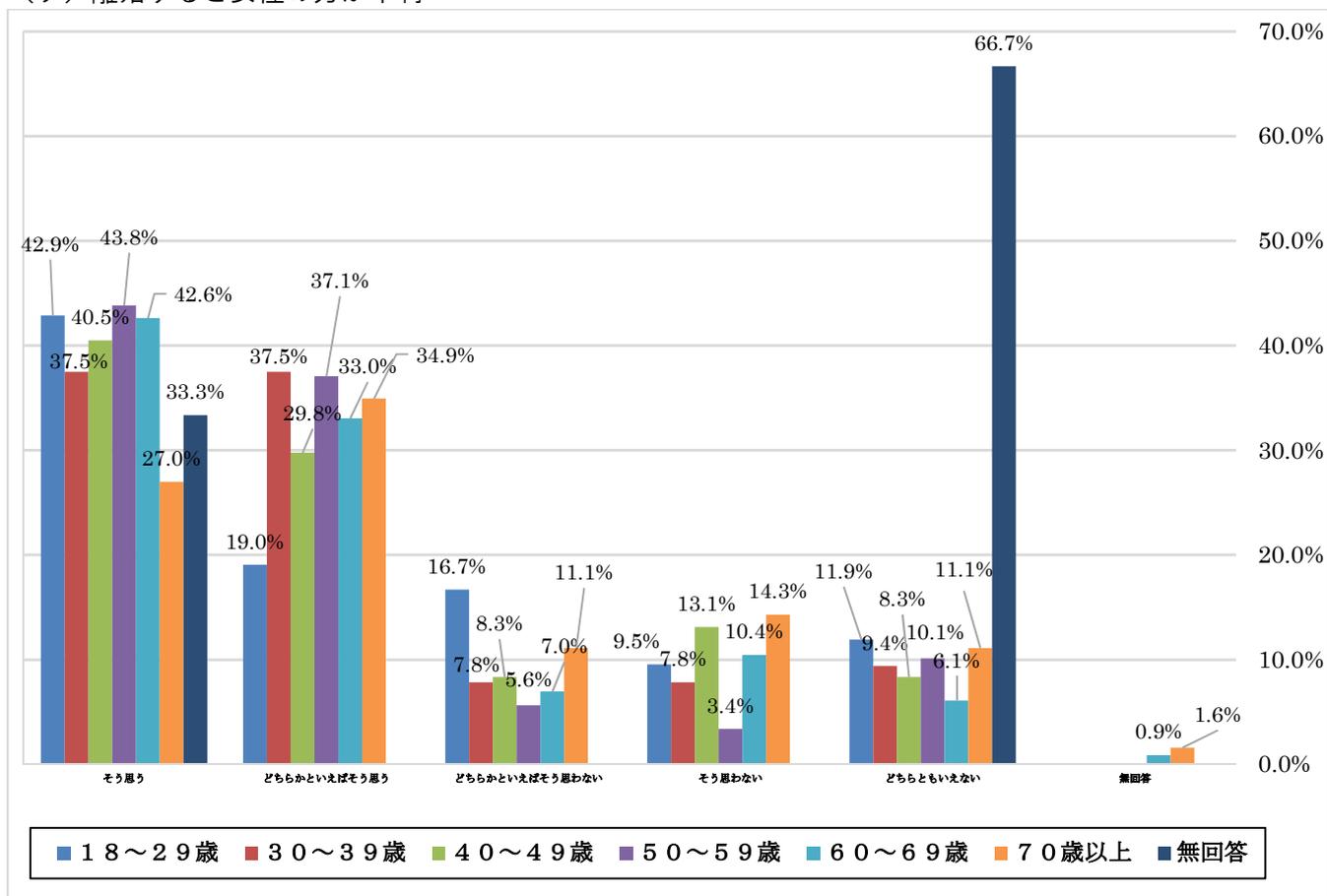
(カ) 必ずしも子どもを持つ必要はない



(キ) 離婚することも考えられる

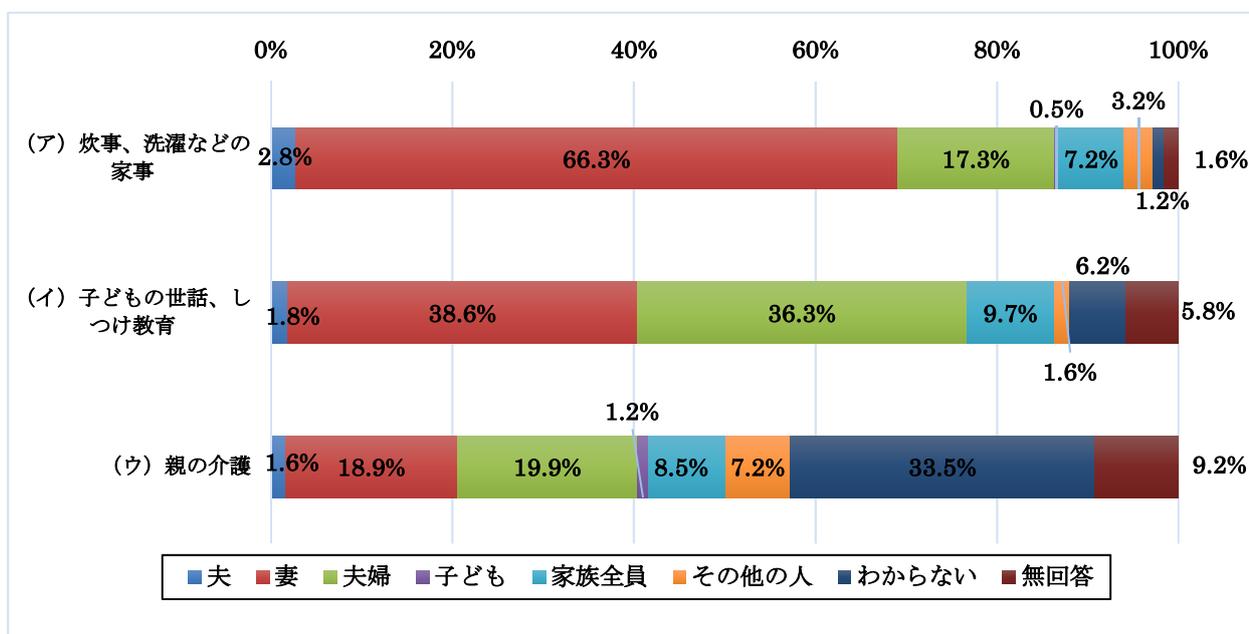


(ク) 離婚すると女性の方が不利



問12 あなたのご家庭では、家事等は主に誰が分担していますか。（2人以上で住んでいる方のみ回答）
「(ア) 炊事、洗濯などの家事」、「(イ) 子どもの世話、しつけや教育」については、「妻」の割合がもっとも高くなっているが、前回調査に比べ「夫」の割合が高くなってきている。
また、「(ウ) 親の介護」では、夫婦の割合が前回調査より高くなっている。

選択項目	(ア) 炊事、洗濯などの家事			(イ) 子どもの世話、しつけ教育			(ウ) 親の介護		
	今回		前回	今回		前回	今回		前回
	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比
夫	12	2.8%	0.7%	8	1.8%	0.3%	7	1.6%	0.7%
妻	287	66.3%	74.8%	167	38.6%	33.9%	82	18.9%	18.8%
夫婦	75	17.3%	16.4%	157	36.3%	47.7%	86	19.9%	17.8%
子ども	2	0.5%	0.3%	0	0.0%	0.0%	5	1.2%	1.7%
家族全員	31	7.2%	4.0%	42	9.7%	6.0%	37	8.5%	9.1%
その他の人	14	3.2%	0.3%	7	1.6%	0.0%	31	7.2%	6.4%
わからない	5	1.2%	0.7%	27	6.2%	4.0%	145	33.5%	31.2%
無回答	7	1.6%	2.7%	25	5.8%	8.1%	40	9.2%	14.4%
計	433	100.0%	100.0%	433	100.0%	100.0%	433	100.0%	100.0%

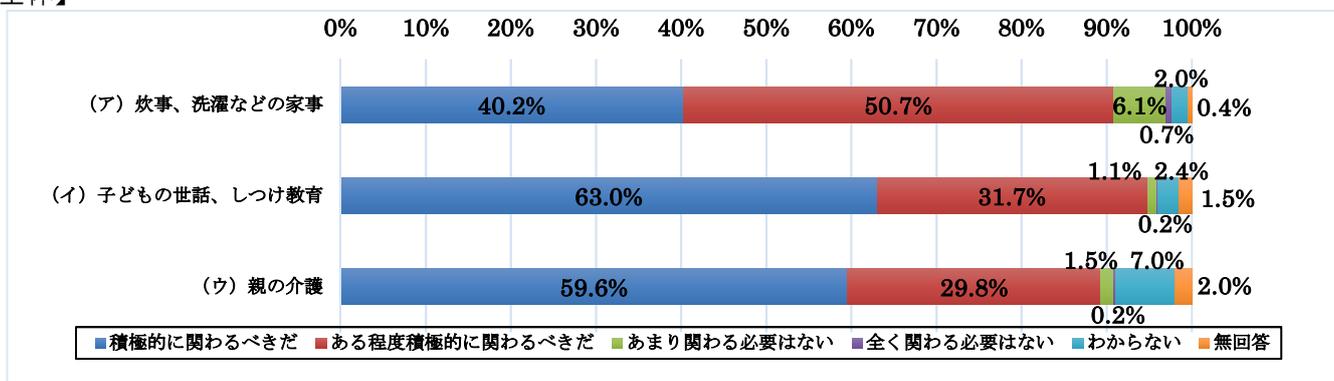


問13 あなたのご家庭における役割分について、男性がどの程度かわるべきだと思いますか。

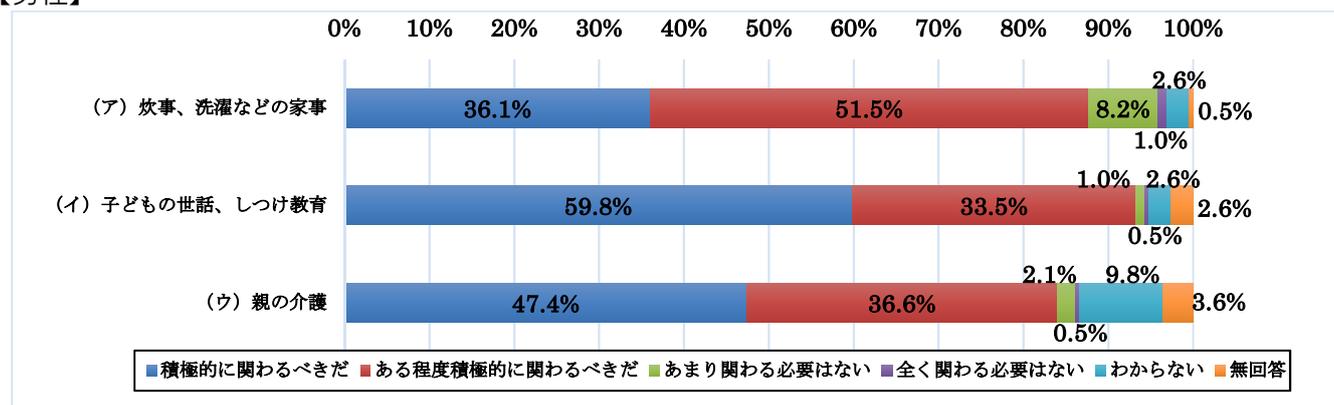
「(ア) 炊事、洗濯などの家事」では、「ある程度積極的に関わるべきだ」が50.7%と最も高く、「積極的に関わるべきだ」を合わせると9割を超えている。「(イ) 子どもの世話、しつけや教育」「(ウ) 親の介護」では、「積極的に関わるべきだ」が最も多く約6割となっており、男性が積極的に関わることを望んでいる。

選択項目	(ア) 炊事、洗濯などの家事			(イ) 子どもの世話、しつけ教育			(ウ) 親の介護		
	今回		前回	今回		前回	今回		前回
	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比
積極的に関わるべきだ	185	40.2%	25.5%	290	63.0%	54.9%	274	59.6%	50.8%
ある程度積極的に関わるべきだ	233	50.7%	62.1%	146	31.7%	38.4%	137	29.8%	35.8%
あまり関わる必要はない	28	6.1%	7.5%	5	1.1%	0.3%	7	1.5%	0.8%
全く関わる必要はない	3	0.7%	0.3%	1	0.2%	0.5%	1	0.2%	0.3%
わからない	9	2.0%	2.3%	11	2.4%	2.1%	32	7.0%	9.0%
無回答	2	0.4%	2.3%	7	1.5%	3.9%	9	2.0%	3.4%
計	460	100.0%	100.0%	460	100.0%	100.0%	460	100.0%	100.0%

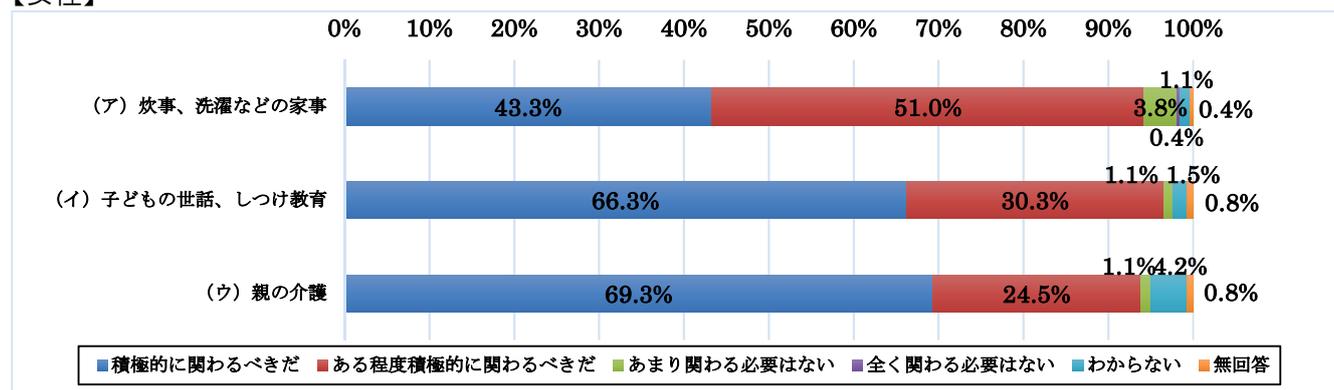
【全体】



【男性】



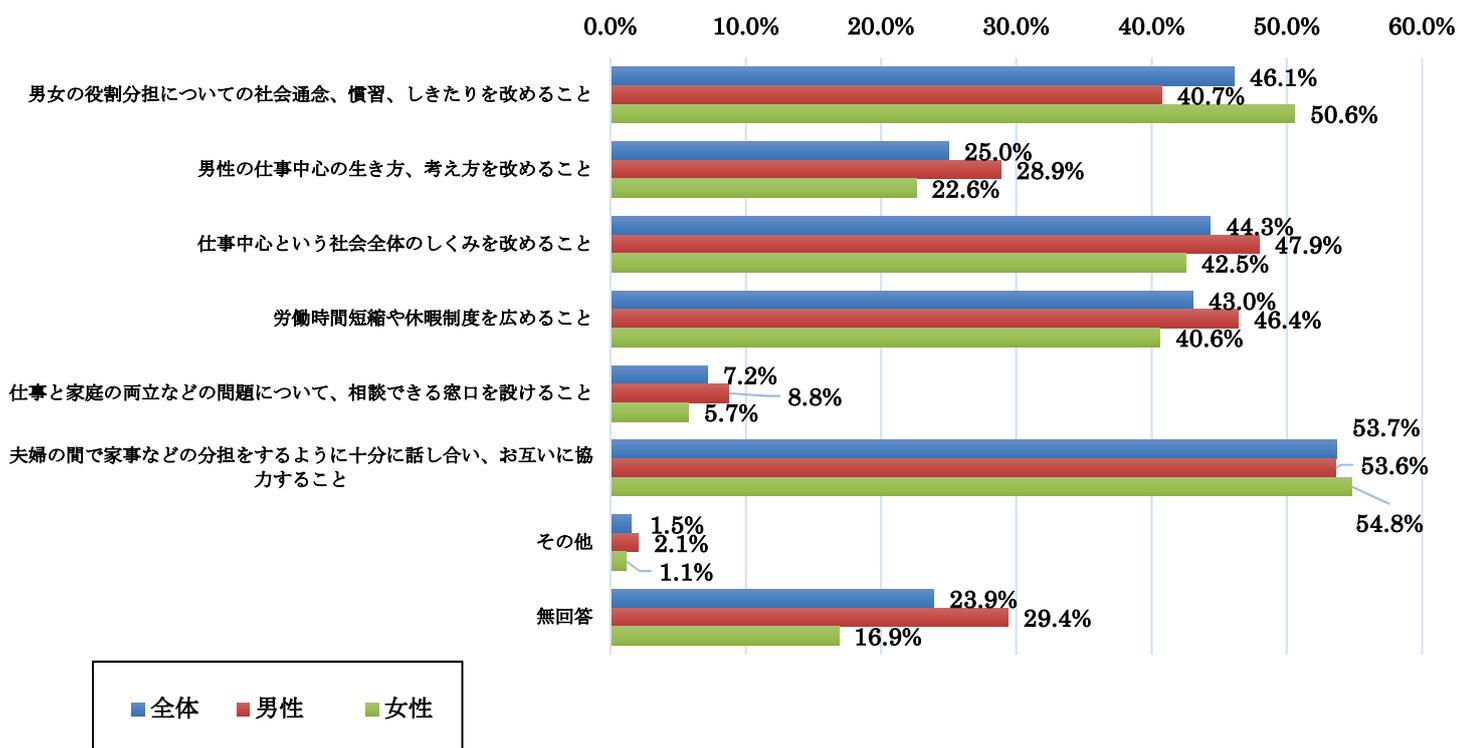
【女性】



問14 あなたは今後男女がともに家事、子育てや教育、介護など家庭での活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だとお考えですか。（3つまで選択）

「夫婦の間で家事などの分担をするように十分に話し合い、お互いが協力すること」が「全体」で53.7%と最も多く、次いで、「男女の役割分担についての社会通念、習慣、しきたりを改めることが46.1%となっており、前回同様の結果となった。

選択項目	全体			男性			女性		
	今回		前回	今回		前回	今回		前回
	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比
男女の役割分担についての社会通念、習慣、しきたりを改めること	212	46.1%	42.8%	79	40.7%	41.9%	132	50.6%	43.4%
男性の仕事中心の生き方、考え方を改めること	115	25.0%	23.5%	56	28.9%	23.9%	59	22.6%	23.3%
仕事中心という社会全体のしきみを改めること	204	44.3%	37.7%	93	47.9%	41.9%	111	42.5%	34.7%
労働時間短縮や休暇制度を広めること	198	43.0%	39.8%	90	46.4%	34.8%	106	40.6%	43.4%
仕事と家庭の両立などの問題について、相談できる窓口を設けること	33	7.2%	11.0%	17	8.8%	8.4%	15	5.7%	12.8%
夫婦の間で家事などの分担をするように十分に話し合い、お互いに協力すること	247	53.7%	59.9%	104	53.6%	60.6%	143	54.8%	59.4%
その他	7	1.5%	1.3%	4	2.1%	1.9%	3	1.1%	0.9%
無回答	110	23.9%	1.9%	57	29.4%	1.9%	44	16.9%	1.8%
計	1,126	244.8%	217.9%	500	257.7%	215.5%	613	234.9%	219.6%
回答者数	460	-	-	194	-	-	261	-	-

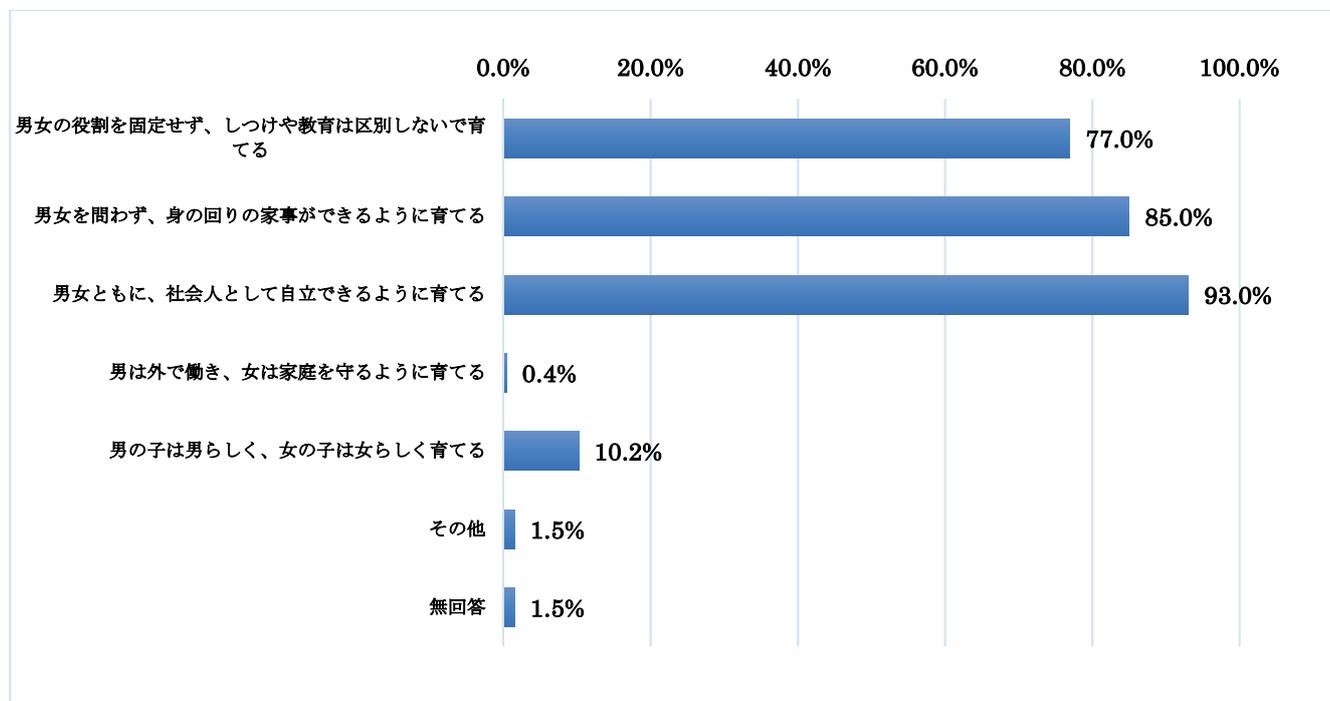


(5) 教育

問15 あなたは、家庭で子どもを育てる場合、どのように育てたいと思いますか。お子さんがいらっしゃらない場合も、いと仮定してお答えください。（3つまで選択）

教育では、「男女ともに、社会人として自立できるように育てる」が93.0%と最も多く、次いで「男女を問わず、身の回りの家事ができるように育てる」が85.0%となっており、前回同様の調査結果となっている。

選択項目	今回		前回
	回答数	構成比	構成比
男女の役割を固定せず、しつけや教育は区別しないで育てる	354	77.0%	64.7%
男女を問わず、身の回りの家事ができるように育てる	391	85.0%	79.6%
男女ともに、社会人として自立できるように育てる	428	93.0%	88.7%
男は外で働き、女は家庭を守るように育てる	2	0.4%	1.0%
男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる	47	10.2%	21.6%
その他	7	1.5%	2.8%
無回答	7	1.5%	3.1%
計	1,236	268.7%	261.6%
回答者数	460	-	-



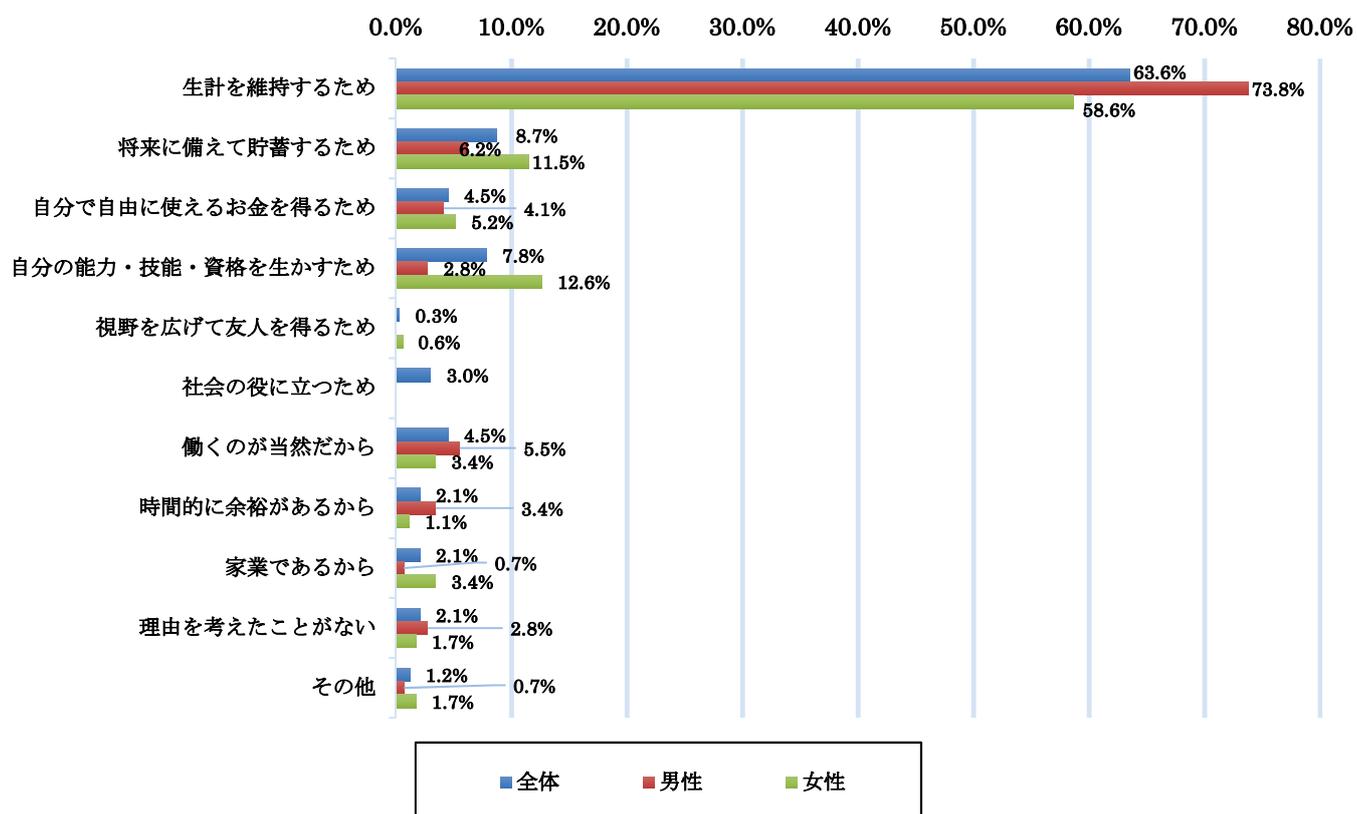
(6) 職業

問16 職業をお持ちの方

⇒あなたが現在働いているのは、どのような理由からですか。

全体では、「生計を維持するため」が63.6%と最も多く、次いで、「将来に備えて貯蓄するため」、「自分の能力・技能・資格を生かすため」、「自分で自由に使えるお金を得るため」、「働くのが当然だから」となっている。

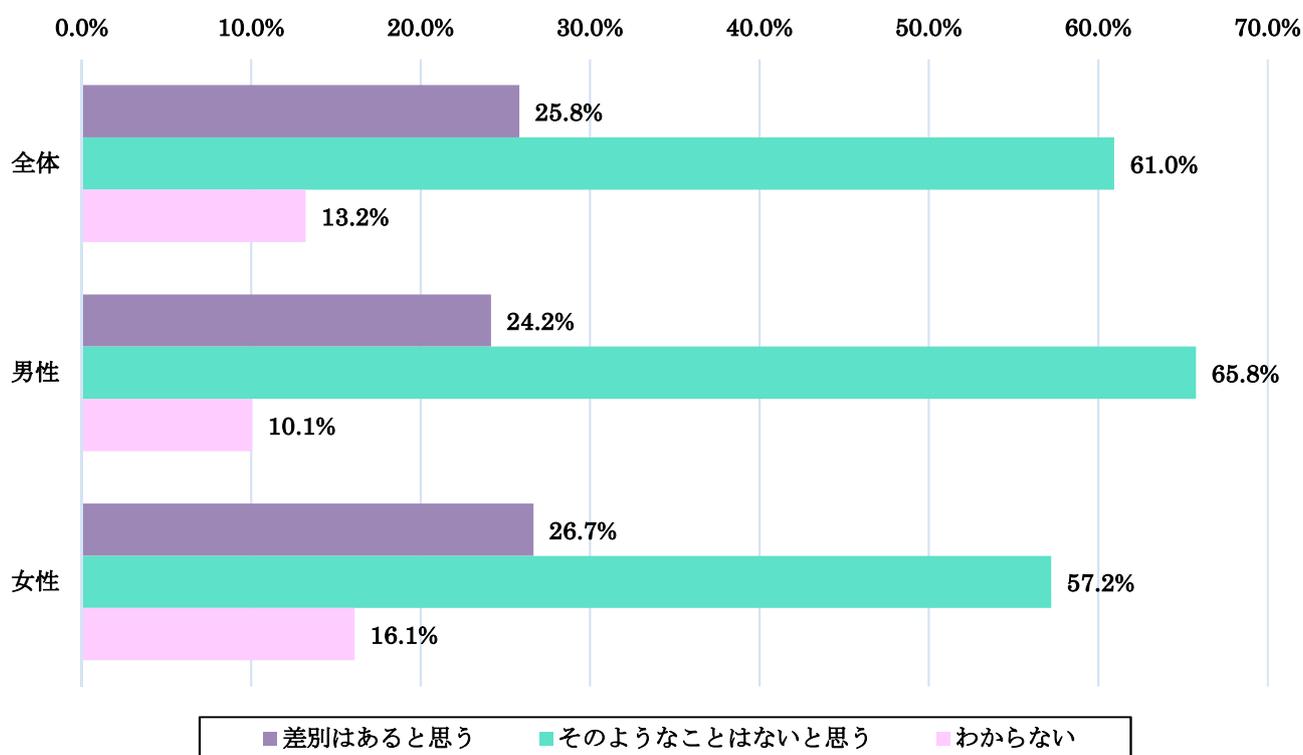
選択項目	全体		男性		女性		その他		答えたくない	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
生計を維持するため	211	63.6%	107	73.8%	102	58.6%	1	100.0%	1	50.0%
将来に備えて貯蓄するため	29	8.7%	9	6.2%	20	11.5%	0	0.0%	0	0.0%
自分で自由に使えるお金を得るため	15	4.5%	6	4.1%	9	5.2%	0	0.0%	0	0.0%
自分の能力・技能・資格を生かすため	26	7.8%	4	2.8%	22	12.6%	0	0.0%	0	0.0%
視野を広げて友人を得るため	1	0.3%	0	0.0%	1	0.6%	0	0.0%	0	0.0%
社会の役に立つため	10	3.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
働くのが当然だから	15	4.5%	8	5.5%	6	3.4%	0	0.0%	1	50.0%
時間的に余裕があるから	7	2.1%	5	3.4%	2	1.1%	0	0.0%	0	0.0%
家業であるから	7	2.1%	1	0.7%	6	3.4%	0	0.0%	0	0.0%
理由を考えたことがない	7	2.1%	4	2.8%	3	1.7%	0	0.0%	0	0.0%
その他	4	1.2%	1	0.7%	3	1.7%	0	0.0%	0	0.0%
計	332	100.0%	145	100.0%	174	100.0%	1	100.0%	2	100.0%



問17-1 あなたの職場では、仕事の内容や待遇面で、女性と男性の差別はあると思われますか。

「そのようなことはないと思う」が、「全体」で61.0%となっている。前回調査と比べ、「差別はあると思う」では、男性は、ほぼ前回調査と同様であるが、女性は2.1%増加している。

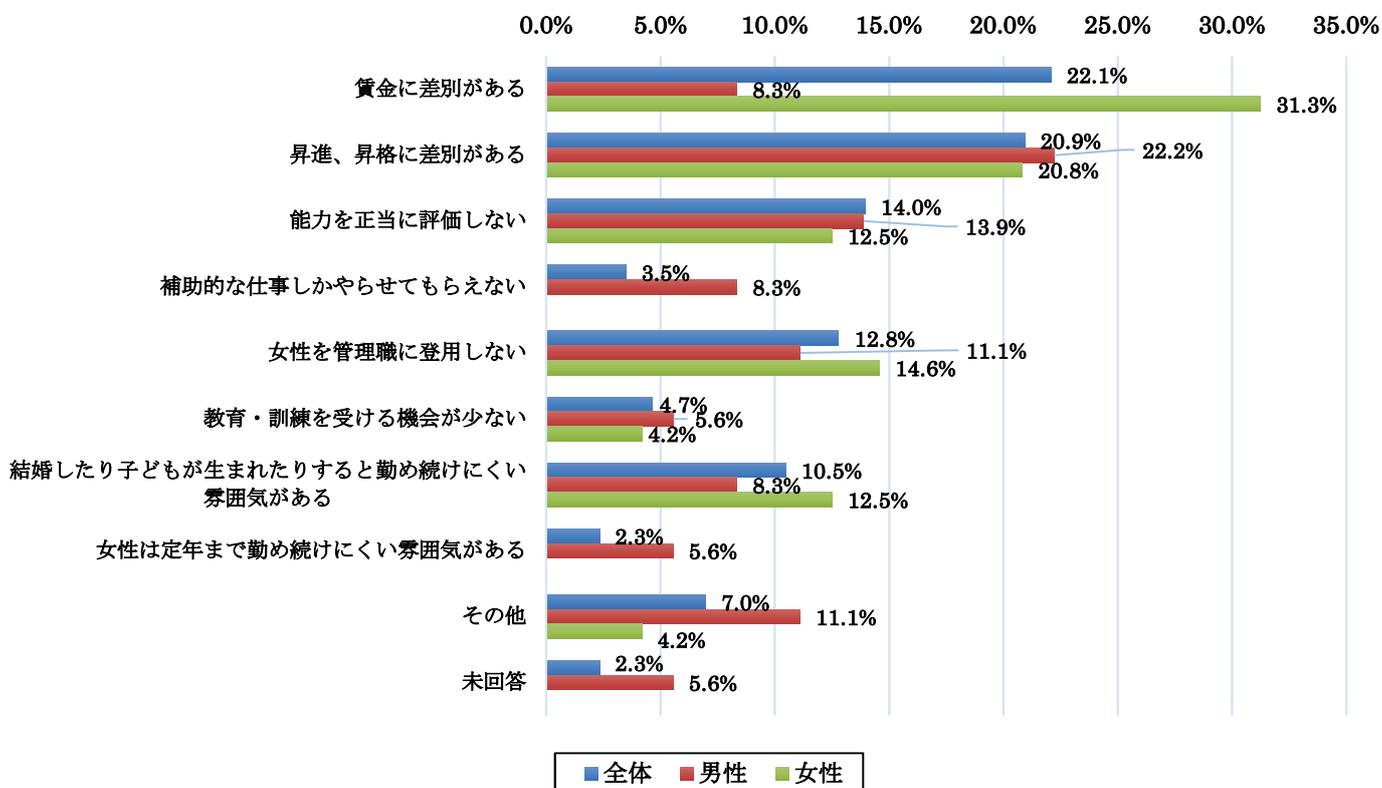
選択項目	全体			男性			女性			その他			答えたくない		
	今回		前回	今回		前回	今回		前回	今回		前回	今回		前回
	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比
差別はあると思う	86	25.8%	24.4%	36	24.2%	24.1%	48	26.7%	24.6%	1	100.0%	-	1	33.3%	-
そのようなことはないと思う	203	61.0%	61.5%	98	65.8%	58.9%	103	57.2%	63.9%	0	0.0%	-	2	66.7%	-
わからない	44	13.2%	14.1%	15	10.1%	17.0%	29	16.1%	11.5%	0	0.0%	-	0	0.0%	-
計	333	100.0%	100.0%	149	100.0%	100.0%	180	100.0%	100.0%	1	100.0%	-	3	100.0%	-



問17-2 「差別はあると思う」を選ばれた方

「賃金に差別がある」が、「全体」で22.1%と最も多く、次いで「昇進、昇格に差別がある」となっている。特に、「女性」では、「賃金に差別がある」「昇進、昇格に差別がある」については、合わせて5割以上と多くなっている。

選択項目	全体		男性		女性		その他		答えたくない	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
賃金に差別がある	19	22.1%	3	8.3%	15	31.3%	1	100.0%	0	0
昇進、昇格に差別がある	18	20.9%	8	22.2%	10	20.8%	0	0.0%	0	0
能力を正當に評価しない	12	14.0%	5	13.9%	6	12.5%	0	0.0%	1	100.0%
補助的な仕事しかやらせてもらえない	3	3.5%	3	8.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0
女性を管理職に登用しない	11	12.8%	4	11.1%	7	14.6%	0	0.0%	0	0
教育・訓練を受ける機会が少ない	4	4.7%	2	5.6%	2	4.2%	0	0.0%	0	0
結婚したり子どもが生まれたりすると勤め続けにくい雰囲気がある	9	10.5%	3	8.3%	6	12.5%	0	0.0%	0	0
女性は定年まで勤め続けにくい雰囲気がある	2	2.3%	2	5.6%	0	0.0%	0	0.0%	0	0
その他	6	7.0%	4	11.1%	2	4.2%	0	0.0%	0	0
未回答	2	2.3%	2	5.6%	0	0.0%	0	0.0%	0	0
計	86	100.0%	36	100.0%	48	100.0%	1	100.0%	1	100.0%

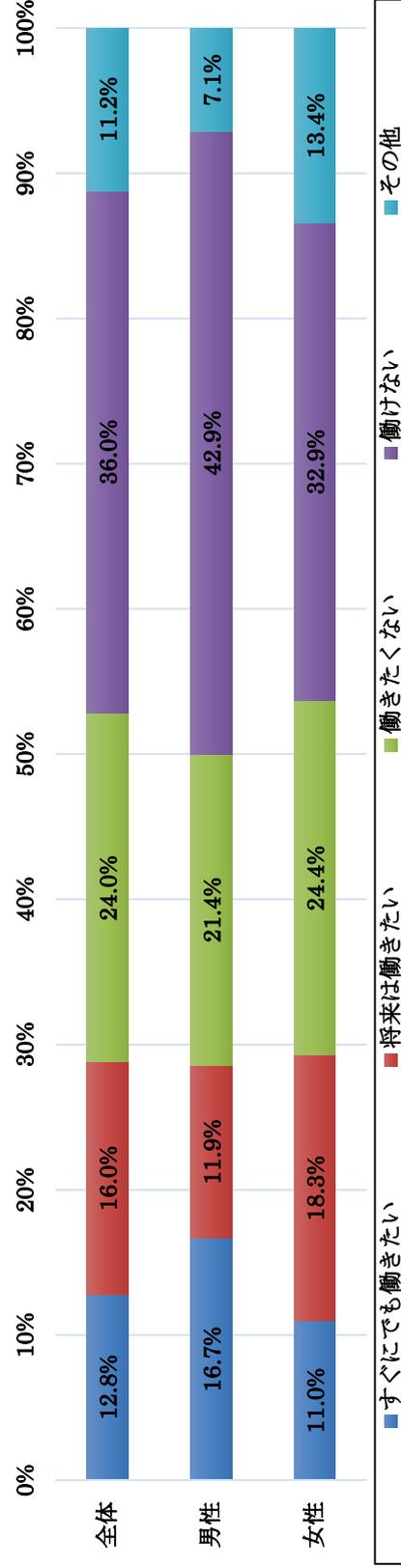


問18 職業をお持ちでない方

⇒あなたは働きたいとお考えですか。

「働けない」が全体で36.0%と最も多く、次いで「働きたくない」が24.0%となっている。

選択項目	全体				男性				女性				その他				答えたくない				
	今回		前回		今回		前回		今回		前回		今回		前回		今回		前回		
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	
すぐにでも働きたい	16	12.8%	15.2%	16.7%	7	16.7%	22.0%	11.0%	9	11.0%	11.9%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
将来は働きたい	20	16.0%	18.1%	11.9%	5	11.9%	7.3%	18.3%	15	18.3%	21.4%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
働きたくない	30	24.0%	15.9%	21.4%	9	21.4%	19.5%	24.4%	20	24.4%	10.7%	0	0.0%	0	0.0%	1	100.0%	0	0.0%	0	0.0%
働けない	45	36.0%	36.2%	42.9%	18	42.9%	39.0%	32.9%	27	32.9%	36.9%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
その他	14	11.2%	14.4%	7.1%	3	7.1%	12.2%	13.4%	11	13.4%	19.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
計	125	100.0%	100.0%	100.0%	42	100.0%	100.0%	100.0%	82	100.0%	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	100.0%	0	0.0%	1	100.0%

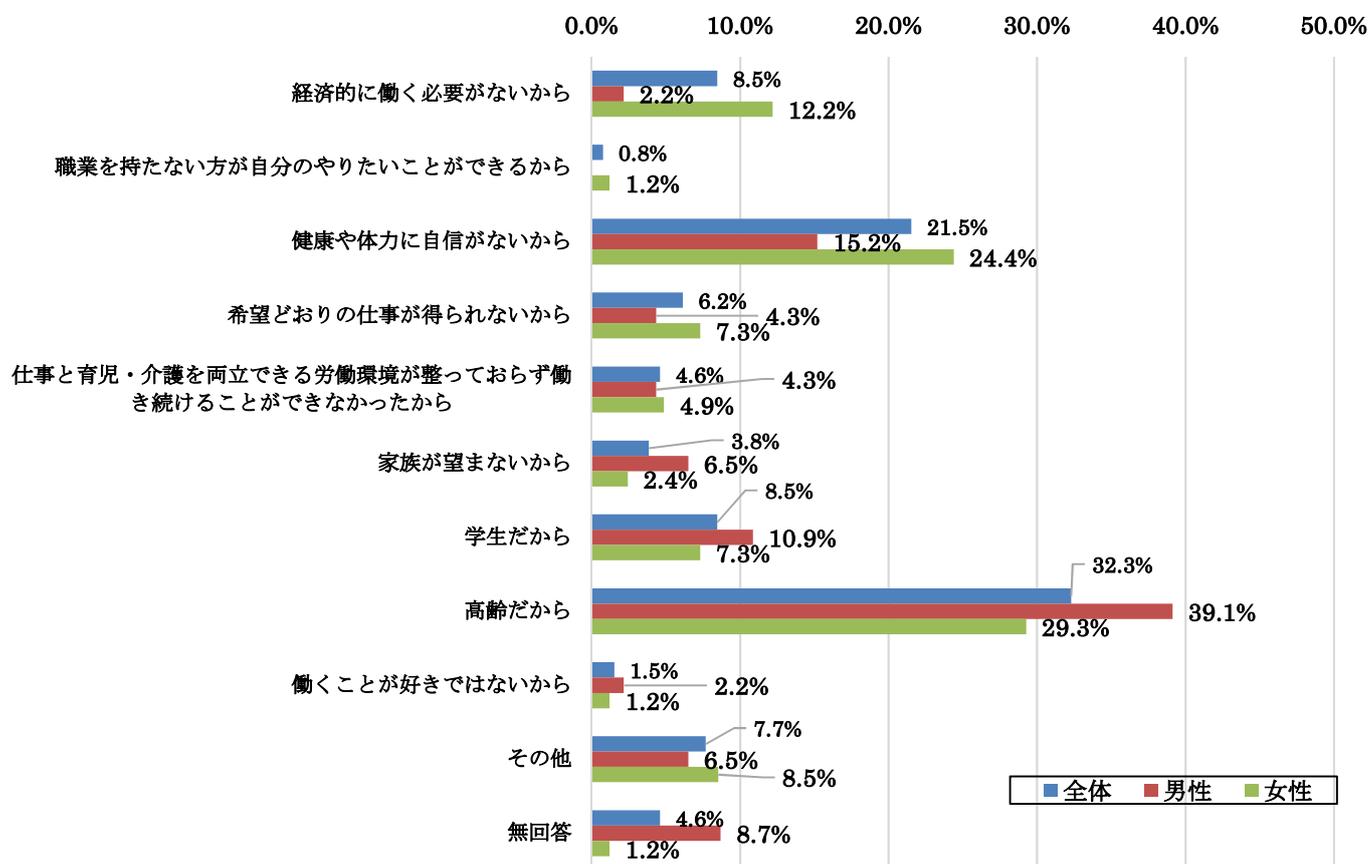


問19 職業をお持ちでない方

⇒あなたが働いていないのはどのような理由からですか。

「高齢だから」が、「全体」で32.3%と最も多く、次いで「健康や体力に自信がないから」となっている。女性では、「経済的に働く必要がないから」が、12.2%となっている。

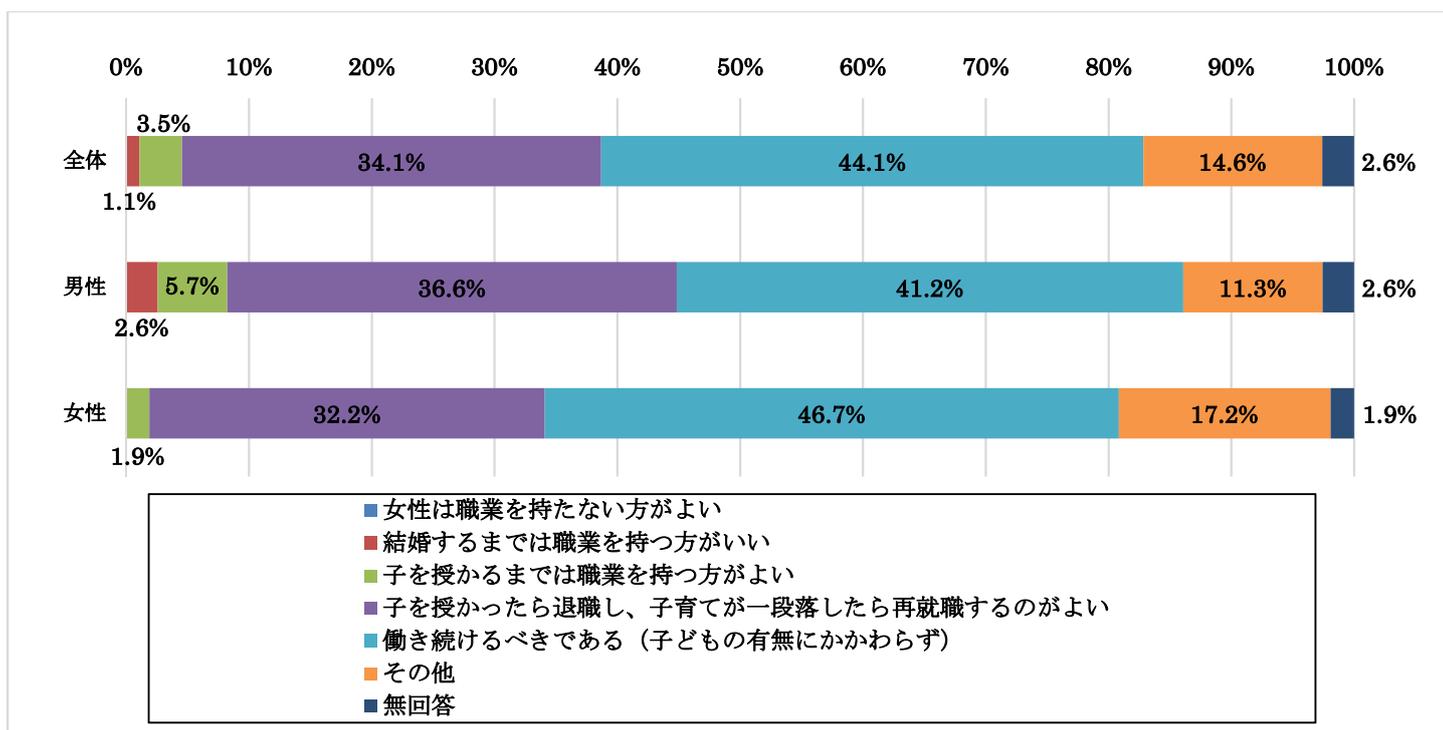
選択項目	全体		男性		女性		その他		答えたくない	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
経済的に働く必要がないから	11	8.5%	1	2.2%	10	12.2%	0	0.0%	0	0.0%
職業を持たない方が自分のやりたいことができるから	1	0.8%	0	0.0%	1	1.2%	0	0.0%	0	0.0%
健康や体力に自信がないから	28	21.5%	7	15.2%	20	24.4%	0	0.0%	1	50.0%
希望どおりの仕事を得られないから	8	6.2%	2	4.3%	6	7.3%	0	0.0%	0	0.0%
仕事と育児・介護を両立できる労働環境が整っておらず働き続けることができなかったから	6	4.6%	2	4.3%	4	4.9%	0	0.0%	0	0.0%
家族が望まないから	5	3.8%	3	6.5%	2	2.4%	0	0.0%	0	0.0%
学生だから	11	8.5%	5	10.9%	6	7.3%	0	0.0%	0	0.0%
高齢だから	42	32.3%	18	39.1%	24	29.3%	0	0.0%	0	0.0%
働くことが好きではないから	2	1.5%	1	2.2%	1	1.2%	0	0.0%	0	0.0%
その他	10	7.7%	3	6.5%	7	8.5%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	6	4.6%	4	8.7%	1	1.2%	0	0.0%	1	50.0%
計	130	100.0%	46	100.0%	82	100.0%	0	0.0%	2	100.0%



問20 あなたは、一般に女性が職業を持つことについて、どのようにお考えですか。

「働き続けるべきである」が、「全体」で44.1%と最も多く、次いで「子を授かったら退職し、子育てが一段落したら再就職するのがよい」が34.1%となっており、前回調査と同様の結果となっている。

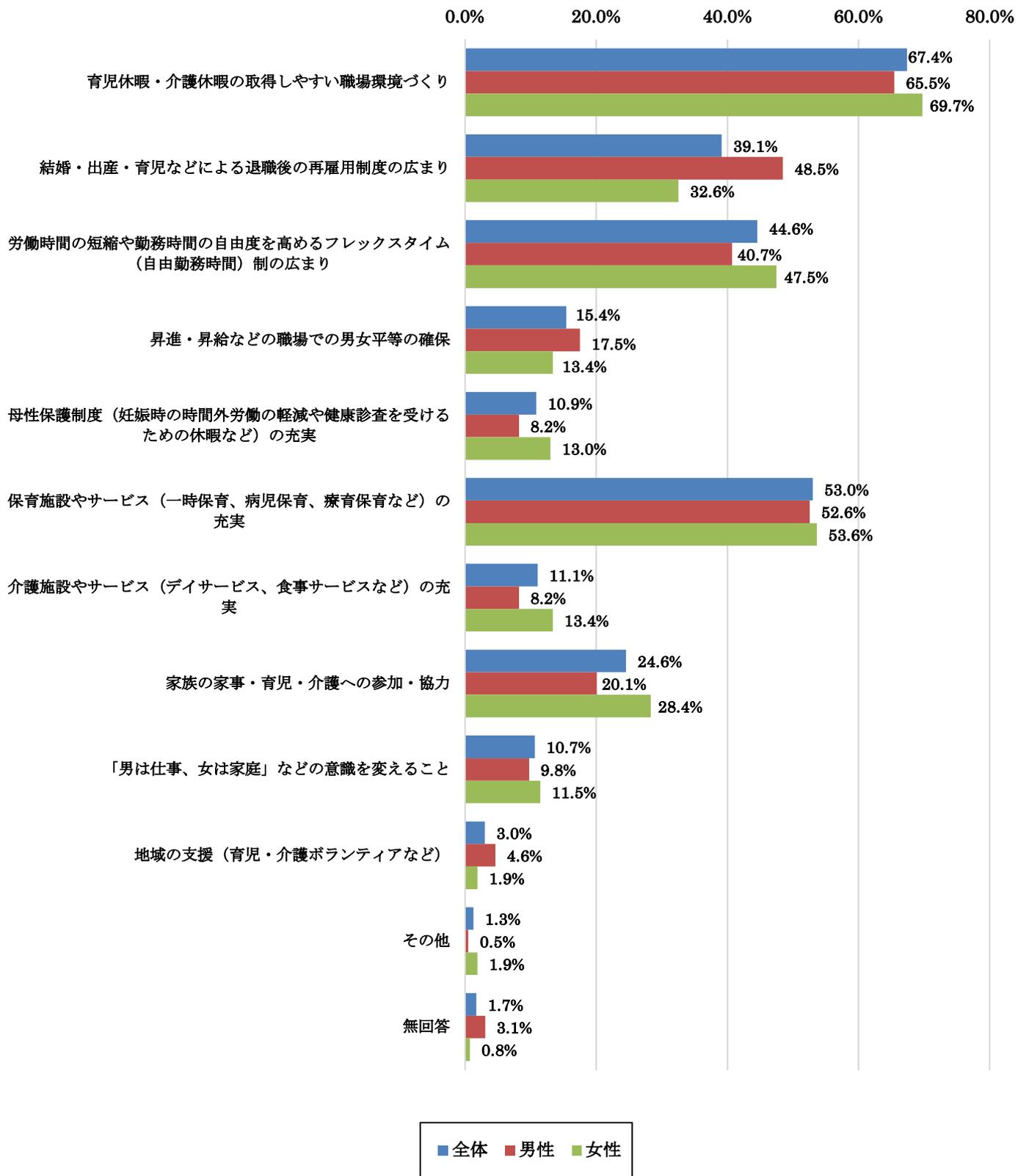
選択項目	全体			男性			女性			その他			答えたくない		
	今回		前回	今回		前回	今回		前回	今回		前回	今回		前回
	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比
女性は職業を持たない方がよい	0	0.0%	0.8%	0	0.0%	1.9%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	-	0	0.0%	-
結婚するまでは職業を持つ方がいい	5	1.1%	2.1%	5	2.6%	1.9%	0	0.0%	2.3%	0	0.0%	-	0	0.0%	-
子を授かるまでは職業を持つ方がいい	16	3.5%	6.4%	11	5.7%	7.7%	5	1.9%	5.5%	0	0.0%	-	0	0.0%	-
子を授かったら退職し、子育てが一段落したら再就職するのがよい	157	34.1%	32.6%	71	36.6%	26.5%	84	32.2%	37.0%	0	0.0%	-	2	100.0%	-
働き続けるべきである (子どもの有無にかかわらず)	203	44.1%	41.2%	80	41.2%	45.2%	122	46.7%	38.4%	1	100.0%	-	0	0.0%	-
その他	67	14.6%	5.9%	22	11.3%	6.5%	45	17.2%	5.5%	0	0.0%	-	0	0.0%	-
無回答	12	2.6%	11.0%	5	2.6%	10.3%	5	1.9%	11.4%	0	0.0%	-	0	0.0%	-
計	460	100.0%	100.0%	194	100.0%	100.0%	261	100.0%	100.0%	1	100.0%	-	2	100.0%	-



問21 あなたは、女性が働き続けたり、再就職したりするために、どのようなことが必要だと思いますか。（3つまで選択）

「育児休業・介護休業の取りやすい環境づくり」が、「全体」で67.4%最も多く、次いで「保育施設サービスの充実」が53.0%となっており、前回調査と同様の結果となっている。

選択項目	全体			男性			女性			その他			答えたくない		
	今回		前回	今回		前回	今回		前回	今回		前回	今回		前回
	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比
育児休業・介護休業の取得しやすい職場環境づくり	310	67.4%	75.7%	127	65.5%	75.5%	182	69.7%	75.8%	0	0.0%	-	1	25.0%	-
結婚・出産・育児などによる退職後の再雇用制度の広まり	180	39.1%	52.9%	94	48.5%	53.5%	85	32.6%	52.5%	0	0.0%	-	1	25.0%	-
労働時間の短縮や勤務時間の自由度を高めるフレックスタイム（自由勤務時間）制の広まり	205	44.6%	52.4%	79	40.7%	49.7%	124	47.5%	54.3%	1	100.0%	-	1	25.0%	-
昇進・昇給などの職場での男女平等の確保	71	15.4%	13.9%	34	17.5%	16.1%	35	13.4%	12.3%	1	100.0%	-	1	25.0%	-
母性保護制度（妊娠時の時間外労働の軽減や健康診査を受けるための休暇など）の充実	50	10.9%	29.4%	16	8.2%	30.3%	34	13.0%	28.8%	0	0.0%	-	0	0.0%	-
保育施設やサービス（一時保育、病児保育、療育保育など）の充実	244	53.0%	70.1%	102	52.6%	66.5%	140	53.6%	72.6%	1	100.0%	-	1	25.0%	-
介護施設やサービス（デイサービス、食事サービスなど）の充実	51	11.1%	29.1%	16	8.2%	26.5%	35	13.4%	31.1%	0	0.0%	-	0	0.0%	-
家族の家事・育児・介護への参加・協力	113	24.6%	37.4%	39	20.1%	32.3%	74	28.4%	41.1%	0	0.0%	-	0	0.0%	-
「男は仕事、女は家庭」などの意識を変えること	49	10.7%	11.0%	19	9.8%	11.6%	30	11.5%	10.5%	0	0.0%	-	0	0.0%	-
地域の支援（育児・介護ボランティアなど）	14	3.0%	9.6%	9	4.6%	7.7%	5	1.9%	11.0%	0	0.0%	-	0	0.0%	-
その他	6	1.3%	1.3%	1	0.5%	1.3%	5	1.9%	1.4%	0	0.0%	-	0	0.0%	-
無回答	8	1.7%	3.2%	6	3.1%	5.2%	2	0.8%	1.8%	0	0.0%	-	2	50.0%	-
計	1293	282.8%	386.1%	542	279.4%	376.2%	751	287.7%	393.1%	3	300.0%	-	7	175.0%	-
回答者数	460	-	-	194	-	-	261	-	-	1	-	-	4	-	-



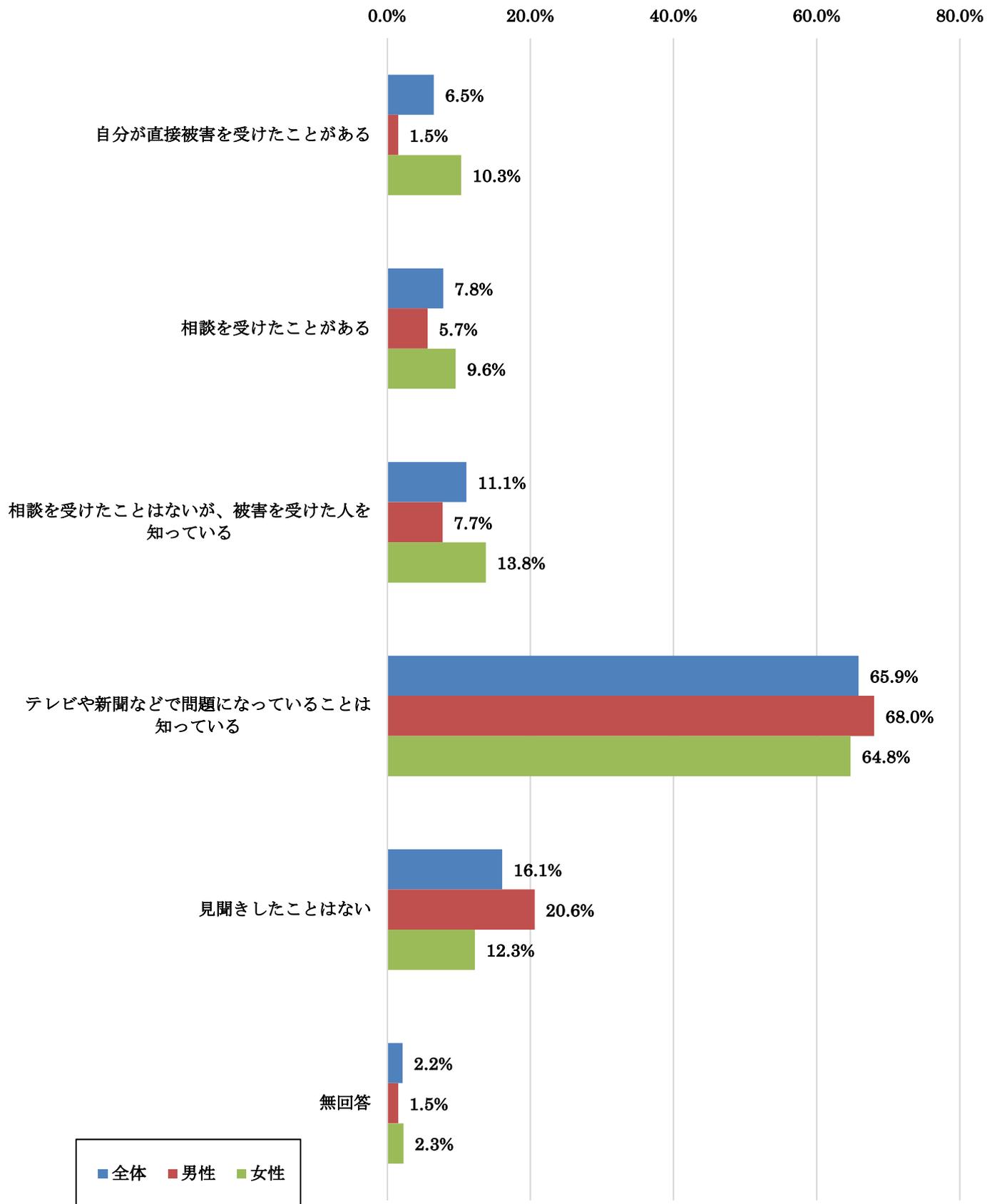
(7) 人権

問22-1 最近、パートナーなど親しい人からの心的・心理的な暴力が問題となっています。あなたは、

あなたは、このような被害を経験したり、身近で見聞きしたりしたことはありませんか。(あてはまるものすべて)

「テレビや新聞などで問題になっていることは知っているが、「全体」で65.9%と最も多く、次いで「見聞きしたことはない」となっている。男女とも、前回調査に比べ、「自分が直接被害を受けたことがある」が増加している。

選択項目	全体			男性			女性			その他			答えたくない		
	今回		前回	今回		前回	今回		前回	今回		前回	今回		前回
	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比
自分が直接被害を受けたことがある	30	6.5%	3.7%	3	1.5%	1.3%	27	10.3%	5.5%	0	0.0%	-	0	0.0%	-
相談を受けたことがある	36	7.8%	8.8%	11	5.7%	6.5%	25	9.6%	10.5%	0	0.0%	-	0	0.0%	-
相談を受けたことはないが、被害を受けた人を知っている	51	11.1%	13.4%	15	7.7%	9.7%	36	13.8%	16.0%	0	0.0%	-	0	0.0%	-
テレビや新聞などで問題になっていることは知っている	303	65.9%	65.8%	132	68.0%	61.3%	169	64.8%	68.9%	1	100.0%	-	1	25.0%	-
見聞きしたことはない	74	16.1%	12.3%	40	20.6%	16.8%	32	12.3%	9.1%	0	0.0%	-	2	50.0%	-
無回答	10	2.2%	5.9%	3	1.5%	4.5%	6	2.3%	6.8%	0	0.0%	-	1	25.0%	-
計	504	109.6%	109.9%	204	105.2%	100.0%	295	113.0%	116.9%	1	100.0%	-	4	100.0%	-
回答者数	460	-	-	194	-	-	261	-	-	1	-	-	4	-	-

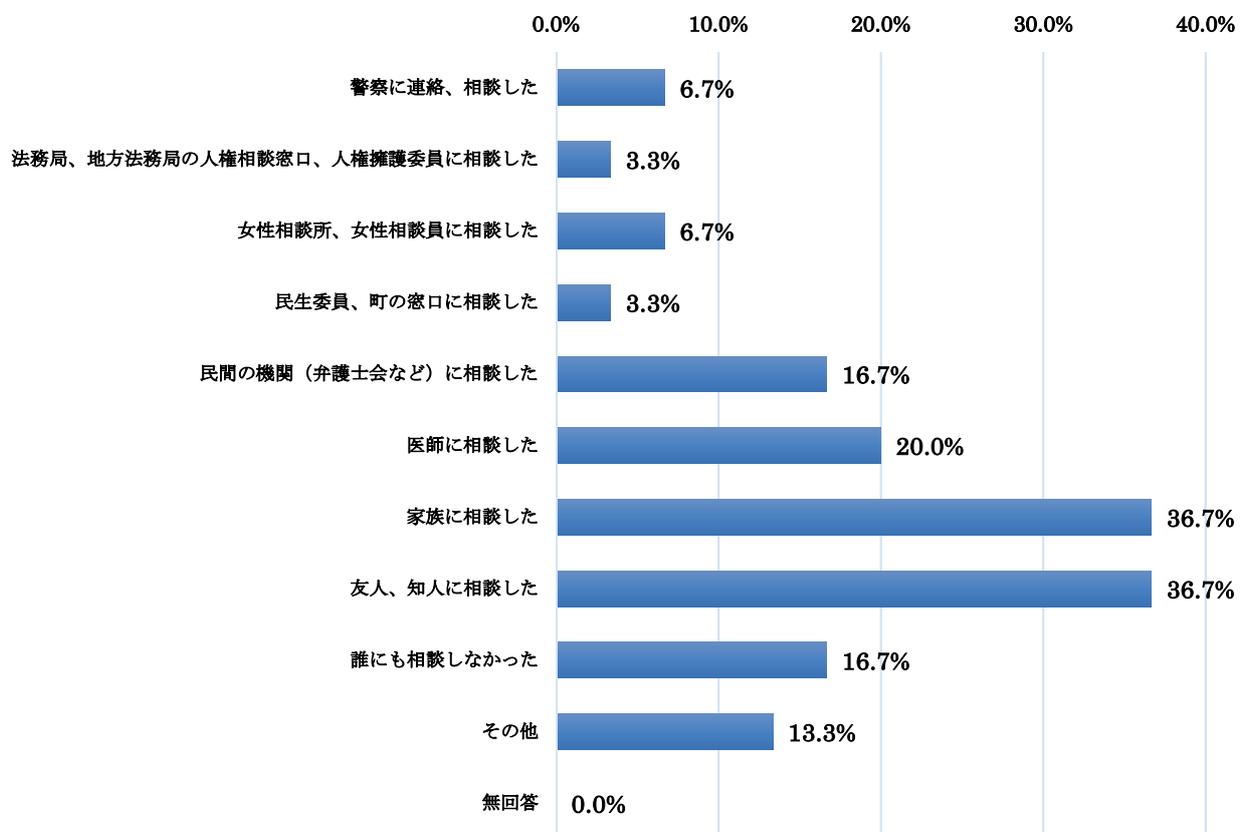


問2 2-2 【自分が直接被害を受けたことがある】を選ばれた方

⇒あなたがそのような経験をされた時、誰かに相談しましたか。（あてはまるものすべて）

「家族に相談した」、「友人、知人に相談した」が、最も多く、36.7%となっている。前回調査に比べ、「誰にも相談しなかった」が減少している。

選択項目	今回		前回	
	回答数	構成比	回答数	構成比
警察に連絡、相談した	2	6.7%	0	0.0%
法務局、地方法務局の人権相談窓口、人権擁護委員に相談した	1	3.3%	0	0.0%
女性相談所、女性相談員に相談した	2	6.7%	0	0.0%
民生委員、町の窓口相談した	1	3.3%	1	7.1%
民間の機関（弁護士会など）に相談した	5	16.7%	0	0.0%
医師に相談した	6	20.0%	0	0.0%
家族に相談した	11	36.7%	6	42.9%
友人、知人に相談した	11	36.7%	5	35.7%
誰にも相談しなかった	5	16.7%	7	50.0%
その他	4	13.3%	1	7.1%
無回答	0	0.0%	0	0.0%
計	48	160.0%	20	142.8%
回答者数	30	-	14	-

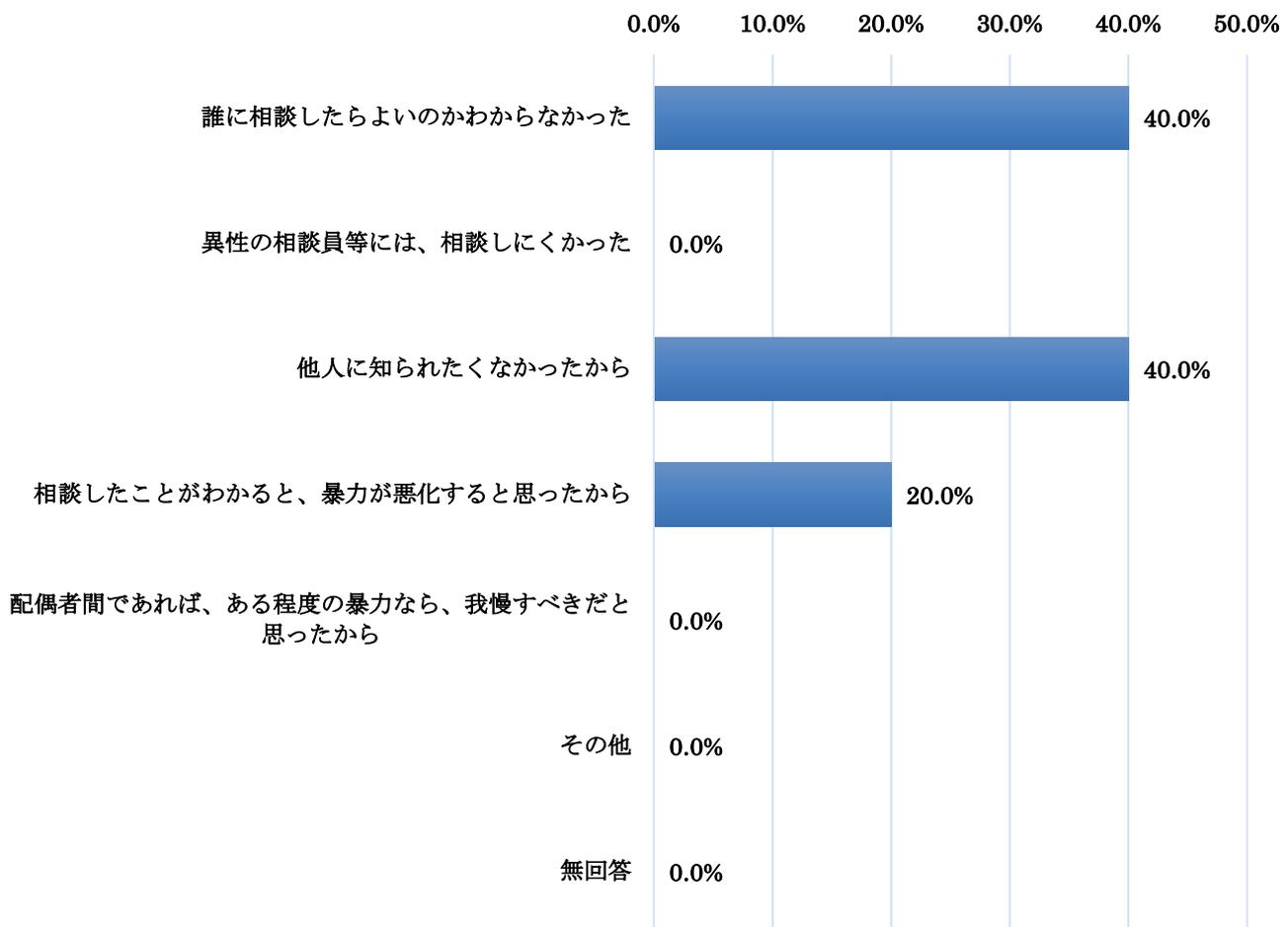


問2 2-3 【誰にも相談しなかった】を選ばれた方

⇒だれにも相談しなかったのはなぜですか。（あてはまるものすべて）

「誰に相談したらよいのかわからなかった」、「他人に知られたくなかった」が、最も多く、40.0%となっている。

選択項目	今回		前回	
	回答数	構成比	回答数	構成比
誰に相談したらよいのかわからなかった	2	40.0%	2	28.6%
異性の相談員等には、相談しにくかった	0	0.0%	0	0.0%
他人に知られたくなかったから	2	40.0%	5	71.4%
相談したことがわかると、暴力が悪化すると思ったから	1	20.0%	2	28.6%
配偶者間であれば、ある程度の暴力なら、我慢すべきだと思ったから	0	0.0%	2	28.6%
その他	0	0.0%	0	0.0%
無回答	0	0.0%	1	14.3%
計	5	100.0%	12	171.4%
回答者数	5	-	7	-

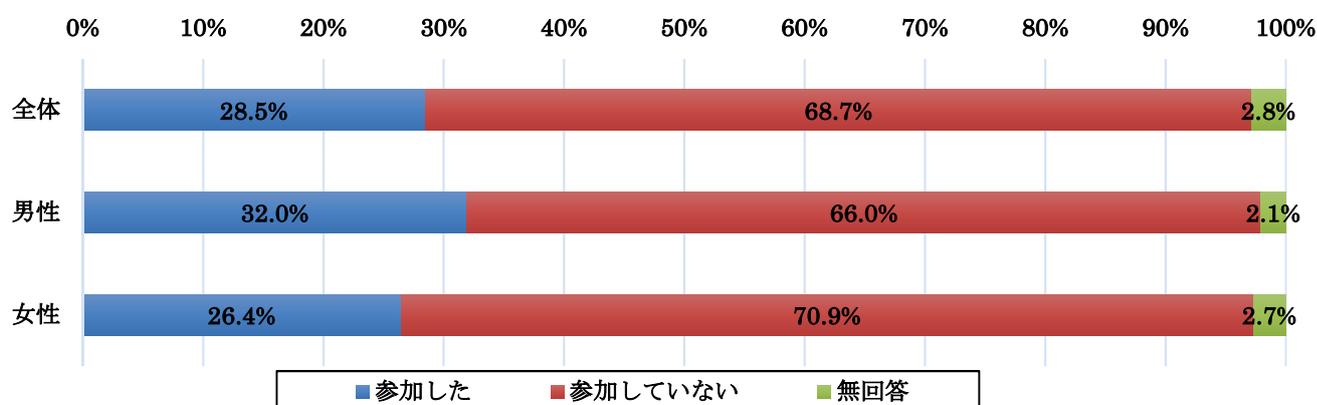


(8) 地域活動

問23-1 あなたは、この1年地域活動（ボランティア活動、まちづくり活動、サークル活動など）に参加されましたか。

「参加した」が、「全体」で28.5%、「参加していない」が68.7%となっており、前回調査同様の結果となった。

選択項目	全体			男性			女性			その他			答えたくない		
	今回		前回	今回		前回	今回		前回	今回		前回	今回		前回
	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比
参加した	131	28.5%	37.4%	62	32.0%	34.2%	69	26.4%	39.7%	0	0.0%	-	0	0.0%	-
参加していない	316	68.7%	58.8%	128	66.0%	61.9%	185	70.9%	56.6%	1	100.0%	-	2	50.0%	-
無回答	13	2.8%	3.7%	4	2.1%	3.9%	7	2.7%	3.7%	0	0.0%	-	2	50.0%	-
計	460	100.0%	100.0%	194	100.0%	100.0%	261	100.0%	100.0%	1	100.0%	-	4	100.0%	-



問23-2 【参加していない】を選ばれた方

⇒あなたが地域活動に参加されない主な理由は何ですか。

「仕事が忙しいから」が、最も多く、37.3%となっており、次いで「関心がないから」が17.7%となっている。

選択項目	全体		男性		女性		その他		答えたくない	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
仕事が忙しいから	118	37.3%	60	46.5%	57	31.3%	0	0.0%	1	25.0%
家事が忙しいから	9	2.8%	1	0.8%	8	4.4%	0	0.0%	0	0.0%
手のかかる子どもがいるから	9	2.8%	3	2.3%	6	3.3%	0	0.0%	0	0.0%
病人など介護を必要とする家族がいるから	11	3.5%	4	3.1%	6	3.3%	0	0.0%	1	25.0%
健康に自信がないから	19	6.0%	6	4.7%	13	7.1%	0	0.0%	0	0.0%
自分の知識・技術がないから	16	5.1%	4	3.1%	12	6.6%	0	0.0%	0	0.0%
人とつきあうのが苦手だから	32	10.1%	14	10.9%	17	9.3%	1	100.0%	0	0.0%
関心がないから	56	17.7%	25	19.4%	31	17.0%	0	0.0%	0	0.0%
その他	43	13.6%	11	8.5%	32	17.6%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	3	0.9%	1	0.8%	0	0.0%	0	0.0%	2	50.0%
計	316	100.0%	129	100.0%	182	100.0%	1	100.0%	4	100.0%

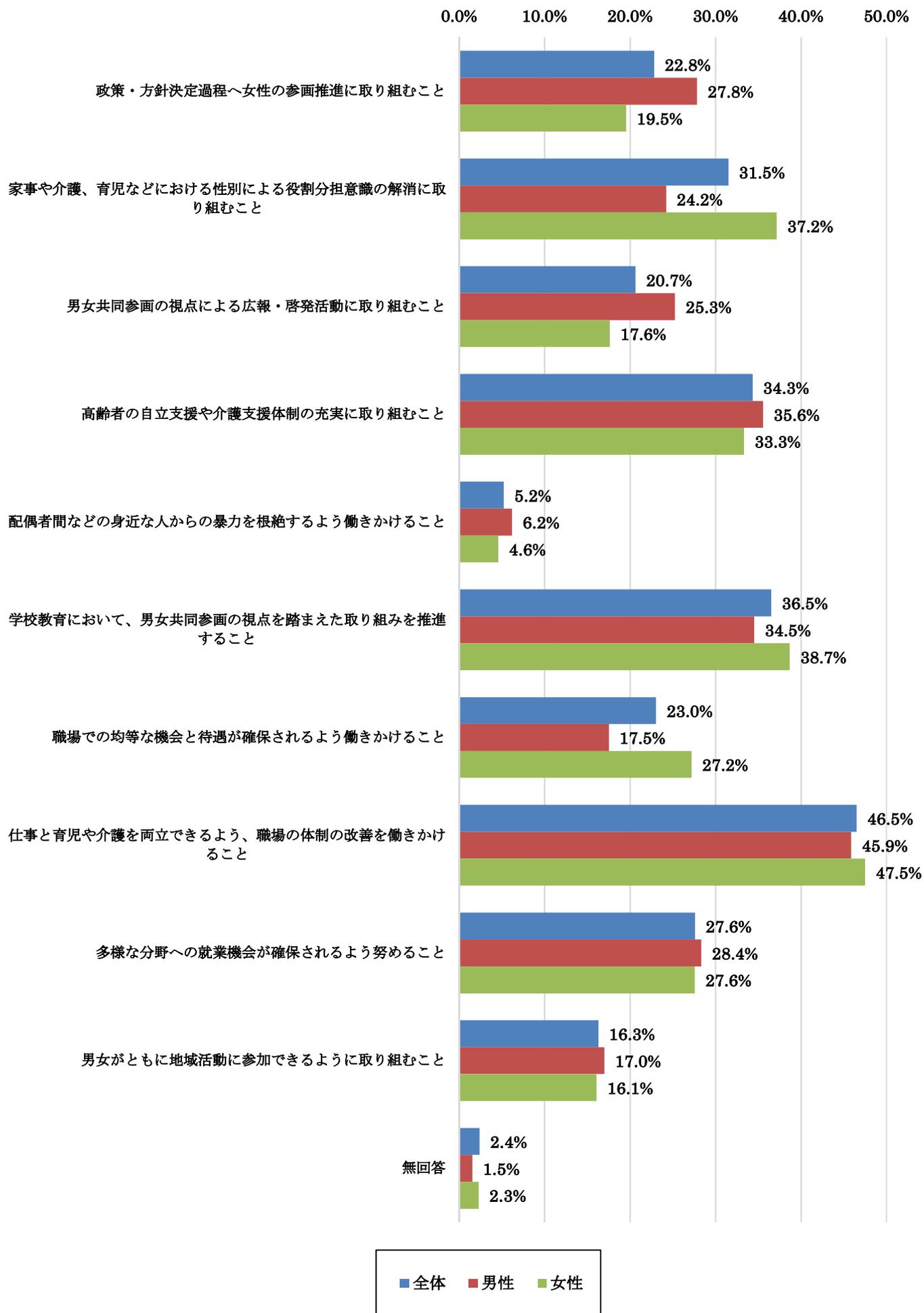
(9) 男女共同参画社会を実現するために必要な取り組み

問24 あなたは、今後、利府町でどのようなことに最も力を入れていくべきだとお考えですか。

(3つまで選択)

「仕事と育児や介護を両立できるよう、職場の体制の改善を働きかけること」が、最も多く、46.5%となっている。次いで「学校教育において、男女共同参画の視点を踏まえた取り組みを推進すること」が、36.5%となっている。

選択項目	全体			男性			女性			その他			答えたくない		
	今回		前回	今回		前回	今回		前回	今回		前回	今回		前回
	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比
政策・方針決定過程へ女性の参画推進に取り組むこと	105	22.8%	24.1%	54	27.8%	29.7%	51	19.5%	20.1%	0	0.0%	-	0	0.0%	-
家事や介護、育児などにおける性別による役割分担意識の解消に取り組むこと	145	31.5%	32.6%	47	24.2%	27.7%	97	37.2%	36.1%	1	100.0%	-	0	0.0%	-
男女共同参画の視点による広報・啓発活動に取り組むこと	95	20.7%	17.6%	49	25.3%	23.2%	46	17.6%	13.7%	0	0.0%	-	0	0.0%	-
高齢者の自立支援や介護支援体制の充実に取り組むこと	158	34.3%	52.7%	69	35.6%	52.3%	87	33.3%	53.0%	1	100.0%	-	1	25.0%	-
配偶者間などの身近な人からの暴力を根絶するよう働きかけること	24	5.2%	7.2%	12	6.2%	5.8%	12	4.6%	8.2%	0	0.0%	-	0	0.0%	-
学校教育において、男女共同参画の視点を踏まえた取り組みを推進すること	168	36.5%	28.3%	67	34.5%	25.2%	101	38.7%	30.6%	0	0.0%	-	0	0.0%	-
職場での均等な機会と待遇が確保されるよう働きかけること	106	23.0%	31.3%	34	17.5%	30.3%	71	27.2%	32.0%	1	100.0%	-	0	0.0%	-
仕事と育児や介護を両立できるよう、職場の体制の改善を働きかけること	214	46.5%	57.2%	89	45.9%	44.5%	124	47.5%	66.2%	0	0.0%	-	1	25.0%	-
多様な分野への就業機会が確保されるよう努めること	127	27.6%	29.1%	55	28.4%	34.2%	72	27.6%	25.6%	0	0.0%	-	0	0.0%	-
男女がともに地域活動に参加できるように取り組むこと	75	16.3%	23.3%	33	17.0%	29.7%	42	16.1%	18.7%	0	0.0%	-	0	0.0%	-
無回答	11	2.4%	7.4%	3	1.5%	6.4%	6	2.3%	8.2%	0	0.0%	-	2	50.0%	-
計	1228	267.0%	310.8%	512	263.9%	309.0%	709	271.6%	312.4%	3	300.0%	-	4	100.0%	-
回答者数	460	-	-	194	-	-	261	-	-	1	-	-	4	-	-



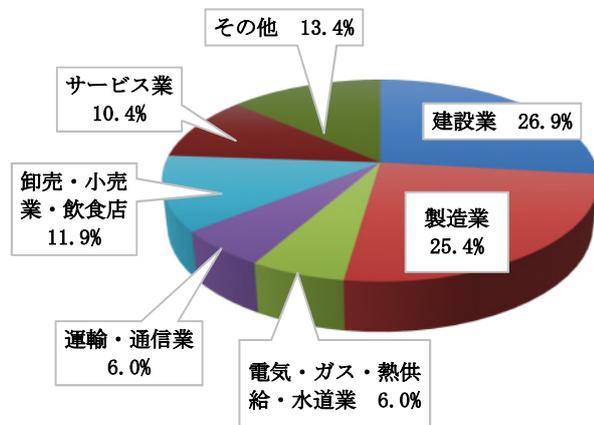
3. 男女共同参画社会に関する事業所アンケート調査結果（法人）

（1）属性等

問1 【業種】

「建設業」が26.9%と最も多く、次いで「製造業」が25.4%となっている。

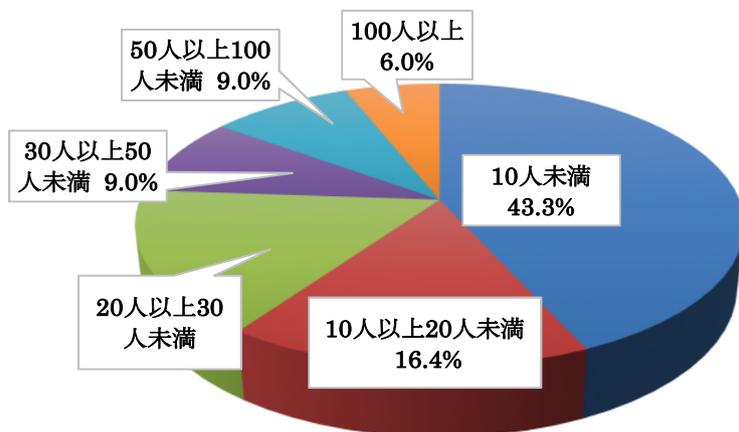
選択項目	今回		前回
	回答	構成比	構成比
建設業	18	26.9%	32.8%
製造業	17	25.4%	13.8%
電気・ガス・熱供給・水道業	4	6.0%	5.2%
運輸・通信業	4	6.0%	3.4%
卸売・小売業・飲食店	8	11.9%	15.5%
金融・保険業	0	0.0%	3.4%
不動産業	0	0.0%	0.0%
サービス業	7	10.4%	17.2%
その他	9	13.4%	8.6%
計	67	100.0%	100.0%



問2 【従業員の性別雇用形態数】

従業員の総数は「10人未満」の事業所43.3%と最も多く、次いで「10人以上20人未満」「20人以上30人未満」が16.4%となっている。

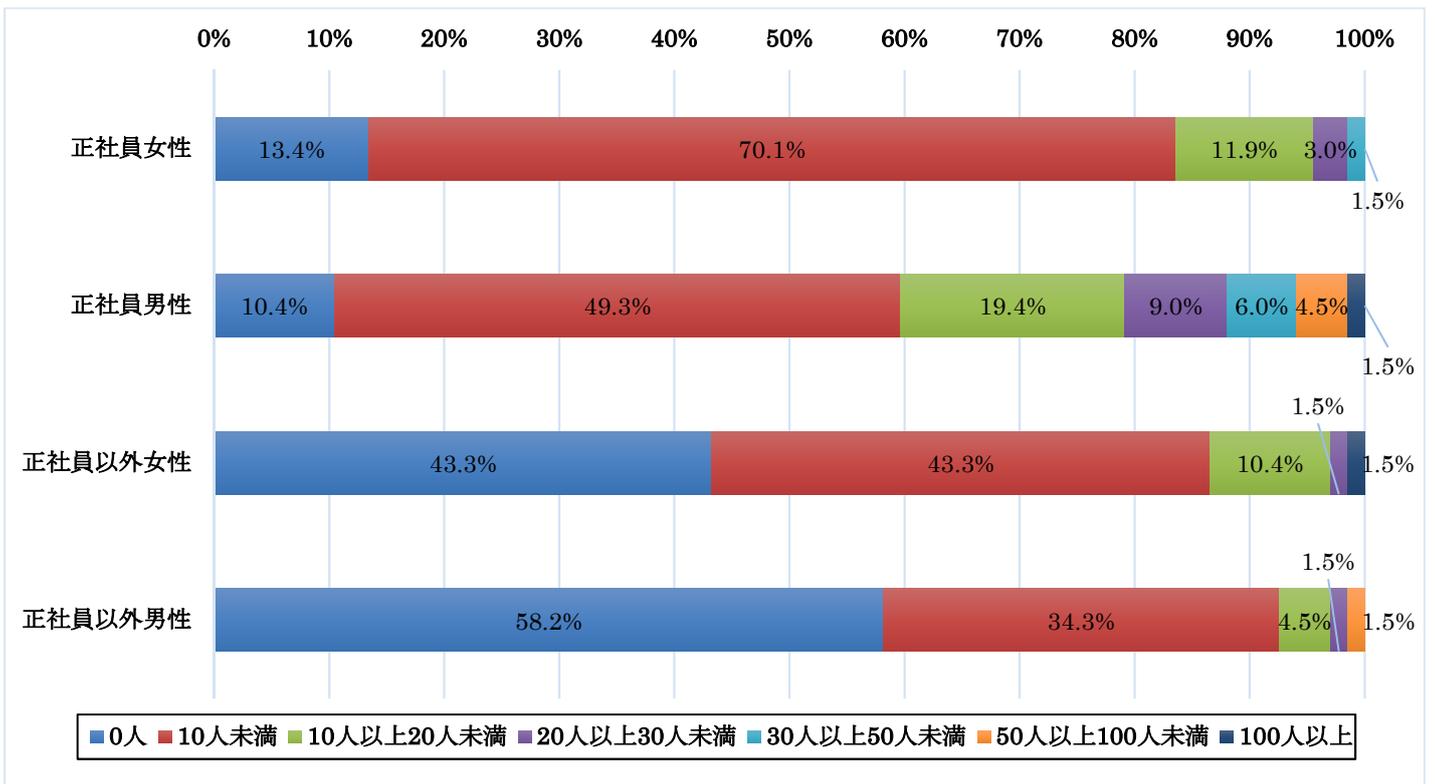
選択項目	今回		前回
	回答数	構成比	構成比
10人未満	29	43.3%	37.9%
10人以上20人未満	11	16.4%	24.1%
20人以上30人未満	11	16.4%	8.6%
30人以上50人未満	6	9.0%	10.3%
50人以上100人未満	6	9.0%	10.3%
100人以上	4	6.0%	8.6%
計	67	100.0%	100.0%



【従業員の性別雇用形態】

「正社員女性」は「10人未満」の事業所が70.1%と最も多く大半を占めている。「正社員男性」は「10人未満」が49.3%と最も多く、次いで「10人以上20人未満」、「0人」、「20人以上30人未満」となっている。

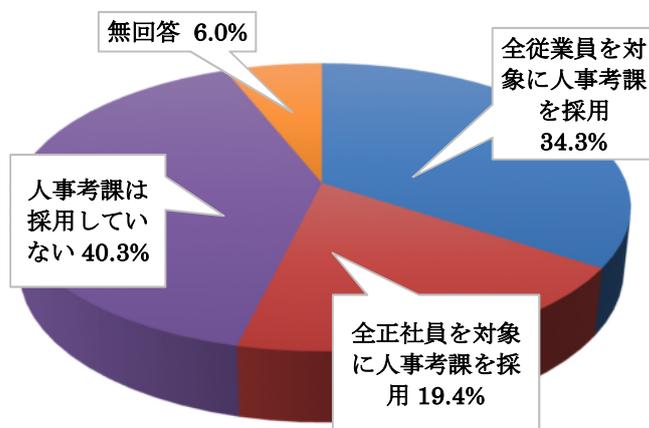
選択項目	正社員女性			正社員男性			正社員以外女性			正社員以外男性		
	今回		前回	今回		前回	今回		前回	今回		前回
	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比
0人	9	13.4%	20.7%	7	10.4%	6.9%	29	43.3%	44.8%	39	58.2%	58.6%
10人未満	47	70.1%	65.5%	33	49.3%	50.0%	29	43.3%	39.7%	23	34.3%	25.9%
10人以上 20人未満	8	11.9%	5.2%	13	19.4%	22.4%	7	10.4%	6.9%	3	4.5%	12.1%
20人以上 30人未満	2	3.0%	1.7%	6	9.0%	8.6%	1	1.5%	6.9%	1	1.5%	1.7%
30人以上 50人未満	1	1.5%	3.4%	4	6.0%	6.9%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	1.7%
50人以上 100人未満	0	0.0%	3.4%	3	4.5%	5.2%	0	0.0%	1.7%	1	1.5%	0.0%
100人以上	0	0.0%	0.0%	1	1.5%	0.0%	1	1.5%	0.0%	0	0.0%	0.0%
計	67	100.0%	100%	67	100.0%	100.0%	67	100.0%	100.0%	67	100.0%	100.0%



問3-1 人事考課は採用されていますか。

「人事考課は採用していない」が40.3%と最も多く、次いで「全従業員を対象に人事考課を採用」が34.3%となっており、前回調査と同様な結果になっている。

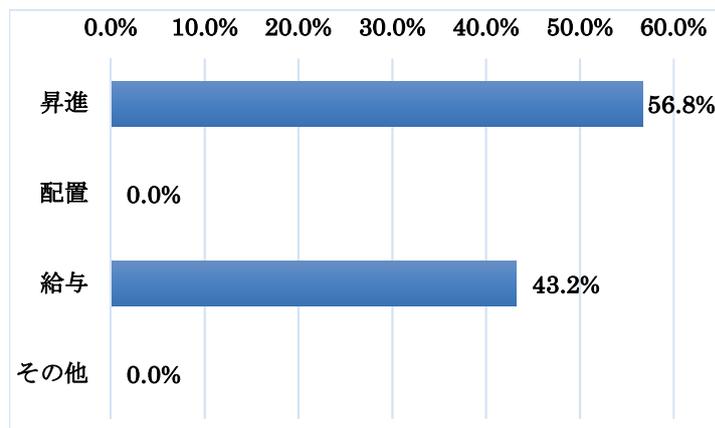
選択項目	今回		前回
	回答数	構成比	構成比
全従業員を対象に人事考課を採用	23	34.3%	31.0%
全正社員を対象に人事考課を採用	13	19.4%	13.8%
一部の正社員を対象に人事考課を採用	0	0.0%	0.0%
人事考課は採用していない	27	40.3%	41.4%
その他	0	0.0%	0.0%
無回答	4	6.0%	13.8%
計	67	100.0%	100.0%



問3-2 【人事考課採用活用内容】採用されている場合どのようなことにご活用されていますか。

「昇進」が56.8%と最も多く、次いで「給与」が43.2%となっている。

選択項目	今回		前回
	回答数	構成比	構成比
昇進	21	56.8%	30.8%
配置	0	0.0%	23.1%
給与	16	43.2%	88.5%
その他	0	0.0%	7.7%
計	37	100.0%	150.1%

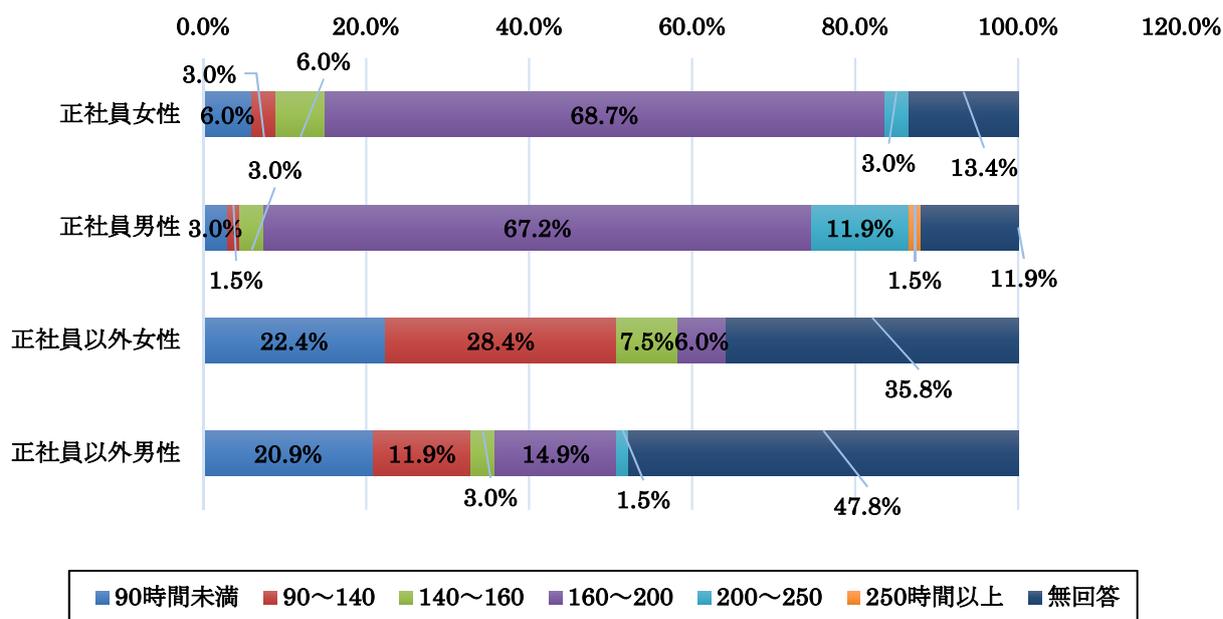


問4 【1か月の平均労働時間】

「正社員」では、男女ともに「160～200時間未満」が最も多くなっており、前回調査と比べ、「正社員女性」が11.8%増加し、「正社員男性」は5.1%増加しているが、男女とも「200時間以上」は減少している。

また、「正社員以外」では、「女性」は「90～140時間未満」、「男性」は「90時間未満」が最も多くなっている。

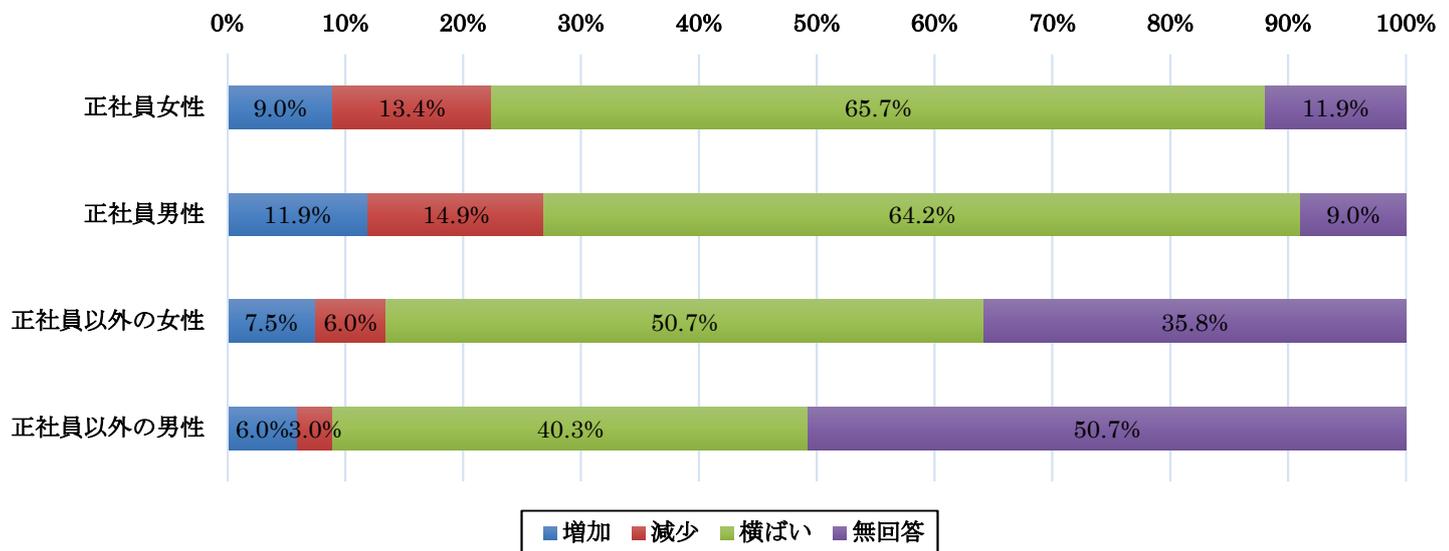
	正社員女性			正社員男性			正社員以外女性			正社員以外男性		
	今回		前回	今回		前回	今回		前回	今回		前回
	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比
90時間未満	4	6.0%	8.6%	2	3.0%	8.6%	15	22.4%	19.0%	14	20.9%	6.9%
90～140	2	3.0%	1.7%	1	1.5%	3.4%	19	28.4%	8.6%	8	11.9%	8.6%
140～160	4	6.0%	3.4%	2	3.0%	1.7%	5	7.5%	10.3%	2	3.0%	3.4%
160～200	46	68.7%	56.9%	45	67.2%	62.1%	4	6.0%	10.3%	10	14.9%	19.0%
200～250	2	3.0%	8.6%	8	11.9%	13.8%	0	0.0%	1.7%	1	1.5%	5.2%
250時間以上	0	0.0%	0.0%	1	1.5%	1.7%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%
無回答	9	13.4%	20.7%	8	11.9%	8.6%	24	35.8%	50.0%	32	47.8%	56.9%
計	67	100.0%	100.0%	67	100.0%	100.0%	67	100.0%	100.0%	67	100.0%	100.0%



問5 【最近2～3年程度の男女労働時間の増減傾向】

全ての従業員で「横ばい」が最も多くなっている。前回調査と比べ、正社員は男女とも「増加」が減り、「減少」が増えているが、正社員以外は男女とも「増加」が増え、「減少」が減っている。

選択項目	正社員女性			正社員男性			正社員以外の女性			正社員以外の男性		
	今回		前回	今回		前回	今回		前回	今回		前回
	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比
増加	6	9.0%	12.1%	8	11.9%	13.8%	5	7.5%	5.2%	4	6.0%	5.2%
減少	9	13.4%	5.2%	10	14.9%	12.1%	4	6.0%	6.9%	2	3.0%	6.9%
横ばい	44	65.7%	63.8%	43	64.2%	65.5%	34	50.7%	50.0%	27	40.3%	41.4%
無回答	8	11.9%	19.0%	6	9.0%	8.6%	24	35.8%	37.9%	34	50.7%	46.6%
計	67	100.0%	100.0%	67	100.0%	100.0%	67	100.0%	100.0%	67	100.0%	100.0%

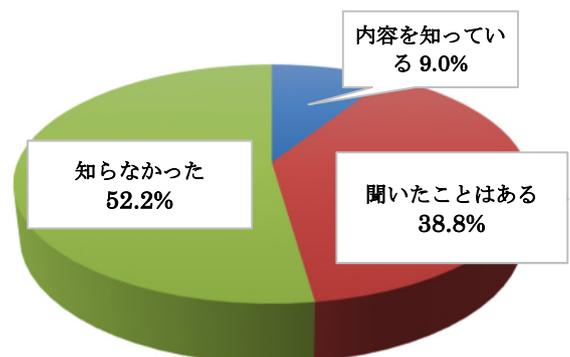


(2) 「第3次利府町男女共同参画基本計画」

問6 【利府町男女共同参画基本計画】

「内容を知っている」が9.0%、「聞いたことはある」を合わせ、47.8%となっている。

選択項目	今回		前回
	回答数	構成比	構成比
内容を知っている	6	9.0%	15.5%
聞いたことはある	26	38.8%	31.0%
知らなかった	35	52.2%	31.0%
無回答	0	0.0%	22.4%
計	67	100.0%	100.0%



(3) 募集・採用

問7 過去3か年の従業員や派遣社員の採用実績は何人ですか。

○正社員 女性

過去3年間、「正社員女性」を採用していない事業所が平均して3割と多く、次いで「1人以上4人」となっている。

選択項目	平成30年度		令和元年度		令和2年度	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
0人	17	25.4%	19	28.4%	21	31.3%
1～4人	17	25.4%	18	26.9%	15	22.4%
5～9人	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
10人以上	2	3.0%	2	3.0%	3	4.5%
無回答	31	46.3%	28	41.8%	28	41.8%
計	67	100.0%	67	100.0%	67	100.0%

○正社員 男性

過去3年間、「正社員男性」を「1人以上5人未満」採用している事業所は平均して4割と多く、採用していない事業所は平均して2割となっている。

選択項目	平成30年度		令和元年度		令和2年度	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
0人	13	19.4%	11	16.4%	14	20.9%
1～5人	21	31.3%	27	40.3%	25	37.3%
5～10人	8	11.9%	7	10.4%	4	6.0%
10人以上	2	3.0%	2	3.0%	4	6.0%
無回答	23	34.3%	20	29.9%	20	29.9%
計	67	100.0%	67	100.0%	67	100.0%

○正社員以外 女性

過去3年間、採用していない事業所が平均して2割以上となっている。

選択項目	平成30年度		令和元年度		令和2年度	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
0人	14	20.9%	15	22.4%	15	22.4%
1～4人	9	13.4%	6	9.0%	10	14.9%
5～9人	2	3.0%	3	4.5%	4	6.0%
10人以上	2	3.0%	2	3.0%	1	1.5%
無回答	40	59.7%	41	61.2%	37	55.2%
計	67	100.0%	67	100.0%	67	100.0%

○正社員以外 男性

過去3年間、採用していない事業所が平均して2割以上となっている。

選択項目	平成30年度		令和元年度		令和2年度	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
0人	15	22.4%	16	23.9%	16	23.9%
1～5人	6	9.0%	8	11.9%	7	10.4%
5～10人	3	4.5%	0	0.0%	0	0.0%
10人以上	1	1.5%	2	3.0%	2	3.0%
無回答	42	62.7%	41	61.2%	42	62.7%
計	67	100.0%	67	100.0%	67	100.0%

○派遣 女性

過去3年間、採用していない事業所は2割となっている。

選択項目	平成30年度		令和元年度		令和2年度	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
0人	17	25.4%	16	23.9%	18	26.9%
1～4人	2	3.0%	3	4.5%	2	3.0%
5～9人	1	1.5%	1	1.5%	1	1.5%
10人以上	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	47	70.1%	47	70.1%	46	68.7%
計	67	100.0%	67	100.0%	67	100.0%

○派遣 男性

過去3年間、採用した事業所はわずか2事業所となっている。

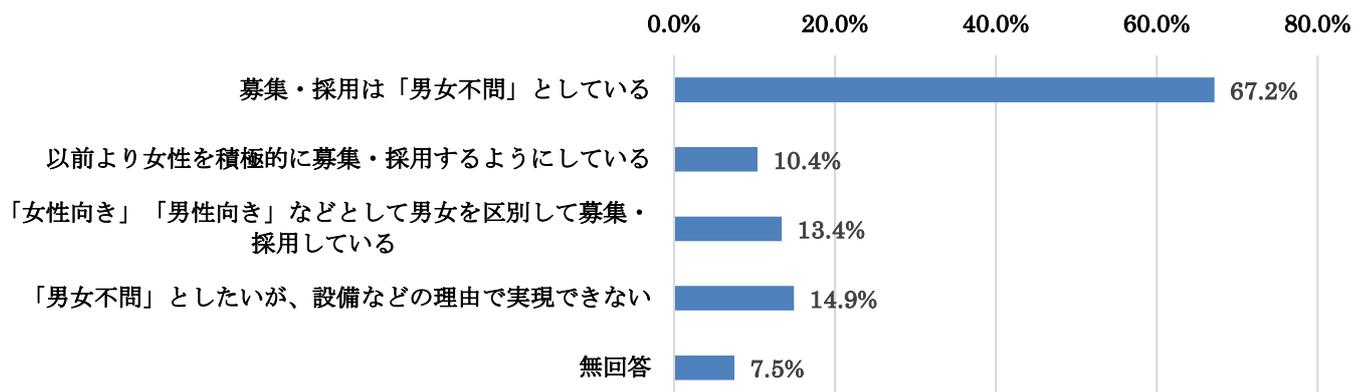
選択項目	平成30年度		令和元年度		令和2年度	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
0人	16	23.9%	16	23.9%	17	25.4%
1～5人	1	1.5%	1	1.5%	3	4.5%
5～10人	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
10人以上	1	1.5%	1	1.5%	1	1.5%
無回答	49	73.1%	49	73.1%	46	68.7%
計	67	100.0%	67	100.0%	67	100.0%

問8 貴事業所では、男女雇用均等の観点から、従業員の募集・採用に際して、どのように対応されていますか。

(2つまで選択)

「募集・採用は「男女不問」としている」が、67.2%と最も多く、次いで「男女不問」としたいが、設備などの理由で実現できない」が、14.9%となっている。

選択項目	今回		前回
	回答数	構成比	構成比
募集・採用は「男女不問」としている	45	67.2%	48.3%
以前より女性を積極的に募集・採用するようにしている	7	10.4%	29.3%
「女性向き」「男性向き」などとして男女を区別して募集・採用している	9	13.4%	10.3%
「男女不問」としたいが、設備などの理由で実現できない	10	14.9%	20.7%
無回答	5	7.5%	5.2%
計	76	113.4%	113.8%



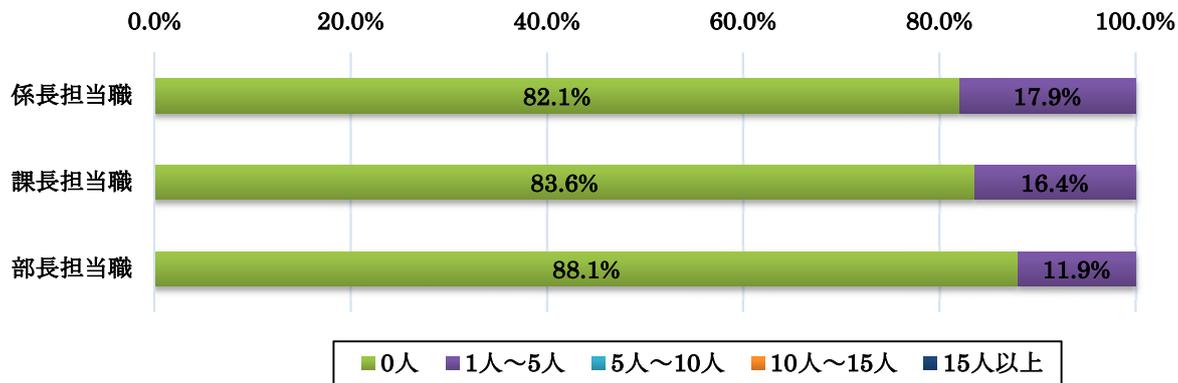
(4) 配置・昇進

問9 貴事業所における係長以上の管理職の男女別人数をご記入ください。

○女性

「女性管理職がない」事業所が大半を占めており、前回調査と同様の結果となっている。

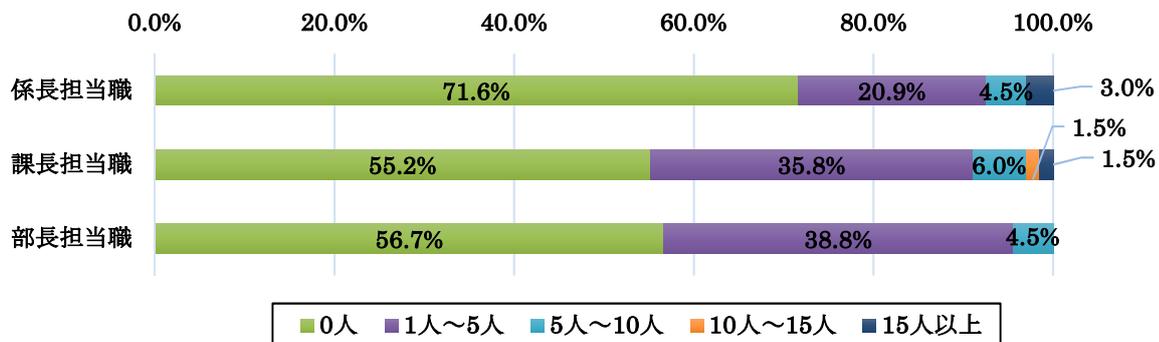
選択項目	係長担当職			課長担当職			部長担当職		
	今回		前回	今回		前回	今回		前回
	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比
0人	55	82.1%	75.9%	56	83.6%	91.4%	59	88.1%	89.7%
1人～5人	12	17.9%	22.4%	11	16.4%	8.6%	8	11.9%	10.3%
5人～10人	0	0.0%	1.7%	0	0.0%	0%	0	0.0%	0.0%
10人～15人	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0%	0	0.0%	0.0%
15人以上	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0%	0	0.0%	0.0%
計	67	100.0%	100.0%	67	100.0%	100%	67	100.0%	100.0%



○男性

「男性管理職」は前回調査と比べ、増加している。

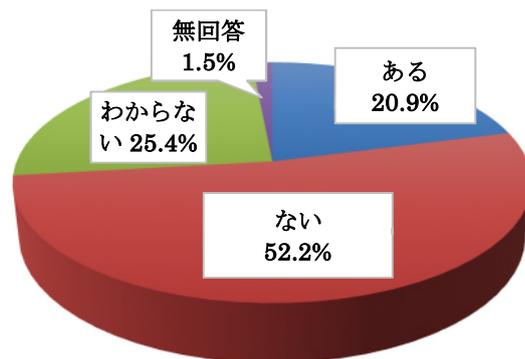
選択項目	係長担当職			課長担当職			部長担当職		
	今回		前回	今回		前回	今回		前回
	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比
0人	48	71.6%	56.9%	37	55.2%	46.6%	38	56.7%	58.6%
1人～5人	14	20.9%	34.5%	24	35.8%	46.6%	26	38.8%	39.7%
5人～10人	3	4.5%	5.2%	4	6.0%	6.9%	3	4.5%	1.7%
10人～15人	0	0.0%	1.7%	1	1.5%	0%	0	0.0%	0.0%
15人以上	2	3.0%	1.7%	1	1.5%	0%	0	0.0%	0.0%
計	67	100.0%	100.0%	67	100.0%	100%	67	100.0%	100.0%



問10 女性管理職を増やそうとした場合、課題となることはございますか。

「ない」が52.2%と最も多く、前回調査より0.5%増加し、「ある」は3.2%減少している。

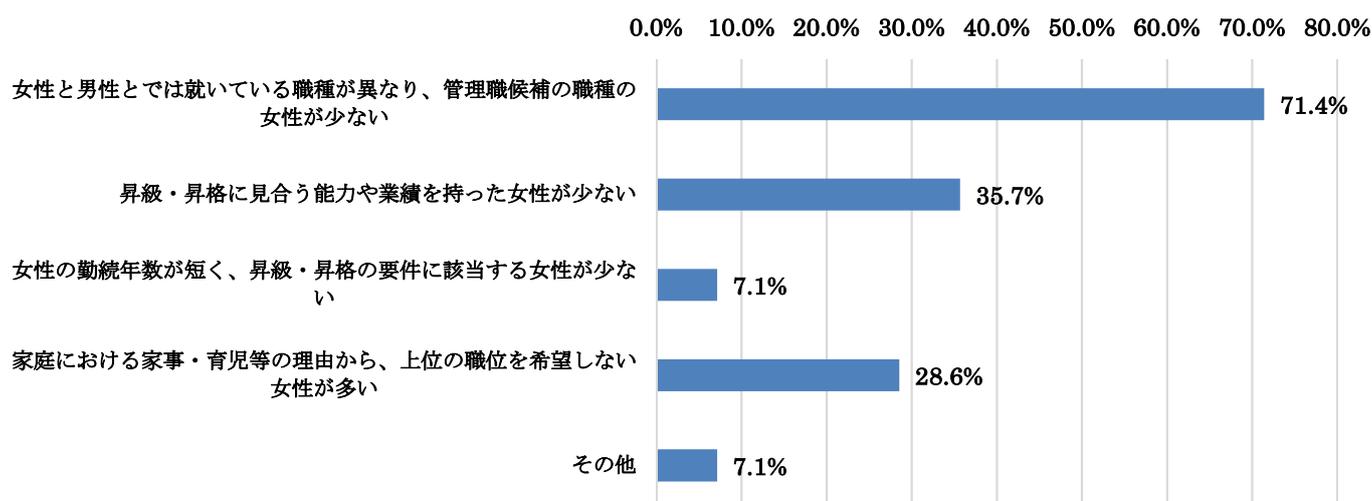
選択項目	今回		前回
	回答数	構成比	構成比
ある	14	20.9%	24.1%
ない	35	52.2%	51.7%
わからない	17	25.4%	17.2%
無回答	1	1.5%	6.9%
計	67	100.0%	100.0%



問10-2 【「ある」を選ばれた事業所】課題は具体的にどのようなことですか。（あてはまるもの全て）

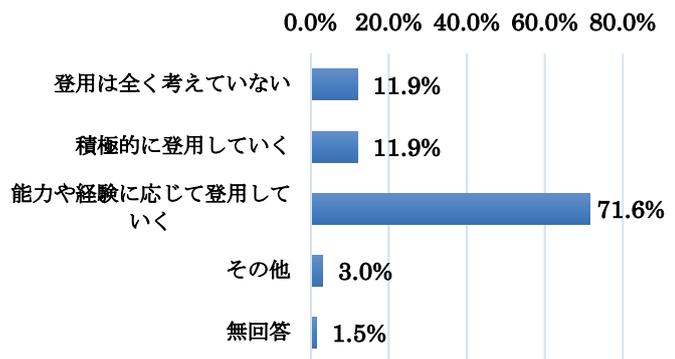
「女性と男性とでは就いている職種が異なり、管理職候補の職種の女性が少ない」が71.4%と最も多く、次いで「昇級・昇格に見合う能力や業績を持った女性が少ない」となっている。

選択項目	今回		前回
	回答数	構成比	構成比
女性と男性とでは就いている職種が異なり、管理職候補の職種の女性が少ない	10	71.4%	64.3%
昇級・昇格に見合う能力や業績を持った女性が少ない	5	35.7%	50.0%
女性の勤続年数が短く、昇級・昇格の要件に該当する女性が少ない	1	7.1%	35.7%
家庭における家事・育児等の理由から、上位の職位を希望しない女性が多い	4	28.6%	28.6%
その他	1	7.1%	7.1%
計	21	150.0%	185.7%



問1 1 女性の管理職の登用についてどのようにお考えですか。(あてはまるもの全て)
 「能力や経験に応じて登用していく」が71.6%と圧倒的に多い結果となっている。

選択項目	今回		前回
	回答数	構成比	構成比
登用は全く考えていない	8	11.9%	22.4%
積極的に登用していく	8	11.9%	19.0%
能力や経験に応じて登用していく	48	71.6%	51.7%
その他	2	3.0%	6.9%
無回答	1	1.5%	5.2%
計	67	100.0%	105.2%

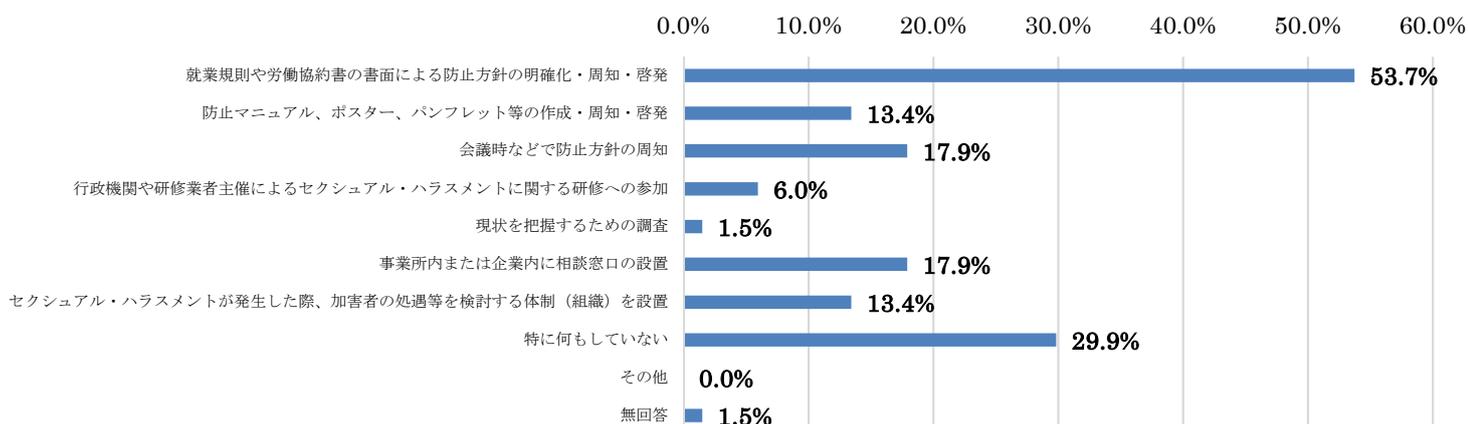


(5) セクシュアル・ハラスメント

問1 2 男女雇用機会均等法の施行に伴い、職場におけるセクシュアル・ハラスメントについて必要な措置を講ずることが事業主の義務となりました。事業所において、現在実施している、もしくは今後実施を考えている取り組みはございますか。(あてはまるもの全て)

「就業規則や労働協約書の書面による防止方針の明確化・周知・啓発」が53.7%と最も多く、次いで「特に何もしていない。」となっている。

選択項目	今回		前回
	回答数	構成比	構成比
就業規則や労働協約書の書面による防止方針の明確化・周知・啓発	36	53.7%	36.2%
防止マニュアル、ポスター、パンフレット等の作成・周知・啓発	9	13.4%	13.8%
会議時などで防止方針の周知	12	17.9%	25.9%
行政機関や研修業者主催によるセクシュアル・ハラスメントに関する研修への参加	4	6.0%	10.3%
現状を把握するための調査	1	1.5%	5.2%
事業所内または企業内に相談窓口の設置	12	17.9%	17.2%
セクシュアル・ハラスメントが発生した際、加害者の処遇等を検討する体制(組織)を設置	9	13.4%	10.3%
特に何もしていない	20	29.9%	34.5%
その他	0	0.0%	1.7%
無回答	1	1.5%	5.2%
計	104	155.2%	160.3%



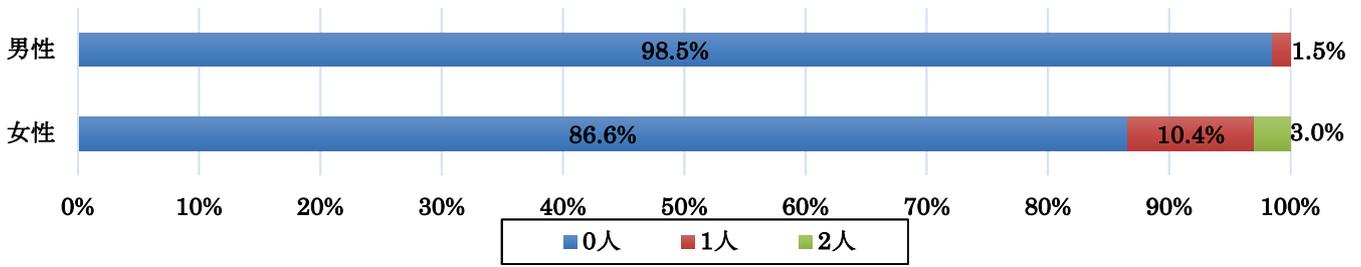
(6) 育児・介護等

問13 貴事業所において、育児休業または介護休業の制度を利用した方は何人いますか。

○育児休業制度

男女ともに育児休業制度の利用者がいない事業所が大半を占めている。また、「男性」では、1事業所で制度利用していたが、男性の育児休業制度利用は、なかなか進まない状況である。

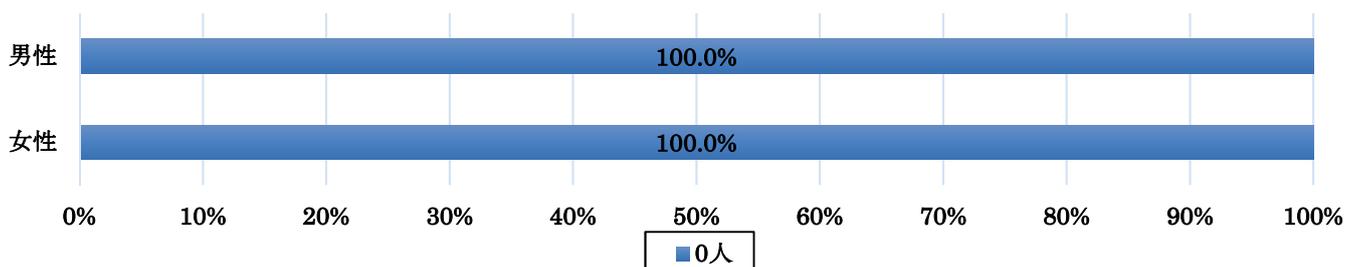
選択項目	女性			男性		
	今回		前回	今回		前回
	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比
0人	58	86.6%	77.6%	66	98.5%	100.0%
1人	7	10.4%	10.3%	1	1.5%	0.0%
2人	2	3.0%	6.9%	0	0.0%	0.0%
3人	0	0.0%	1.7%	0	0.0%	0.0%
4人	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%
5~10人	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%
10~15人	0	0.0%	3.4%	0	0.0%	0.0%
計	67	100.0%	100.0%	67	100.0%	100.0%



○介護休業制度

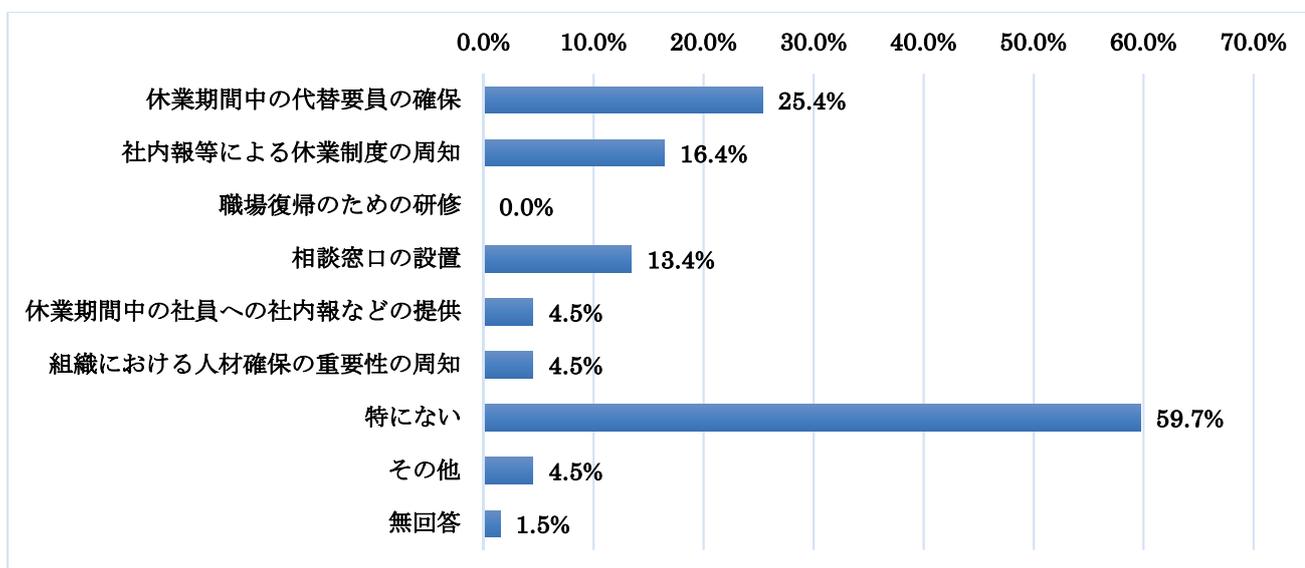
介護休業制度の利用者がいる事業所は、「女性」も「男性」もなかった。

選択項目	女性			男性		
	今回		前回	今回		前回
	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比
0人	67	100.0%	100.0%	67	100.0%	100.0%
1人	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%
2人	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%
3人	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%
4人	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%
5~10人	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%
10~15人	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%
計	67	100.0%	100.0%	67	100.0%	100.0%



問14 育児休業や介護休業制度の実施に伴い、取り組んでいることはありますか。(あてはまるものすべて)。
「特にない」が59.7%と最も多くなっている。

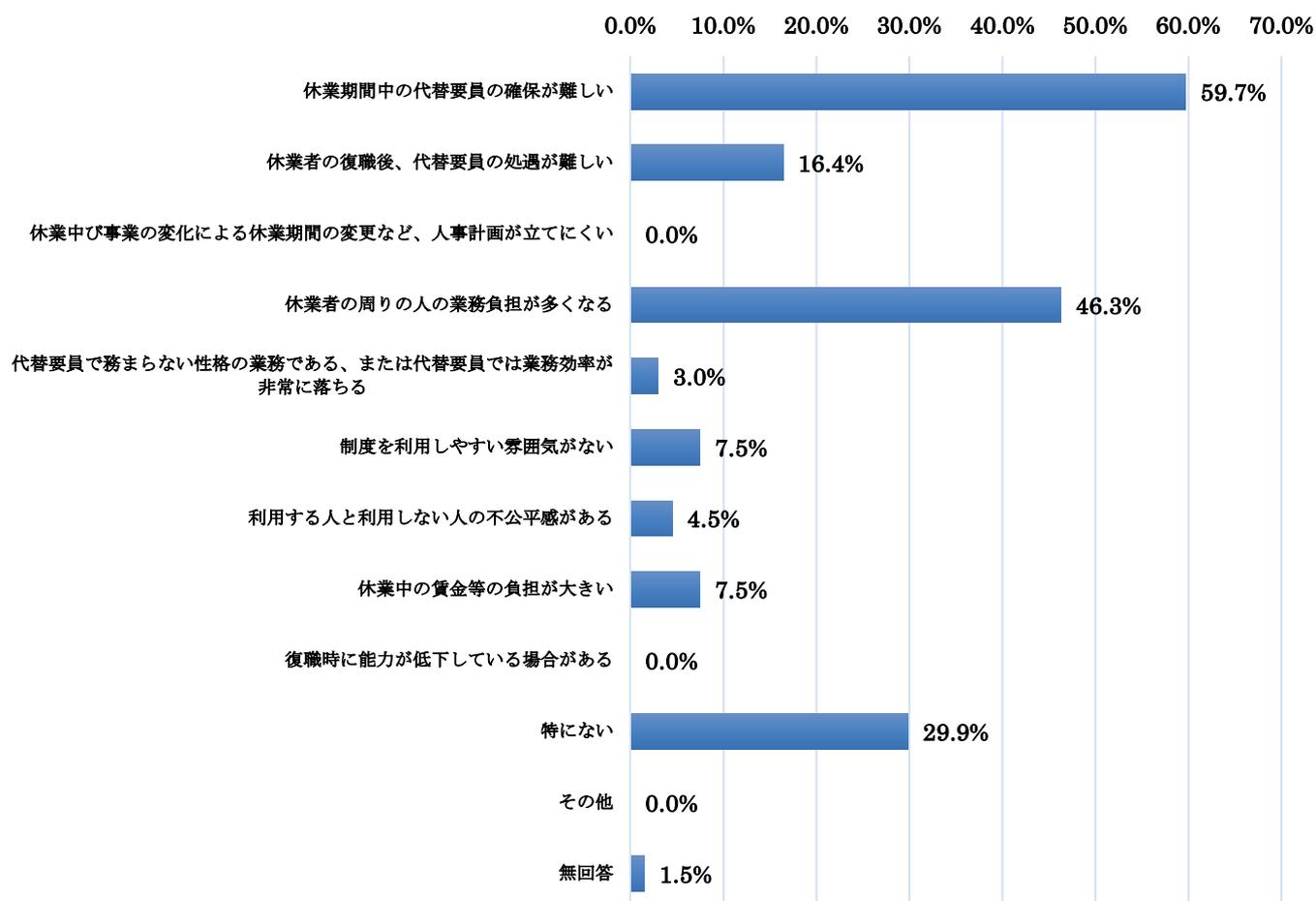
選択項目	今回		前回
	回答数	構成比	構成比
休業期間中の代替要員の確保	17	25.4%	29.3%
社内報等による休業制度の周知	11	16.4%	8.6%
職場復帰のための研修	0	0.0%	5.2%
相談窓口の設置	9	13.4%	10.3%
休業期間中の社員への社内報などの提供	3	4.5%	8.6%
組織における人材確保の重要性の周知	3	4.5%	-
特にない	40	59.7%	55.2%
その他	3	4.5%	3.4%
無回答	1	1.5%	1.7%
計	87	129.9%	122.3%



問15 育児・介護休業制度の普及にあたって、特に問題と思われることはございますか。(3つ選択)

「休業期間中の代替要員の確保が難しい」が、59.7%と最も多く、次いで、「休業者の周りの人の業務負担が多くなる」と前回調査同様の結果となった。

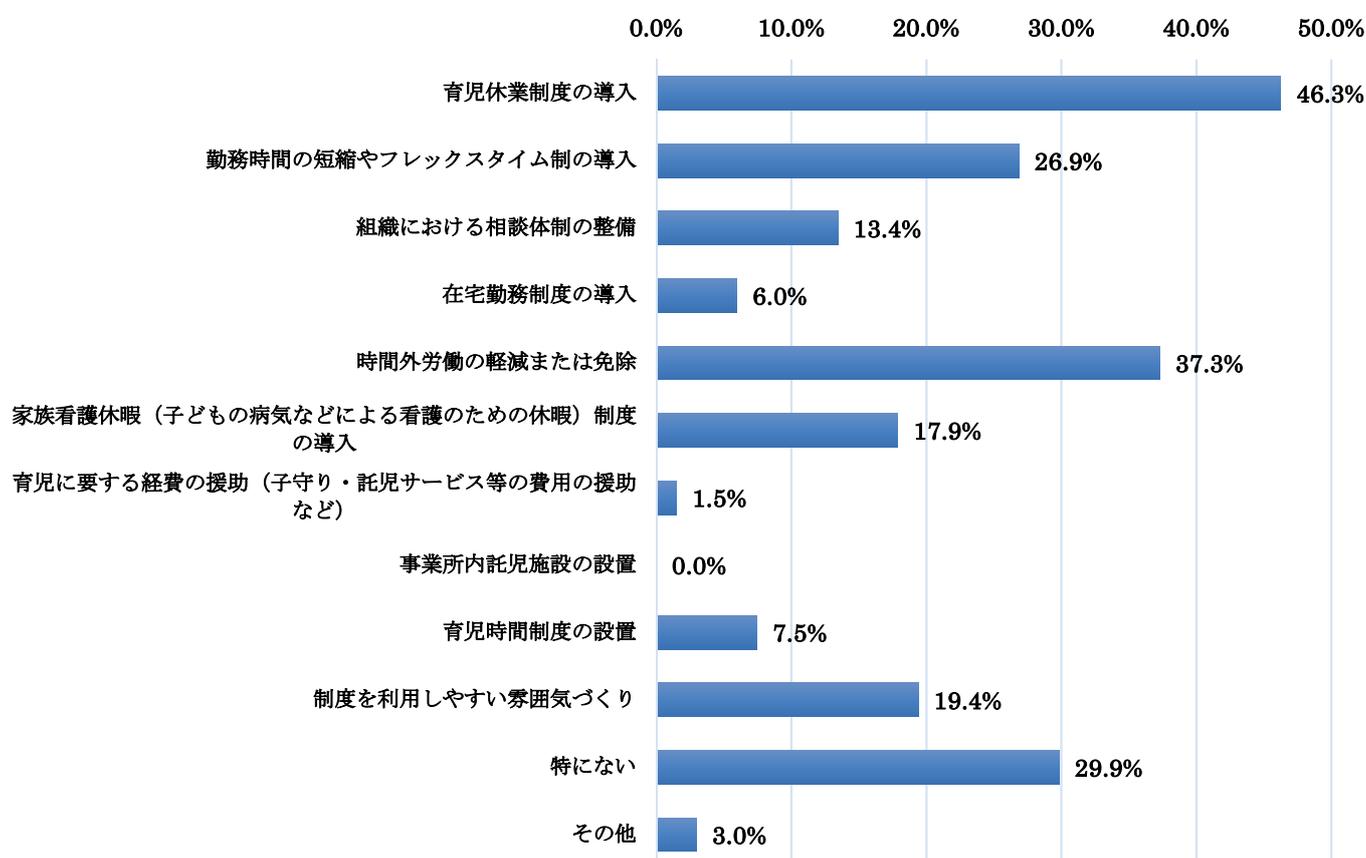
選択項目	今回		前回
	回答数	構成比	構成比
休業期間中の代替要員の確保が難しい	40	59.7%	56.9%
休業者の復職後、代替要員の処遇が難しい	11	16.4%	13.8%
休業中の事情の変化による休業期間の変更など、人事計画が立てにくい	0	0.0%	12.1%
休業者の周りの人の業務負担が多くなる	31	46.3%	34.5%
代替要員で務まらない性格の業務である、または代替要員では業務効率が非常に落ちる	2	3.0%	20.7%
制度を利用しやすい雰囲気がない	5	7.5%	1.7%
利用する人と利用しない人の不公平感がある	3	4.5%	3.4%
休業中の賃金等の負担が大きい	5	7.5%	12.1%
復職時に能力が低下している場合がある。	0	0.0%	5.2%
特にない	20	29.9%	31.0%
その他	0	0.0%	1.7%
無回答	1	1.5%	5.2%
計	118	176.1%	198.3%



問16 子どもの養育や家族の介護といった、家庭での責任を果たしながら働き続けられる環境づくりに関する取り組みはございますか。(あてはまるもの全て)

「育児休業制度の導入」が、46.3%と最も多く、次いで、「時間外労働の軽減または免除」が、37.3%となっている。

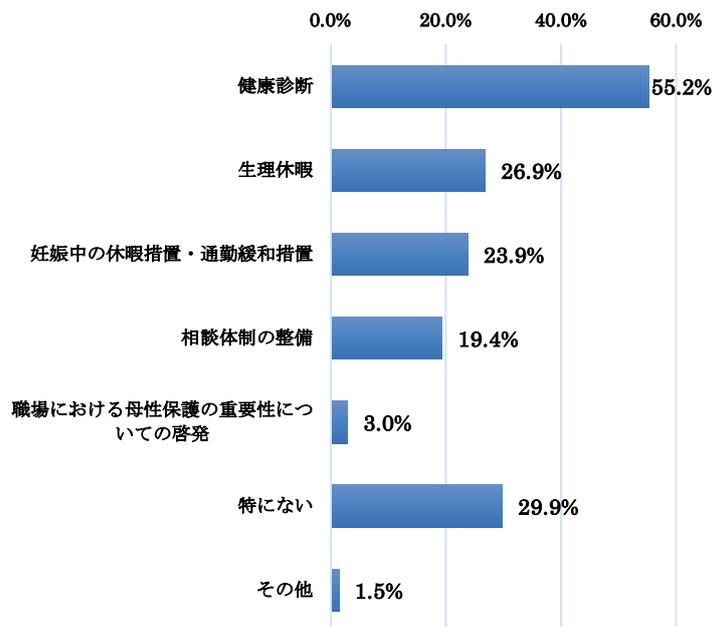
選択項目	今回		前回
	回答数	構成比	構成比
育児休業制度の導入	31	46.3%	20.7%
勤務時間の短縮やフレックスタイム制の導入	18	26.9%	12.1%
組織における相談体制の整備	9	13.4%	-
在宅勤務制度の導入	4	6.0%	1.7%
時間外労働の軽減または免除	25	37.3%	41.4%
家族看護休暇（子どもの病気などによる看護のための休暇）制度の導入	12	17.9%	24.1%
育児に要する経費の援助（子守り・託児サービス等の費用の援助など）	1	1.5%	1.7%
事業所内託児施設の設置	0	0.0%	3.4%
育児時間制度の設置	5	7.5%	1.7%
制度を利用しやすい雰囲気づくり	13	19.4%	15.5%
特にない	20	29.9%	34.5%
その他	2	3.0%	1.7%
計	140	209.0%	158.5%



問17 母性保護の観点からどのような配慮をされていますか。(あてはまるもの全て)

「健康診断」が55.2%と最も多く、次いで「特にない」が29.9%となっている。前回調査と比べ、「生理休暇」が9.7%増加している。

選択項目	今回		前回
	回答数	構成比	構成比
健康診断	37	55.2%	53.4%
生理休暇	18	26.9%	17.2%
妊娠中の休暇措置・通勤緩和措置	16	23.9%	30.1%
相談体制の整備	13	19.4%	-
職場における母性保護の重要性についての啓発	2	3.0%	10.3%
特にない	20	29.9%	29.3%
その他	1	1.5%	1.7%
計	107	159.7%	142.0%



問18 ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）を推進するために、必要なことは何だと思いませんか。(あてはまるもの全て)

「長時間労働の削減や業務効率の向上など、働き方の見直しを進める」が最も多く、43.3%となっており、次いで、「業務量に対して最適な人員を配置する」が38.8%となっている。

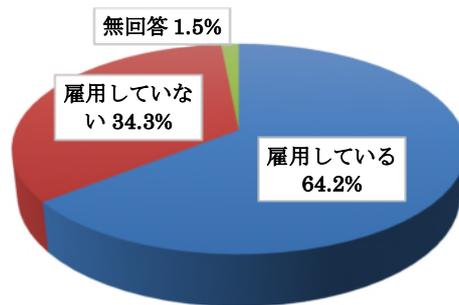
選択項目	回答数	構成比
事業主や従業員に対する研修を充実させ、意識改革を図る	15	22.4%
仕事と育児や介護との両立支援など制度の充実を図る	25	37.3%
事業所内で両立支援制度を利用しやすい雰囲気をつくる	24	35.8%
両立支援制度導入等に対する公的な資金援助を行う	10	14.9%
長時間労働の削減や業務効率の向上など、働き方の見直しを進める	29	43.3%
ボランティア休暇や自己啓発休暇制度などの導入を進める	4	6.0%
非正規従業員の処遇改善を図る	5	7.5%
保育や介護などの施設やサービスを充実させる	8	11.9%
業務量に対して最適な人員を配置する	26	38.8%
その他	4	6.0%
計	150	223.9%

(7) パートタイム等

問19-1 パートタイム等を雇用されていますか

6割以上の事業所で、パートタイムを雇用しており、前回調査より雇用している事業所は増加している。

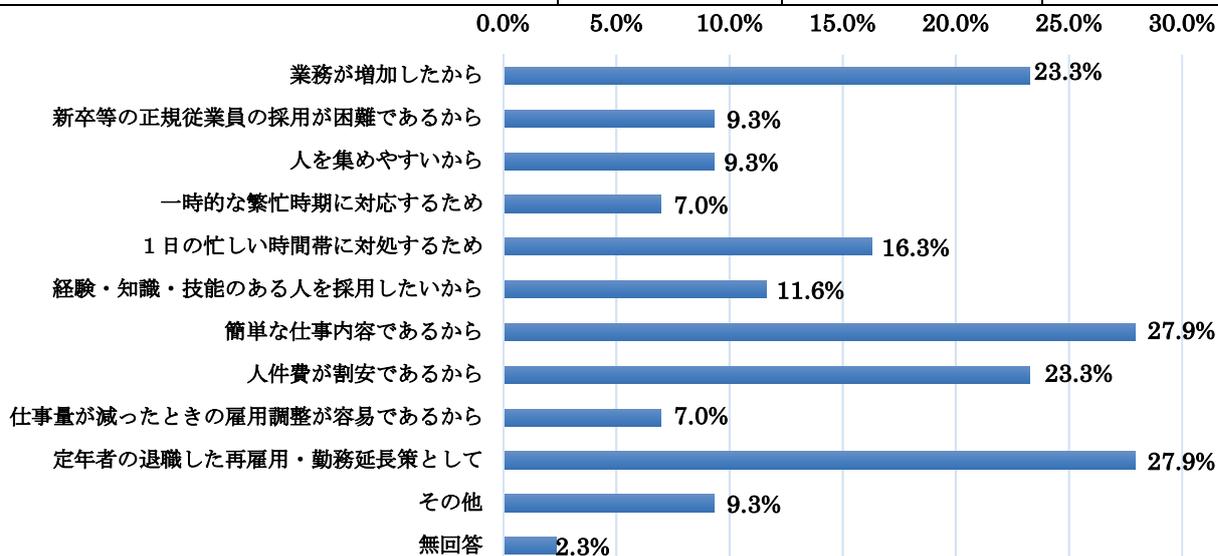
選択項目	今回		前回
	回答数	構成比	構成比
雇用している	43	64.2%	53.4%
雇用していない	23	34.3%	39.7%
無回答	1	1.5%	6.9%
計	67	100.0%	100.0%



問19-2 【「雇用している」を選ばれた事業所】雇用しているのは、どのような理由からですか。 (あてはまるもの全て)

「簡単な仕事内容であるから」、「定年者の退職した再雇用・勤務延長策として」が27.9%と最も多く、次いで、「業務が増加したから」、「人件費が割安であるから」が23.3%となっており、前回調査結果と比べると雇用する理由に変化が見られた。

項目選択	今回		前回
	回答数	構成比	構成比
業務が増加したから	10	23.3%	29.0%
新卒等の正規従業員の採用が困難であるから	4	9.3%	9.7%
人を集めやすいから	4	9.3%	19.4%
一時的な繁忙時期に対応するため	3	7.0%	16.1%
1日の忙しい時間帯に対処するため	7	16.3%	41.9%
経験・知識・技能のある人を採用したいから	5	11.6%	29.0%
簡単な仕事内容であるから	12	27.9%	25.8%
人件費が割安であるから	10	23.3%	22.6%
仕事量が減ったときの雇用調整が容易であるから	3	7.0%	12.9%
定年者の退職した再雇用・勤務延長策として	12	27.9%	6.5%
その他	4	9.3%	16.1%
無回答	1	2.3%	0.0%
計	75	174.4%	229.0%

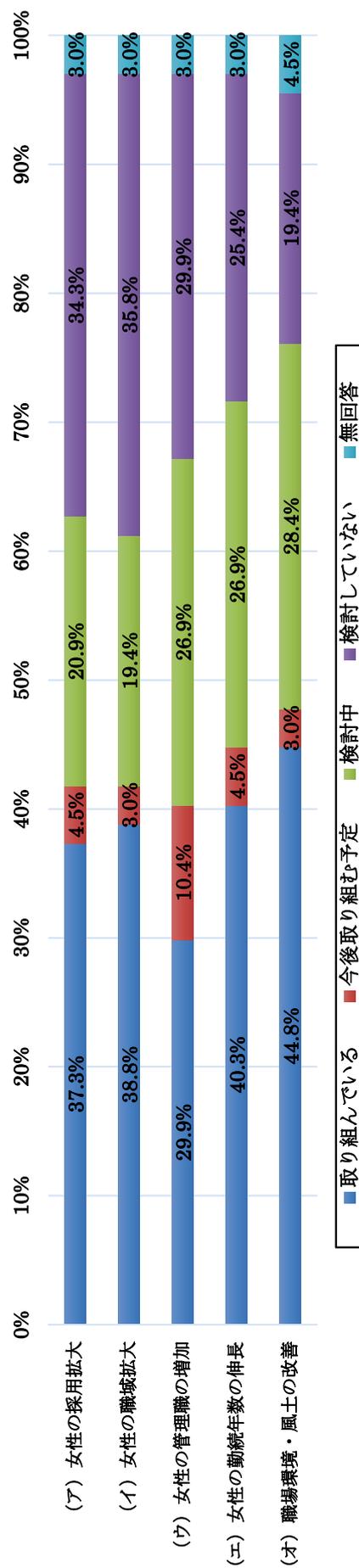


(8) 積極的女性の活用

問20 (ア)～(オ)は、男女共同参画社会基本法で定める「積極的改善措置(ポジティブ・アクション)」の取り組み例です。これらに関して、事業では、どのように対応されていますか。

「(オ)職場環境・風土の改善」では「取り組んでいる」が前回調査同様44.8%と多くなっている。また、「(ア)女性の採用拡大」、「(イ)女性の職域拡大」、「(エ)女性の永年勤続の伸長」についても「取り組んでいる」が増加している。

選択項目	(ア) 女性の採用拡大			(イ) 女性の職域拡大			(ウ) 女性の管理職の増加			(エ) 女性の勤続年数の伸長			(オ) 職場環境・風土の改善		
	今回		前回	今回		前回	今回		前回	今回		前回	今回		前回
	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比	回答数	構成比	構成比
取り組んでいる	25	37.3%	34.5%	26	38.8%	34.5%	20	29.9%	34.5%	27	40.3%	36.2%	30	44.8%	44.8%
今後取り組む予定	3	4.5%	10.3%	2	3.0%	10.3%	7	10.4%	6.9%	3	4.5%	8.6%	2	3.0%	6.9%
検討中	14	20.9%	17.2%	13	19.4%	17.2%	18	26.9%	20.7%	18	26.9%	13.8%	19	28.4%	8.6%
検討していない	23	34.3%	32.8%	24	35.8%	31.0%	20	29.9%	31.0%	17	25.4%	32.8%	13	19.4%	32.8%
無回答	2	3.0%	5.2%	2	3.0%	6.9%	2	3.0%	6.9%	2	3.0%	8.6%	3	4.5%	6.9%
計	67	100.0%	100.0%	67	100.0%	100.0%	67	100.0%	100.0%	67	100.0%	100.0%	67	100.0%	100.0%

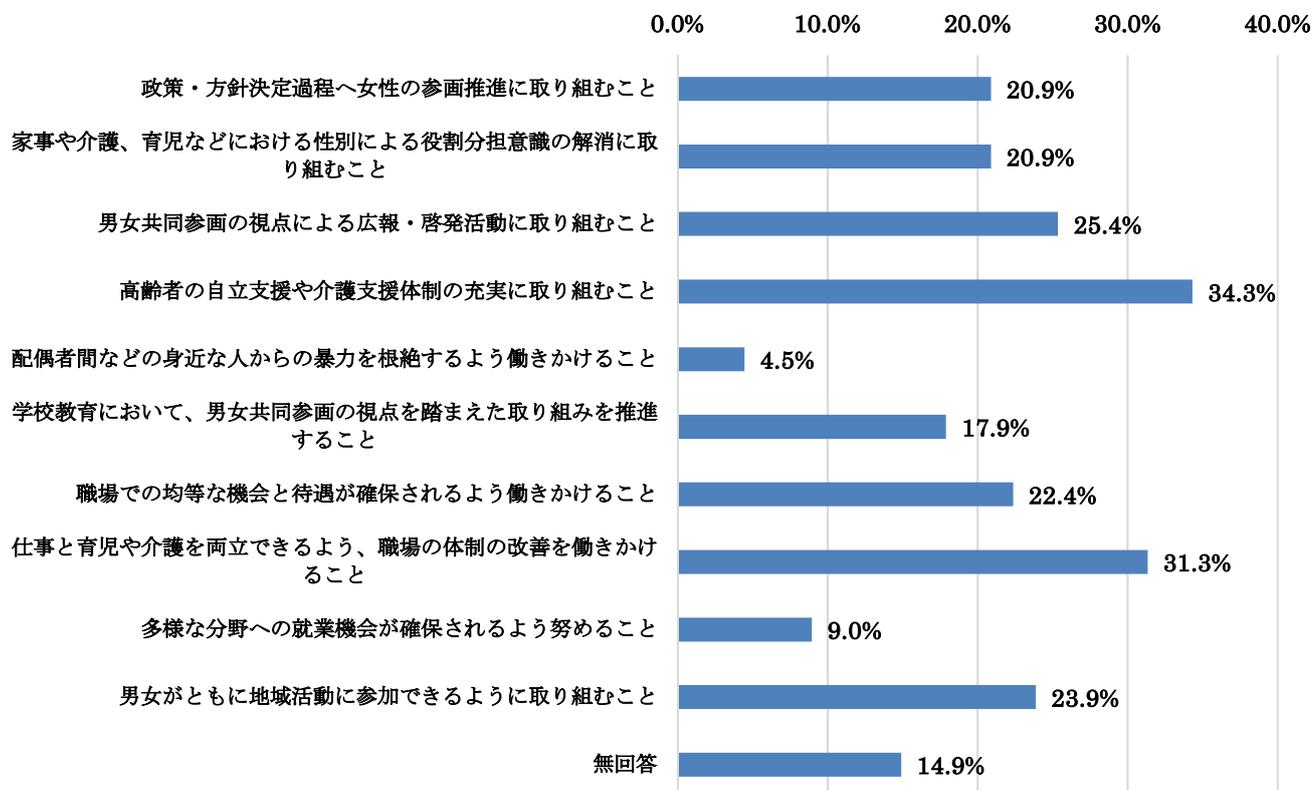


(9) 男女共同参画社会を実現するために必要な取り組み

問21 今後、利府町でどのようなことに最も力をいれていくべきだとお考えですか。(3まで選択)

「高齢者の自立支援や介護支援体制の充実に取り組むこと」が34.3%と最も多く、次いで「仕事と育児や介護を両立できるよう、職場の体制の改善を働きかけること」が31.3%となっている。前回調査と比較すると「男女共同参画の視点による広報・啓発活動に取り組むこと」が16.8%増加している。

選択項目	今回		前回
	回答数	構成比	構成比
政策・方針決定過程へ女性の参画推進に取り組むこと	14	20.9%	31.0%
家事や介護、育児などにおける性別による役割分担意識の解消に取り組むこと	14	20.9%	22.4%
男女共同参画の視点による広報・啓発活動に取り組むこと	17	25.4%	8.6%
高齢者の自立支援や介護支援体制の充実に取り組むこと	23	34.3%	46.6%
配偶者間などの身近な人からの暴力を根絶するよう働きかけること	3	4.5%	13.8%
学校教育において、男女共同参画の視点を踏まえた取り組みを推進すること	12	17.9%	27.6%
職場での均等な機会と待遇が確保されるよう働きかけること	15	22.4%	31.0%
仕事と育児や介護を両立できるよう、職場の体制の改善を働きかけること	21	31.3%	37.9%
多様な分野への就業機会が確保されるよう努めること	6	9.0%	31.0%
男女がともに地域活動に参加できるように取り組むこと	16	23.9%	24.1%
無回答	10	14.9%	5.2%
計	151	225.4%	279.2%



4. 男女共同参画社会についての意見、要望等

～個人編～

NO	意見・要望
1	<p>第3子、第4子の産後、1～2ヶ月のまとまった育休を取ってほしかったが、実際は難しく、心身共につらかった。新生児のお世話は初めてではないので、苦ではなかったが、上の子どもたちが情緒不安定になり、そのフォローができず苦しみました。夫と私と2人でもっとしっかり子供達のことを見てあげられたら、と、とても思いました。</p>
2	<p>制度、窓口があっても機能するか、しているかは別問題です。子供達が外で健やかに遊び、しっかりと成長できるようにサポート、高齢者が能力を発揮し、社会参加する仕組み機会をつくる事が、私達働く世代の人々にとっては必要かと思えます。</p> <p>給食費、子育て支援は有難いですが、子供の医療費助成も。しかし払うのは当たり前です。もっと全体的に広い視野にて町の税金を使い、無駄をなくしていただきたいです。</p> <p>図書館もっと使いやすくしてほしい。スペース（上部空間広く無駄が多い。）学習スペースが少ない。コロナ禍での完成であったと思うが、もっと何とかならなかったのでしょうか？これからも町の政策のために尽力をお願いします。</p>
3	<p>難しいテーマなので、先走りしないよう気を付けてほしい。</p> <p>民間企業への啓発は必要、家族間へは不要なのでは？各々の話ですし。</p> <p>町で役場内で取り組み、事例紹介の冊子を作り、民間へ落とし込んでみては？</p> <p>男女参画とボランティアのひもづけ？はやめてください。無意味です。</p> <p>このテーマより地域の活性化に取り組んで欲しいです。イオン付近の渋滞、なんとかしてほしい。近寄りやすい。</p>
4	<p>「男は仕事」「女は家庭を守る」このイメージはなくならないと思う。</p> <p>↑このイメージを持っている人にどんな働きかけをしていくのか知りたい。パパを集めて話をしてもどこまで伝わるかわからない。</p> <p>その家庭で実態や家庭の背景が違うので一概に何が正しいのか分からないし、それぞれの在り方でいいと思う。ただ、これからの将来、結婚や子育てをする人たちが「男は仕事」「女は家庭を守る」というイメージを変えることは出来ると思うのでぜひ頑張ってもらいたいと思う。</p> <p>父、母の背中を見て自分も現在家庭を持っているが、それぞれ育ってきた環境や経験、状況が違うのでそこをすり合わせるの難しいと思う。実際に悩んでいるところでもある。（家事の分担も共働きだし、1日の掃除の範囲やきれい度など、感覚が違うので難しいところだと思う。）</p> <p>結婚が女の幸せと決めつけるのは違う気がする。人の幸せは自分にしか分からないので、独身だから・・・とイメージをなくすことが大事だと思う。シングルマザーでも幸せと言っている人もいるし、別れて正解だったとプラスの人もいる。日本の人口の減少や少子化問題は深刻であるが、正直、私も現在2人子どもがいるが経済的に余裕がなく、3人目を諦めました。できれば3人育ててみたかったです。少子化が続くならば今いる未来ある子どもたちに小さいうちから習い事やたくさん経験が出来るよう支援してほしい。（幼稚園や保育園以外で）いろいろ大変な中、住みやすい町作りのためにありがとうございます。また協力出来ることがあれば力になりたいと思いますので、頑張ってください！！</p>
5	<p>この「男女共同参画社会」の問題点は2つに分けることができると思えます。</p> <p>1つ目は社会です。時代の流れに伴って、問題点も改善傾向にあることは皆さんもお分かりのことだと思います。社会は、会社等が存続し利益を追求するため進むしかありません。昔のような窓際族など存在しません。そこで頼るのは性別ではなく優秀な人材しかありません。このためその改善は徐々に進んでいます。2つ目は、家庭です。夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである。そこには仕事と子育てとの両立の難しさがあります。その中で男しかできない役割や女しかできない役割は実在します。互いに代役できる分については分散するという考え方でいかがでしょうか。そのような考えができる新社会人を育て上げるのがわれわれ仕事卒業組、シルバー年代の役割です。卒業組は、人のために役立つ手伝いをしたいのです。町には、昔ながらの考え方があるかもしれませんがお互い一生過ごす利府町民として一致協力し、他の市町民が憧れる、羨ましがられる町づくりに参加してみましょ。そのためには、向上的な考えをもっている利府町民をさらにより強くリードし推し進めるためには、役場のお力添えを切望します。</p>

NO	意見・要望
6	男女というネーミングがなんか古っぽくてイヤです。結局分けられている感じがします。
7	男女共同参画社会はこれからの未来を考えれば大事ですが、それにより、結婚、異性への付き合いに影響がない様にすることが大事。この問題を考える前に少子化の対策を考え実行する必要があると思います。
8	女の格差をなくしていくことは大切ですが、無理矢理女性を起用するというのも目立ちどんなものかと思うことが多々あります。時間がかかる事だとは思いますが才能のある方を見極めてトップに立たせてもらいたいと思います。また、性差というのがありますのでそれとのバランスは難しいと日頃から思っていました。小さい頃からの意識づけは大切だと思います。
9	男女には元々役割の違い（出産は男にはできないなど）があるので、そのためのインフラ（例えば保育施設の充実による待機をなくす）の整備は必須です。女性はこのことで悩んだり、心配することがない様なシステム基盤を作ることが大事です。その上で休み制度等が成り立てばスムーズに男女共同参画社会の実現が進んでいくと考えられます。この部分が現在、未だほとんど足りていないと思います。女性が働きたくても、この基盤が未充実なため、対応できないと思います。
10	女性が一人で生活するのには、男性に比べると給料が低いので考えていただきたい。（職業にもよりますが）
11	利府町内がここ数年でだいぶ変化したように感じられます。新しいお店が増え、人の往来が激しく活気が溢れてきました。住民も徐々に増加しているので、地域ごとに住民同士のコミュニケーションを図る機会が戻ってくるといいなと思います。コロナ禍でまだしばらく、活動の制限はありますが人と人とのつながりは「男女共同参画社会」にとっても大切なことだと改めて知りました。 学生の頃から豊かな人生を送るために、学校や地域で学び社会人になってからも先輩方・地域の方（様々な職種）のお話を聴く機会を設けたり、いろんな年代の方が働いたり、ボランティアができるような町になったら嬉しいです。
12	男女は同権ではあるが、性差（生物学的）は必ずある。妊娠、出産、育児において女性に多大な負荷がかかるのは事実。この時期の女性への支援、子育て支援の充実がよりよい社会を作っていくものと思う。
13	利府町内で多くの男女が働くことが出来るように企業誘致する。又、利府町在住の方を優先とした雇用促進をはかる。
14	男・女性との枠のない社会であってほしい
15	日本は外国に比べて未だに男女差別があり、とても残念に思います。特に高齢の方（男性）に多いです。子供の頃から、男性だから、女性だからという観念を無くした教育をしていけば、徐々に解消できるのではないかと考えます。身体的な事を含めると、必ずしも同等には出来ないかと思いますが、臨機応変に対応した政策・方針を願います。
16	今までは地域活動に参加していなかったので、これからは積極的に参加していきたいと思います。女は家庭といったことは改めてもらいたいです。家事の事は今まで自分ひとりでやってきましたが、だんだん体力に自信がなくなり大変で心、メンタルがやられてしまいました。夫には家事のこと、手伝ってもらいたいと言えない自分がいて葛藤する毎日です。夫にちゃんと話をし、はっきり言わないと伝わりません。色々ありましたが、今までは、何も出来ない夫でしたが、現在ではお互い協力して、無理しないでやっております。男とか女とか関係なく尊重しつつ、お互い思いやりを持って発揮できると良いと思います。
17	男女共同参画社会って何なのかまったく分かりません。何を目標としてどうしたいのでしょうか？男女というより各個人を大切にしなければいけないのではないですか。

NO	意見・要望
18	利府町は働く場所が少なすぎる。あったとしても昔の考えばかりで女性が活躍している所が病院くらいしかない。まずは住みやすい街づくりをしてから上記を考えた方がいいのでは？
19	<p>今まで育ってきた過程による意識が根強く残っている。（傾向）高齢の方ほど強く、若年層は社会のあり方や教育、家庭のあり方が変わってきているため「男女共同参画」の意識は多少はあると思う。でも実行するのは本人の意志。</p> <p>まだ完全、というわけではないが、少しずつ意識は高くなってきている印象はある。10年前と比べると浸透してきている。実際、女性の管理職は増えてきていて、お会いする機会が多くなっていると思う。しかし家庭でのサポートの方は周囲の目には映りにくいので、男性側の意識がどの程度あり、行われているのかは疑問。社会進出する女性が増えているが、男性のサポートはそれほど多くないように思う。子育てと仕事に追われている同僚をよく見かけるので。仕事中心。ワーク・ライフ・バランスのとれた生活を送れたら、と常々思っている。そのために必要なことは何だろう？と思う。</p> <p>おつかれさまです。とても難しい問題だと感じています。小さい頃からの教育による所も大きいように思っています。よろしくお願ひいたします。</p>
20	<p>自分達の子供達は、学校で男の子でも「さん」と呼ばれたり、家庭科の授業も裁縫や調理実習（コロナ以前）も多くやっているようです。現在の高齢者の方々に「男女共同参画」と言っても無理だと思う。子供達が成人するくらいには、今よりも男女平等の時代がくるのではないのでしょうか。</p> <p>20代の若いお父さん達も子育てに積極的だと思う。私は医療従事者ですが、お父さんが病院に連れてきたりしますし、症状など聞いてもしっかり答えてくれます。普段から子供のことをよく見ているんだなあとこちらが感心してしまいます。</p>
21	介護、育児への公的支援の充実、利用のしやすさを求めます。
22	<p>やはり年代が上がるにつれて、女は家庭、男は仕事などの考え方が強いと思います。（会社、地域さまざまな場面で）</p> <p>年代が上の人への理解活動も必要ですが、これからの時代を担う子どもたちへの教育等でより男女共同参画社会について学び、理解してもらうことで将来的に実現できるのでは、と思います。</p> <p>リモートワークの参入により、男性も家にいる機会が多くなっている人もいると思うので、広報紙などで、リモートワークや男性の家事育児への参加の様子などを記事にするのも良いかと思います。</p>
23	<p>全国的に女性の社会進出、男性の育休が進んできているとは思いますが。女性が社会に身を置きたい気持ちはあっても、出産という大イベントがある限り、子供に関わる時間は男性よりも多くなってしまおうと思います。</p> <p>今の小・中学生は昔と違い、技術家庭の授業は男女合同で受けたり、中学校でも技術体験があったりと、男女問わず、仕事についての意識は高まってきていると思います。</p> <p>「男女共同参画社会」は時間はかかるとは思いますが、徐々に変化はあらわれると思います。</p>
24	「男は仕事・女は家庭」という考えは、あながち間違いではないと思う。学校から帰宅した時、おかえりなさいと親から出迎えてもらえないのがさみしいという声を、実際に子供の友達から聞いたことがある。
25	<p>私は利府町で生まれ、利府町で育ち、来年春利府町を巣立ち就職します。初めて利府を離れます。学生の頃、合唱コンクール用のホールが欲しいと思っていたら卒業して「リフノス」がやっとでき、成人式を「リフノスの大ホール」でやりたかったが完成に間に合わず残念でした。が！！私は子育てをぜひこの利府町でしたいと思っています。私が自然で囲まれたこの利府町の環境で育ったように！！</p> <p>一つ、葉山の環境整備について 交通の不便→小型バス、タクシー等の町民のみ対応の便利必要（いつまでも車運転できないし子育て中は乗り合いがいい） 土地の活用→利府町にないもの、それは「遊園地」です！！外で！！元気に！！八木山ベニーランドまではいかないが町民のみ使用でもいくらいのあまり大きくなくてもあまり小さくない場所、あったほうがいい！！</p> <p>二つ、子育てばかりではなく大人～老後まで元気に過ごす町づくりとして声をだして元気に！！「カラオケ店」が必要です。</p> <p>私がぜひ帰ってきたい町に何年後かにしてて下さいね。利府町に期待します！たのしみにしています。</p>

NO	意見・要望
26	雇用においては会社に必要な人材を選ぶのであって、性別で判断するものではないと考える。結果として、偏りがでてしまうかもしれないが、それは「能力がなかった」「必要な人材でなかった」という判断に基づくものであるから、批判されるべきでない。また、地方公共団体などに強制されるものでもないだろう。
27	この調査によって「男女共同参画社会」について改めて考えるきっかけとなりました。がんばりましょう。自分も取り組めることに取り組みます。
28	貧弱な広報活動しかできず、介護や育児、いじめなどの問題に一辺倒な対応しかできない行政にたよることは何もない。 画一的な価値観を押し付けることなく、働くことと同時に働かない社会に出ないという選択も認められるような社会であってほしい。
29	育児休業など法律が整備されていても会社が小さかったりすると、結局その法律が利用出来なかった。私が20年前に産休、育休を取得しようとしたら、上司に「その間に誰かを雇って育てた方が会社としては楽なんだ」と言われ、やめるはめになりました。
30	町長自らが中心となり、町全体で取り組んでいる試みはすばらしいと思う。ぜひ、これからも、積極的に推進していただきたい。 特により身近な家族、職場、町内会地域等で意識するような取り組みを行っていければ、派手ではないが住みよい町になっていくと思う。
31	子どもの頃からの教育、家庭での教えが必要と思う。大人になって急に教えてもどうか？と思うし、すぐには身につくものではないと思います。
32	家庭での家事の分担ができなければ、企業が男女平等に仕事を任せても女性に負担が大きくなるだけだと思う。男性の意識を変える事、それと同じ位、女性の意識を変えるべき。女性自身も夫が働いてくるべきだと思っている面があると思う。賃金の問題もあるから仕方ないかもしれないが、女性はもっと自分の能力をいかして働いた方がいいと思う。 男女平等は大切だと思うが男の方が力があるし、女性には難しい仕事もあると思う。何でもかんでも男女平等にはならないと思う。
33	性別に関係無く、各個人の望みや適性を的確に判断でき、学校や社会への最適方向へ導く仕組みが必要だと思います。その上で男女平等視点で捉えられると良いんですけどね。（←利府町に限った事でなく、全体的に）
34	会社で女性に聞くと、男性と同じように管理職になりたいという人は少なく、役職に就かなくても安定して、転勤などの無い仕事を希望している人が多いという現実もあると思う。 制度を作るのは良いが、どのくらい女性を役職として置かなければならないのか制度化することが本当に平等につながるのか、あるいはプレッシャーを与えてしまうのではないかなど全てを肯定していいの
35	法律等がつくられていますが、組織に残る男性社会の圧力？あまくだり？というようなものが残っているんだなと感じます。 また、労働内容が多すぎて、男性も女性も子育ての時間、家族と過ごす時間がとれず、ギスギスしています。労働時間を減らしても、仕事内容は変わらないので精神的に辛くなる。ゆとりのある仕事が行えるようになるといいなと思います。
36	いつも大変ご苦労さまです。 私は昭和の人ですので、嫁が義母を介護するのはあたりまえと思家で21年間介護をしてきました。大変とは思わなかったし、逆にかわいそうでした。好きで病気になるわけではありませんし、いずれ自分もお世話になる事もありますので、しかしながら、やはり男女関係なく、これからの人は仕事しながら自分の時間ももてて、人生働きながら楽しみもあり生きて欲しいと思います。でも世の中本当良くなり、今は町の力で色々助けてもらえるようになりました。ありがたい事です。 これからの若い人達が少しでも働きやすくなるよう心から応援たく思います。利府町に住んでいて良かったです。町も発展してきていますし、益々の利府町の発展を心よりお祈り申し上げます。乱筆乱文にて申し訳ありませんでした。ありがとうございます。
37	I O C会長を首になった元総理大臣の発言に見て取れる、男尊女卑意識と島国根性が根底に有る。メディアを活用し、多いに啓蒙すべし。

NO	意見・要望
38	幼児期の子育ては必要な時に母乳を与えられる母親が行うのが自然であるように、男女の平等といってもどうしても右か左か白か黒かの事であり、男女の異を考慮した上での平等であるべきである。
39	もっと広く周知すべきである
40	男だから〇〇すべき、とか女だから〇〇でなくてはならない、という考え方は今どき古いですが、男性性、女性性、それぞれに固有の優れている特性があると思います。劣っている点も含め補い合っていく社会であればいいと思います。「女性だから」というだけで優遇されるようなこともおかしいと思います。レディーファーストは何だろう・・・？妊婦さんなどは別ですが、「女性はか弱くて守ってあげなければならない存在」という考えが根強くあるからでしょうか・・・。今の女性は強いと思います…
41	私もそうですが、育っていく過程で、これは男の仕事、女がこんな事をしてはいけない、という育ち方をしているの、子供の頃からの教えられ方がすべてだと思います。男の方がうまくいく事と女の方がうまくいく事があるのですべてにあいて男女共同がいいかは少し問題があるかもしれませんが、人として、やれる事はできるだけ男も女も関係なく取り組む、教育していくべきだと思います。やはり教育問題からではないかと思います。
42	法律や制度で男性が優位だった部分は是正されているが女性が優位な部分はそのまま残されている
43	ある程度の強制力を講じたほうが良いと思う。
44	子供が小さいうちは母親と一緒に過ごせる環境がいいと思いますが、夫の給料だけでは生活できないのが現状ではないかと思います。夫は朝早く、夜遅くまで働いて母親が子供の面倒を見る。私が働き始めたのは夫の働き方改革で給料が激減したため、子供達を預け仕方なく働くことに。妻の給料は生活になっています。働いた所で時給も安く食べたい物も食べられない感じです。会社によって給料の差がありすぎではないかと思うところもあります。大学の奨学金を借り、預金はまったくありません。先が不安でしかありません。アンケートをとるのなら、少ない声を活かして欲しいです。
45	家庭生活において男の人も、自分から協力してくれるようになってほしいです。
46	闇雲にただ女性を同じ土俵に挙げれば良いという安直な考え方では先が思いやられます。個々の個性や能力を鑑みる必要があるので、やっぱり教育が先なのかなあ？社会の構造・慣習の改革が先なのかな悩ましいです。
47	成人してしまうとどうしても意識を変えていくのに時間がかかったり固定概念をなかなか変えられない(変えることに時間がかかる)と思うので、これからの子供に対して小学校、中学校から教育でさらに取り組んでほしいと思います。 例えば長寿祝金は高齢者増加で現状を継続するのは現実的ではないと見ています、段階的に無くすようにしてこれからの子供に対する男女共同参画の教育に予算を変えていってほしいと思います。 1人の老人の老後を支える子供の数が増える想定は難しいので男女共同参画は必須な中、柔軟な考えを持てる子供のうちから意識改革することの有意性を考えるべきだと思います。
48	女性が社会や政治に進出することで、様々な変革がもたらされるように、男性が介護や子育て、家庭の分野に主体的に関わることでもたらされるイノベーションがあると思う。例えば液体ミルクのように。男性女性双方にとって扱いやすい製品やサービスは、社会全体のユニバーサル化、快適さを推し進めると思う。

NO	意見・要望
49	私は子供がいないので、姉のことを書かせていただきますと... 出産は女性にしかできないものであり、どんなにパートナーの協力があっても、育児について女性の負担が大きいのは仕方がないと思います。その上で、仕事と家事は男女平等の名のもと、激務に追われています。ただ単に労働力の確保の為、聞こえのいい男女共同参画を謳っているようにしか思えません。男女共同参画とはまた別の問題なので、アンケートの設問にそぐわないのですが、日本の働き方は今の時代に全く合っていませんね。
50	多くの人が大学に進学する世の中になり、高い授業料を払ったのだから、当然卒業後は就職を目指す。定年まで仕事をしたいと思う女性と早期退職を視野に入れてとりあえず働く女性に大別した場合、真の前者はそこまで多いとは思えない。後者はそもそも仕事に注ぐエネルギーが少ないのだから、そういった者達の意見に振り回されて社会の仕組みを変えようとするのは反対である。“女性や子供の為！”というの聞こえが良く万人受けするのはわかりますが。
51	何事にも男女の区別なく加入や参加できること、古い考えを捨てることが大事だと思う。
52	子育ては妊娠出産授乳があり、これは男女同じにはならない。職業面で平等にばかり力をいれられると、妊娠出産育児と仕事を両方こなすことになり、そこに分担できてもさらに家事も加わり、結局は女性の負担が大きい。私は、ある程度は自分で育てたかったこと、育休期間にとらわれずに第2子以降の出産をしたかったこともあり、出産を機に退職した。近年中にまた少しずつ働けそうではあるが、この様な働き方をすると、退職せずに育休のみで仕事を続けた人と生涯収入に1億円差が出る。祖父母のフォローがあって育休後の復帰ができる人と、実家をあてにできずに育児する人との間にできているこの差に、いままさに平等ではない社会を目の当たりにしており、せめて出産と育児がひと段落してからの復帰の道が拓かれればと考えている。仕事を完全に離れて出産育児に専念しても、収入に不安なく、また働く将来に選択肢が増えれば、少子化や労働者不足解消にもつながり、出産を選んでも社会に戻るようになれば、女性も平等に働けると思う。
53	職業にもよるが、どう頑張っても所得で考えたら男女に差が出るのは当然なのだから、別に同じ待遇は望んでいないと思う。ただ出産はどうしても女性しかできないこと。だから女性が働きやすいよう逆を言えば何人も生みたくなるような、休んでも余裕が出来るように旦那さんが奥さんが産休育休中は手当てが出るとか、企業も産休育休の職員を認めたら、企業に手当金を国が出すとかすれば、社員も企業にお願いしやすいと思う。私も産休育休利用して職場復帰したが企業側はいつ休まれるかむしろまた出産になるか気が気でないと思う。お金で解決するとは思わないが企業はそれがあるだけでも違うと思う。産休育休利用した女性にもっと意見や改善策を聞くと良いのではないのでしょうか。たぶん男性の国、県、市町村のお偉い方が考えたって何も意見や改善方は出てこないと思う。国民年金出産前後免除されたって変わらない。やるなら育休産休の値する月とかにしたらもっと働きながら出産し職場復帰したもう一人産もう……と考える余裕がでるはず。
54	子供が熱を出せば保育所に預けられず会社を休むのは女性になることが多い。男性が休むことも受け入れられるべきだと思うし、海外のようにベビーシッターがもっと普及したら良いのと思う。
55	男女と言うよりは人間が人間として生まれて生きて良かったと思える様な社会になれば良いと思います。一生懸命な人が報われる社会になると良いと思います。
56	女性は結婚し子どもを産む時、仕事をしていた場合必ず産休や退職をしなきゃいけないため、男性と職場での待遇等の差が出てしまうのは正直仕方がないことだと思います。
57	子育て中のママさん限定などの求人があれば仕事に戻りやすいのではないかと？
58	男女共同参画社会を実現するためには、一人一人がこの意味を理解し、意識をより良い方向に変えていかなければならない。その為には、子供の時から学校等で少しずつ知識を与え、自然と身につくようにしていくと良いと思う。また、男性のお弁当作りや学校行事、子供会への積極的な参加を促す為にも、町として、男性のお弁当作り教室や子供会、学校行事に参加した方のメッセージを広報紙に載せる事などして頂きたい。
59	介護、育児への公的支援の充実、利用のしやすさを求めます。

～企業編～

NO	意見・要望
1	<p>当事業所は小規模企業ですが、ひとりひとりの従業員が自分に合わせて業務が推進できるように、そして会社の一従業員としてもひとつの仕事に皆で取り組んでいけるように機会のあるたびに話しております。そういうことでも今の世の中で求められている男女共同参画社会づくりにもつながっていくのではないかと考えています。</p>
2	<p>人手不足の昨今、企業としては雇用の確保が重要課題となっております。従業員に長期的に働いてもらうためには、育児や介護はつきまとうものと考えています。従業員が何のために働くかという、家族や生活の為に答える人が多いと思います。又、仕事と家庭生活の両立、スイッチをオンとオフに切り替える事をしないと長続きしないと考えています。</p> <p>男女関係なく、生き活きと働いていただく事が会社の願いで「やりがいのある仕事」「働きやすい職場環境作り」「チームワーク良い仲間作り」が自然と男女共同参画社会につながっていくのかなと考えています。</p> <p>性別はまったく関係なく、実力重視しております。</p>
3	<p>共同では無く、共有する事が大切なのでは？男女平等には達成感しか感じない。互いに救い合い支え合えば良いのでは？</p>
4	<p>利府町が子供を育てやすい環境を創り、両親が共働きでも生活していけるように考えて下さい。</p>
5	<p>職場が特殊なのでアンケートに答えるにはどれもあてはまらなかったのが失礼致しました。</p>
6	<p>役所が取組んでいますと云うと問21のような硬直的なものになりがちである。自由に柔軟に町民一人一人の希望なりを受け止めそこを助けるしくみやわらかく作るのがいいのではないかと考えています。</p>
7	<p>全てにおいて男女平等というのはやはり難しいように思いますが、女性の働き方を支援するためにはやはり男性を含めた全体の働き方を見直す必要があると思います。</p>
8	<p>基本的には助成金（企業向け）がなければ大きな前進はないと思います。意識はどの企業にもあると思いますが、インセンティブやメリットがなければ具現化していくことには消極的にならざるを得ません。</p>

男女共同参画参画に関する住民意識調査結果

項 目	目標指標	平成22年度	平成25年度	平成27年度	令和3年度
目標指標1 1. 「男女平等」の意識を高めます。 ・「家庭生活」における平等感	50.0%	39.0%	46.6%	43.8%	41.3%
・「職場」における平等感	40.0%	24.2%	26.8%	25.0%	32.6%
・「社会通念」における平等感	30.0%	15.7%	11.5%	17.8%	35.2%
・「社会全体」における平等感	30.0%	16.6%	14.6%	15.5%	12.6%
2. 「男女共同参画社会」の認知度を高めます。	70.0%	35.6%	33.2%	33.7%	17.0%
3. 利府町男女共同参画基本計画の認知度を高めます。	70.0%	18.5%	11.4%	13.5%	4.8%
目標指標2 1. 家庭における役割に対する男性の関わりを増やします。 ○夫・夫婦・家族の合計	30.0%	17.0%	23.1%	21.1%	27.3%
目標指標3 1. 町のすべての審議会等へ女性委員を登用します。 (女性委員のいない審議会等)	100.0% (0委員会)	83.8% (6委員会)	91.4% (5委員会)	94.5% (2委員会)	92.9% (2委員会)
2. 審議会等における、女性委員の割合を増やします。 ○女性委員の構成比	40.0%	19.3%	24.2%	25.5%	31.3%